男性にとっても 生きやすい
社会づくりをめざして

～男性の市民意識調査報告書～

㈶松山市男女共同参画推進財団

は じ め に

松山市では、男女共同参画社会の実現をめざし、平成12年（2000年）２月に、男女共同参画の推進拠点となる松山市男女共同参画推進センター、愛称コムズを開設しました。以来、実際にセンターの管理運営を担う私たち(財)松山市男女共同参画推進財団は今日まで､自主的な市民活動の支援、男女共同参画社会づくりのための交流・ネットワークづくり、学習機会や情報の提供、また女性問題や男女の自立促進に関する相談等を通じ、その基盤づくりに努めてまいりました。

しかし､全国各地でそうした取り組みが行われてきた中､近年になって､とりわけ『男性にとっての男女共同参画』が進んでいない現状が取り沙汰され、平成22年（2010年）12月、国の第３次男女共同参画基本計画に対策強化の方針が盛り込まれました。本市におきましても、同様の状況が見受けられたことから、男性の意識や生活実態をしっかりと把握し、今後の事業展開へと活かしていくため､今回､男性への市民アンケート調査を実施､調査結果を分析し、報告書にとりまとめたものです。

本調査研究の結果が、当センターが実施する各種事業等に反映されることはもとより、各方面での男女共同参画推進の取り組みの一助となれば幸いです。

最後に、本調査研究にご尽力いただきました検討委員の皆様、アンケートにご協力をいただきました多くの市民の皆様に心から感謝申し上げます。

平成25年3月

㈶松山市男女共同参画推進財団

目　　次

第１章　調査の概要 …… 1

第２章　調査の結果と分析・考察

１．回答者の属性について（問１～問12)…… 3

２．生活の満足度について（問13)…… 13

３．性別役割分担意識について（問14)…… 18

４．一週間の労働時間と仕事の意義について（問15，問16)…… 27

５．家事や育児について（問17～問20）…… 32

６．介護について（問21～問23）…… 41

７．配偶者との会話について（問24)…… 44

８．余暇の過ごし方について（問25)…… 47

９．悩みについて（問26～問29）…… 53

10．男であることのつらさについて（問30)…… 58

11．男女共同参画に関する意識について（問31～問33）…… 60

12．松山市男女共同参画推進センター・コムズについて（問34～問36）…… 64

13．自由記述 …… 68

第３章　付属資料

１．「男性の市民意識調査」調査用紙…… 71

２．「男性の市民意識調査」数値表…… 87

第１章　調査の概要

１．調査の背景・目的

平成22年12月、「第３次男女共同参画基本計画」が閣議決定された。第３次基本計画では、男女共同参画の裾野を広げるために、男性やこれからの時代を担う子ども・若者世代に積極的にアプローチをするとし、男性にとっての男女共同参画推進についての対策強化が盛り込まれている。こうした方針が打ち出された背景には、国連の地位委員会においても、男性は男女共同参画社会の形成に向けて積極的な役割を果たすべきであると指摘されたことがある。男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、個性と能力を発揮することのできる男女共同参画社会の形成は、日本の社会にとっても、男性にとっても喫緊の課題であり、男性がより暮らしやすくなるためのものであることを男性自身に理解してもらうことが重要であるとの認識を改めて強調している。その上で、男性自身の男性に関する固定的性別役割分担意識の解消を図るとともに、長時間労働の抑制等働き方の見直しにより、男性の地域生活や家庭生活への参画を推し進めるとされたのである。

男女共同参画社会は、女性にとっても男性にとっても生きやすい社会であり、女性のためだけに推進施策が進められてきたわけではないが、これまでの取り組みを振り返り、男性にとっての男女共同参画が十分に進まなかった理由として次の２点が挙げられている（「第３次男女共同参画基本計画に向けて（中間整理）」（平成22年４月）。

⑴少子・高齢化等の変化に対応するため、男女共同参画社会の形成が不可欠であるという認識が醸成されていない。特に、男性の多くは、男女共同参画を「女性の問題」あるいは「家庭や職場の男女間のささいな問題」ととらえ、「自分の問題」「日本社会に大きな意味をもつもの」との認識がない。

⑵働き手や稼ぎ手は男性で、女性は家庭を守る又は家計の補助的に働くという固定的性別役割分担意識が男性により強く残っている。このことが、男性の長時間労働や、育児休業を取得することについての遠慮や周囲から理解を得られないことにつながっており、家庭生活や地域生活に関わることが、本人が望む場合にも困難となっている。

松山市でも、豊かで活力ある男女共同参画社会を実現するため、平成15年に「松山市男女共同参画推進条例」を制定し、平成17年には「松山市男女共同参画基本計画」及び「松山市男女共同参画事業実施計画」を策定した。そして、これまでの取り組みに関して、一定の成果はあがっているものの、依然として「政策・方針決定過程への女性の登用」が目標に達していないことや、地域の中で女性の参画が進んでいないことなどの課題も踏まえ、これまでの取り組みを一層加速させるため、平成23年３月「第２次松山市男女共同参画基本計画」を策定し、その中で男性にとっての男女共同参画を推進するための施策の強化も打ち出した。

当財団では、「松山市男女共同参画推進条例」が制定された平成15年にいち早く「男性の意識や行動」に焦点を絞った調査を実施している。“男性自身がどのように考え、どのように行動しているのか”や、“男性の態度や行動を女性たちはどのように受け止め、どのように行動してほしいと望んでいるのか”を調査し、その結果として、男女間にある意識の違いや、その違いがもたらすパートナーシップ構築の阻害要因を明らかにするための調査であった。そして、今回、男性にとっても生きやすい社会づくりのためには、実際にどのような施策が必要であるかを探るために、改めて男性を対象としたアンケート調査を実施し、内閣府が実施した調査の結果（「『男性にとっての男女共同参画』に関する意識調査報告書（平成24年４月）」）とも比較検討した。男性の働き方、育児や家事、介護に対する意識と生活の実態等を把握し、その結果から見出されたことを、男女共同参画社会づくりに向けた政策立案の

検討や具体的事業を展開する上での基礎資料としていただければ幸いである。

２．調査の設計

（1）母集団　　松山市在住の20歳から60歳代までの男性
（2）標本数　　4,000人
（3）抽出法　　住民基本台帳より無作為抽出法にて抽出
（4）実施時期　　平成24年２月
（5）調査方法　　送付、回収とも郵送による
（6）調査項目　　・回答者の属性について（12項目）
・生活の満足度について（１項目）
・性別役割分担意識について（１項目）
・一週間の労働時間と仕事の意義について（２項目）
・家事や育児について（４項目）
・介護について（３項目）
・配偶者との会話について（１項目）
・余暇の過ごし方について（１項目）
・悩みについて（４項目）
・男であることのつらさについて（１項目）
・男女共同参画に関する意識について（３項目）
・松山市男女共同参画推進センター・コムズについて（３項目）

３．調査票の回収結果

調査標本数　　4,000人
有効回収数　　816人
有効回収率　　20.4％

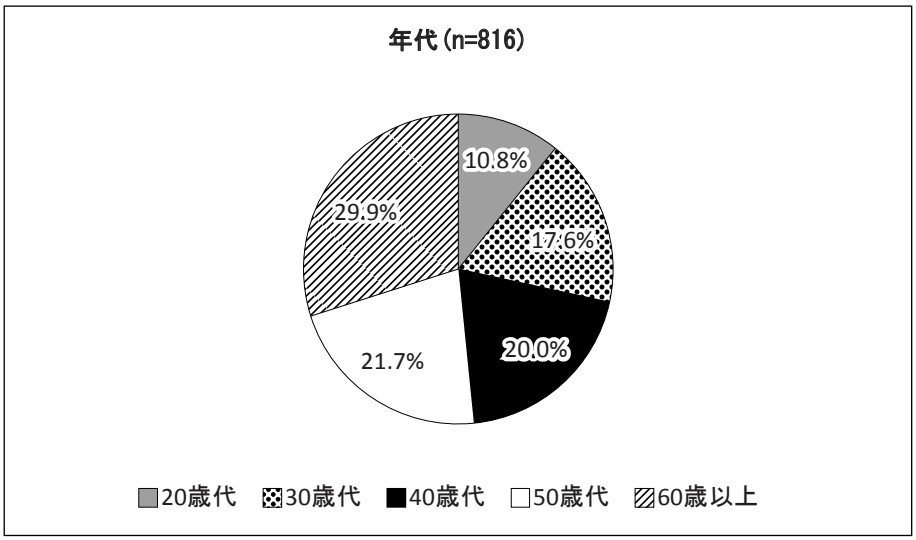
４．アンケート検討・分析委員

門田　誓　（松山商工会議所 専務理事）
○桐木　陽子　（松山東雲短期大学 教授）
堀田　真奈　（特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ 代表）
前田　眞　（特定非営利活動法人 まちづくり支援えひめ 代表理事）
宮崎　幹朗　（愛媛大学法文学部 教授）
山本　克司　（聖カタリナ大学人間健康福祉学部 教授）
鎌田　サチ子（松山市男女共同参画推進センター 館長）
○印　委員長

第２章
調査の結果と分析・考察

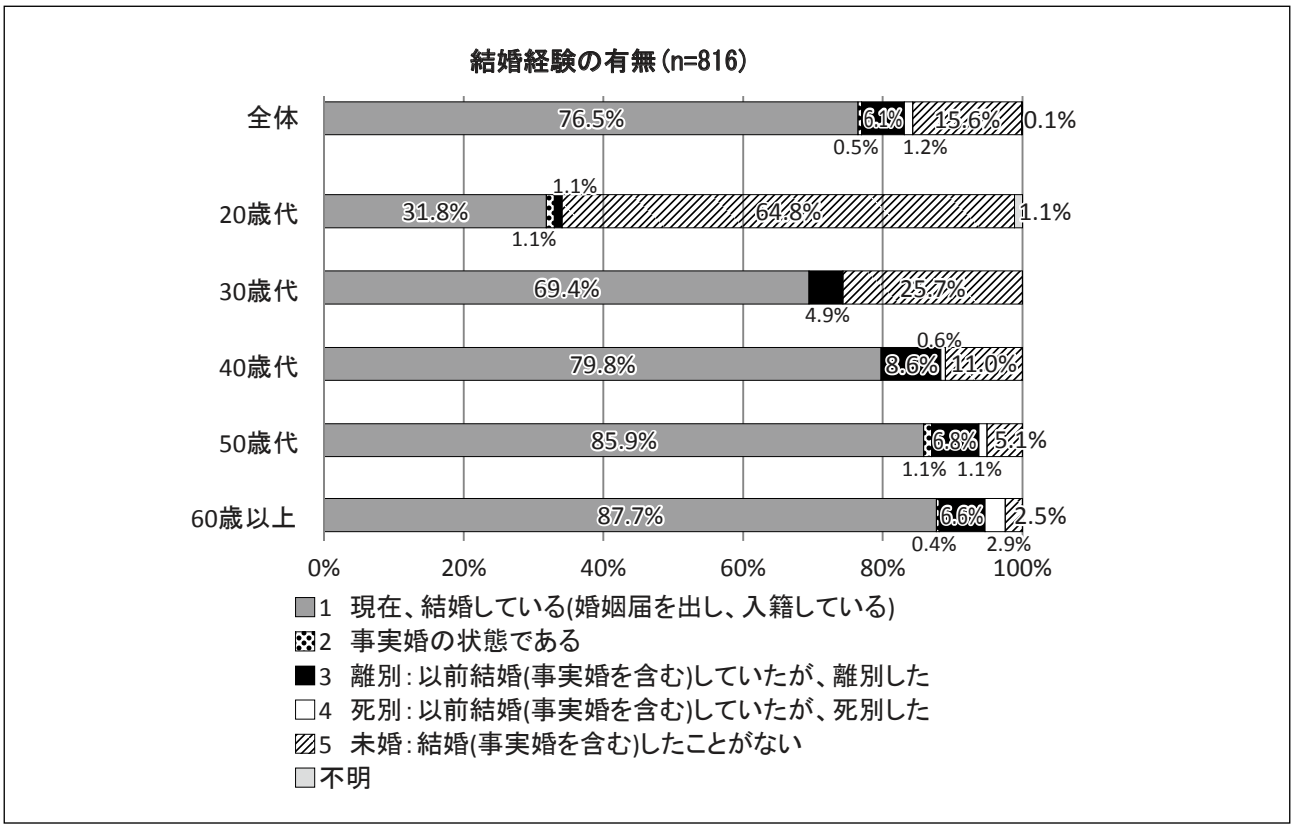
１．あなたご自身のことについて伺います。

問１　あなたの年齢は何歳ですか。



回答者の年代は、60歳以上が最も多く29.9%、50歳代21.7%、40歳代20.0%、30歳代17.6%、20歳代10.8%と続く。

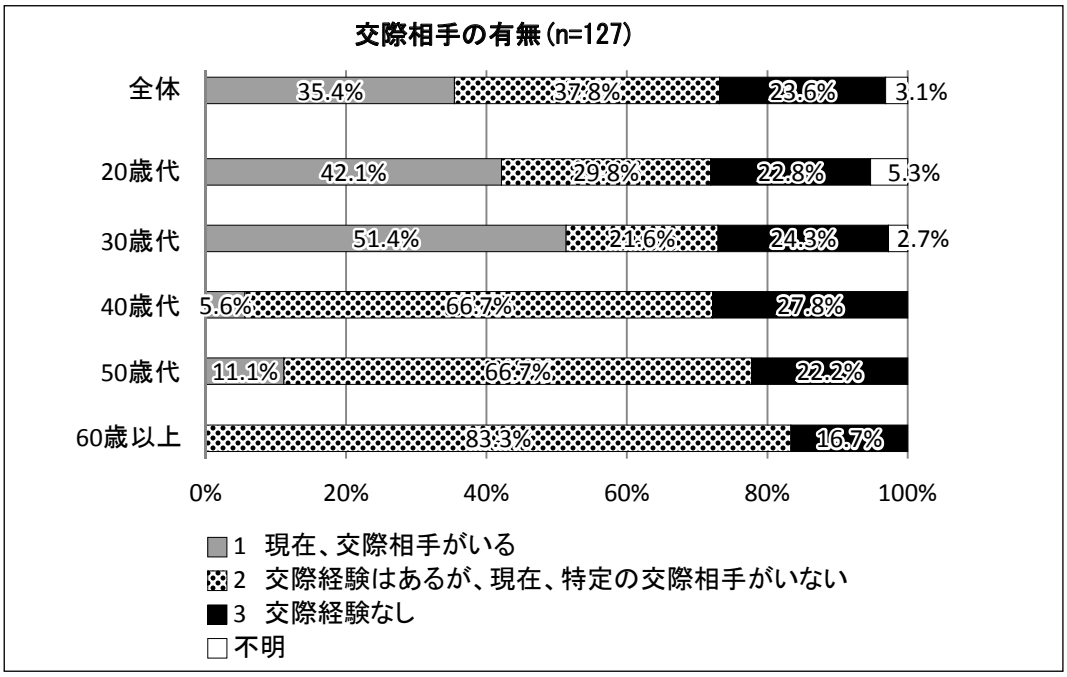
問２　あなたは、結婚のご経験がありますか。（○は一つだけ）



結婚の経験について尋ねたところ、「現在、結婚している（婚姻届を出し、入籍している）」と回答した人は76.5%と最も多く、次いで「未婚：結婚（事実婚を含む）したことがない」が15.6%、「離別：以前結婚（事実婚を含む）していたが、離別した」が6.1%となっている。

【結婚のご経験のない方にお伺いします】

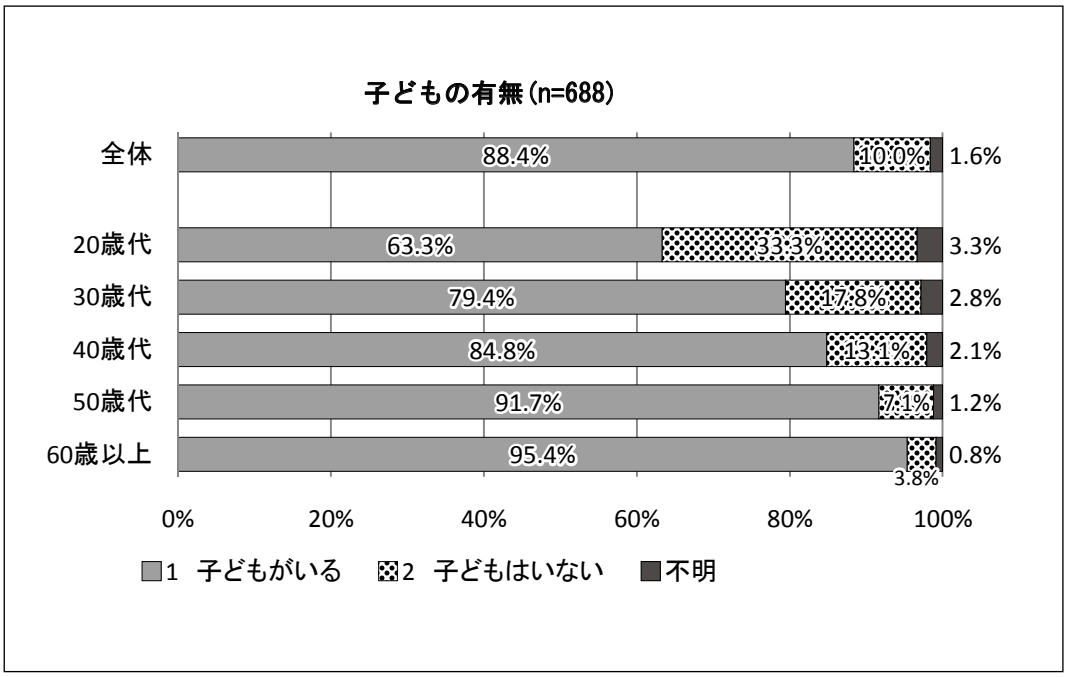
問３　あなたは現在、特定の交際相手がいらっしゃいますか。(○は一つだけ)



結婚の経験がない人に尋ねたところ、「交際経験はあるが、現在、特定の交際相手がいない」と回答した人は37.8%と最も多く、次いで「現在、交際相手がいる」が35.4%、「交際経験なし」が23.6%となっている。

【結婚のご経験のある方にお伺いします】

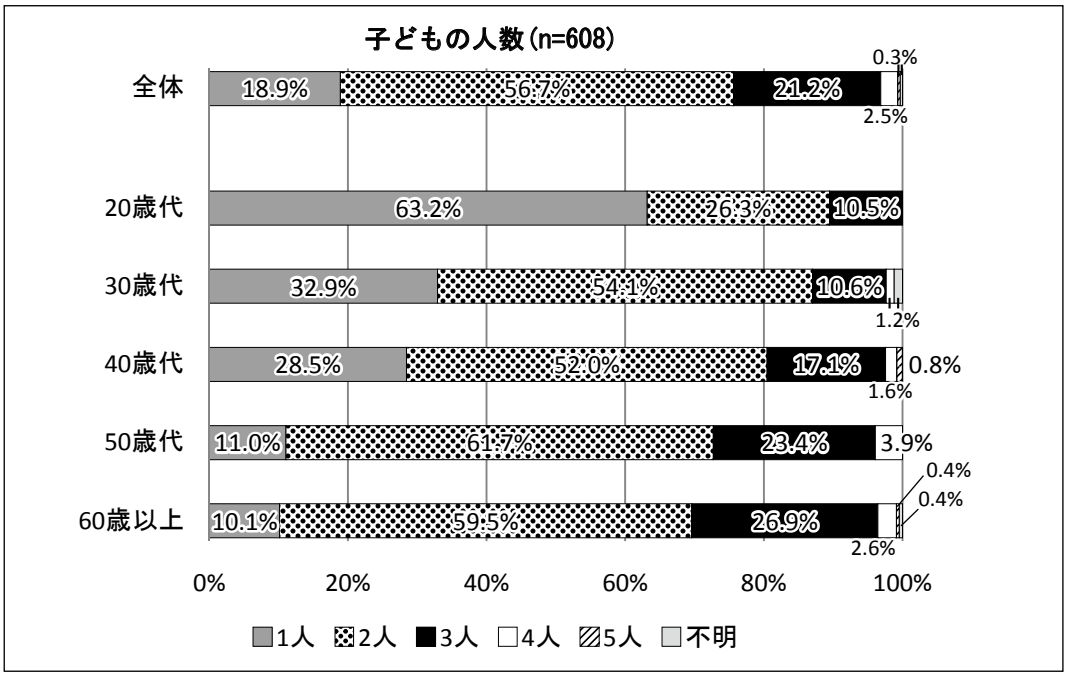
問４　あなたは、お子様がいらっしゃいますか。(○は一つだけ)



結婚の経験がある人に、子どもがいるか尋ねたところ、「子どもがいる」と回答した人は88.4%、「子どもはいない」と回答した人が10.0%であった。

【子どもがいる方にお伺いします】

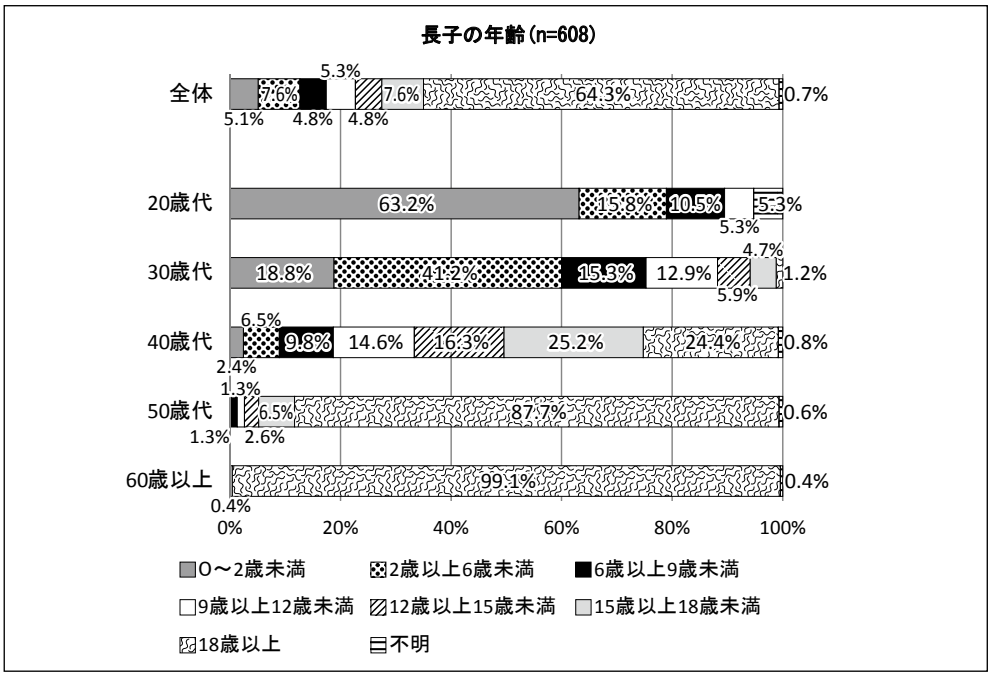
問５　あなたのお子様の人数をご記入ください。



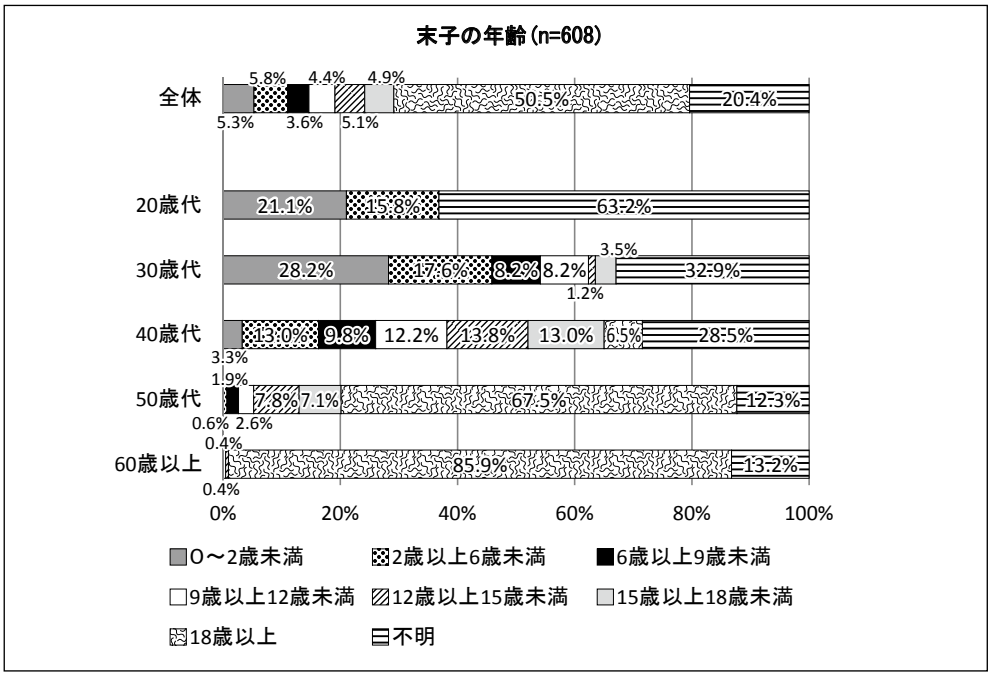
子どもの人数を尋ねたところ、子どもが「２人」の人が56.7％と最も多く、次いで「３人」が21.2％、「１人」が18.9％となっている。

【子どもがいる方にお伺いします】

問６　あなたのお子様は何歳ですか。複数のお子様がいらっしゃる場合は、一番年長のお子様の年齢を「長子」の欄に、一番年少のお子様の年齢を「末子」の欄にお書きください。
また、お一人の場合は、「長子」の欄にご記入ください。

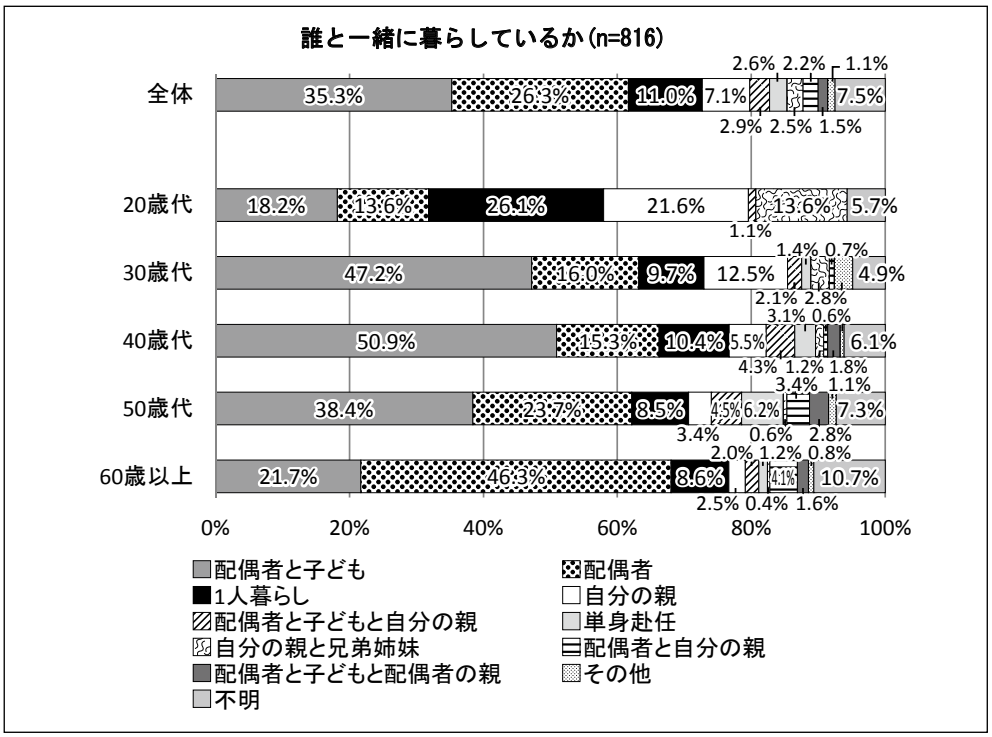


長子の子どもの年齢は、「18歳以上」と回答した人が64.3％と最も多く、18歳未満は、どの年齢区分も４～７％台で推移している。



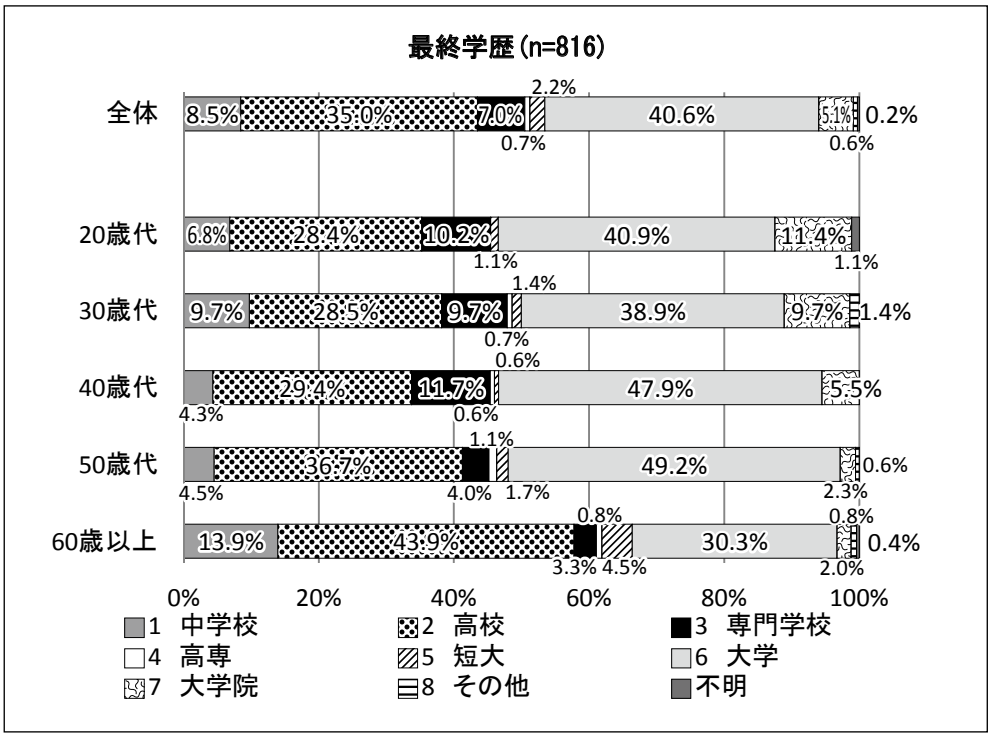
末子の子どもの年齢についても、「18歳以上」と回答した人が50.5%と最も多く、18歳未満は、どの年齢区分も３～５%台を推移している。

問７　あなたは現在、どなたと一緒に暮らしていますか。あてはまるものすべてを選択してください。
回答は、あなた自身からみた続柄でお答えください。（○はいくつでも）



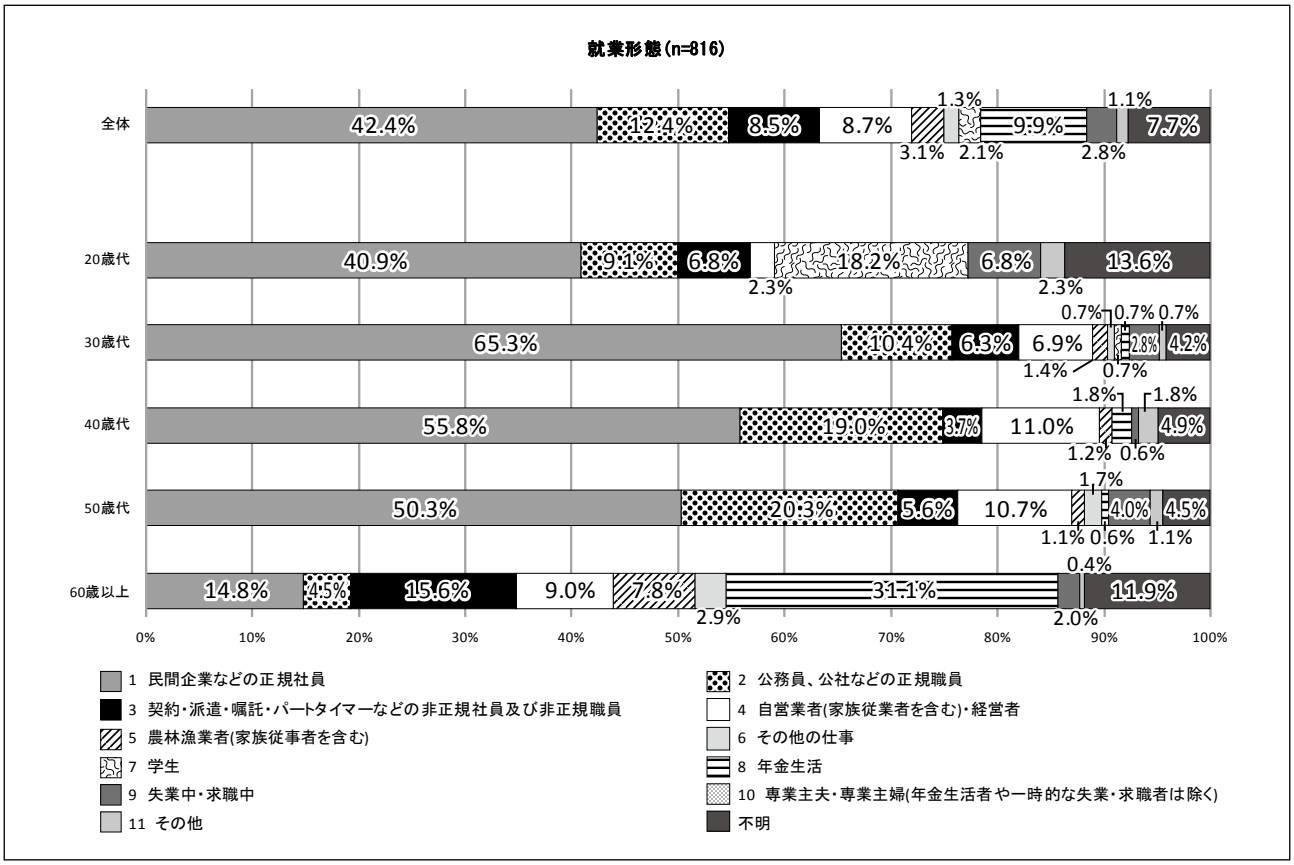
誰と一緒に暮らしているか尋ねたところ、「配偶者と子ども」と回答した人が35.3%と最も多く、次いで「配偶者」が26.3%、「１人暮らし」が11.0%、「自分の親」7.1%となっている。

問８　あなたが最後に卒業された学校（在学中を含む）について、あてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）

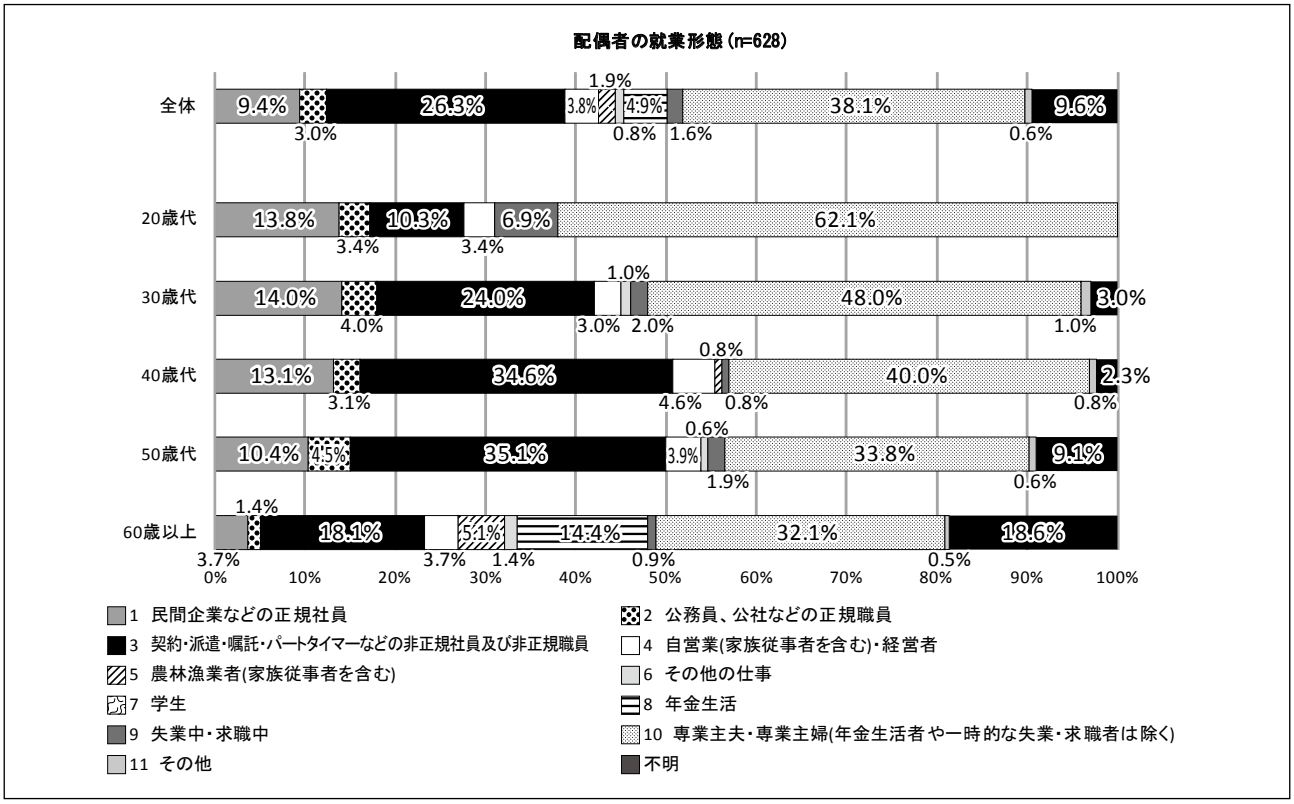


最終学歴を尋ねたところ、「大学」と回答した人が40.6%と最も多く、次いで「高校」が35.0%、「中学校」が8.5%となっている

問９　あなたと配偶者等（いる方のみ）の現在のお仕事（就業形態）について伺います。
あてはまるものを一つずつ該当する欄にご記入ください。（番号を一つずつ）

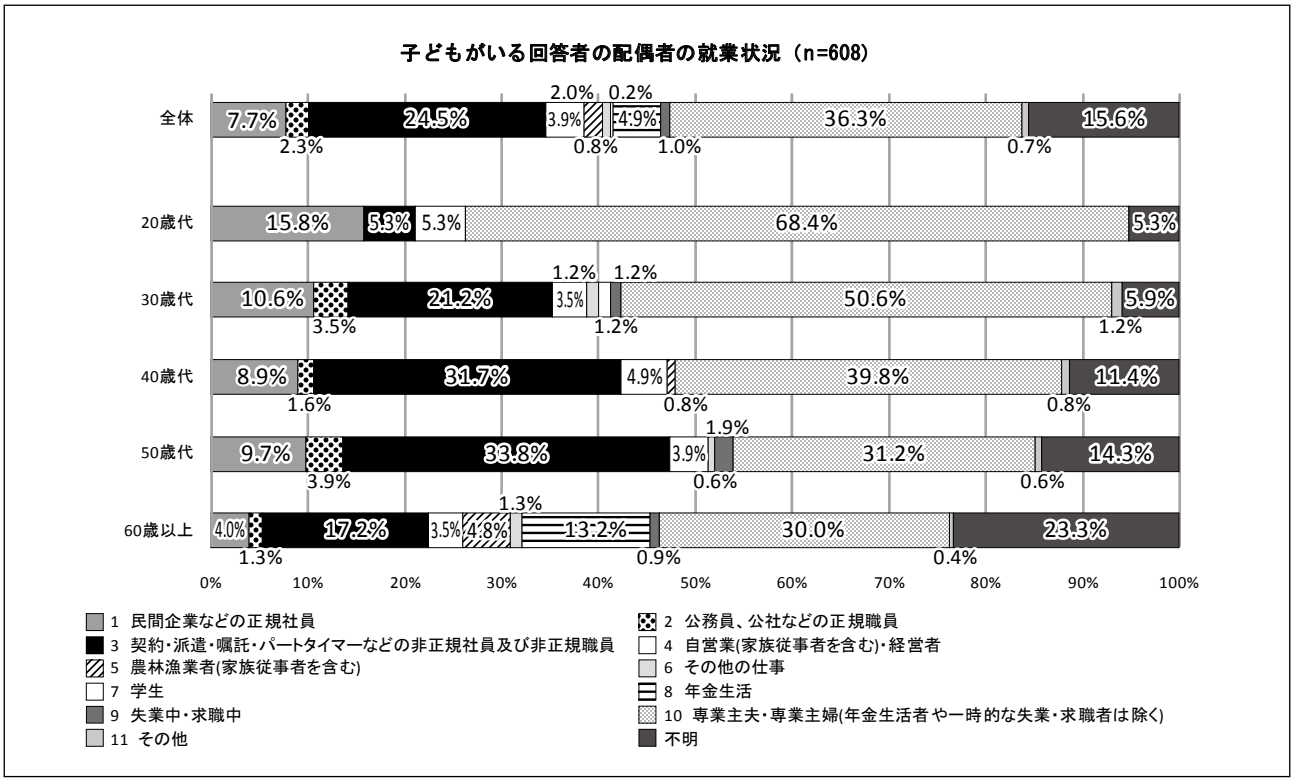


回答者本人の仕事（就業形態）を尋ねたところ、「民間企業などの正規社員」と回答した人が42.4%と最も多く、次いで「公務員、公社などの正規職員」が12.4%、「年金生活」が9.9%となっている。



配偶者の仕事（就業形態）を尋ねたところ、「専業主婦（年金生活者や一時的な失業・求職者は除く）」と回答した人が38.1％と最も多く、次いで「契約・派遣・嘱託・パートタイマーなどの非正規社員及び非正規職員」が26.3％、「民間企業などの正規社員」が9.4％となっている。

回答者の年代別にみると、配偶者の専業主婦率が最も高かったのは20歳代で62.1％、次いで30歳代が48.0％、40歳代が40.0％となっている。

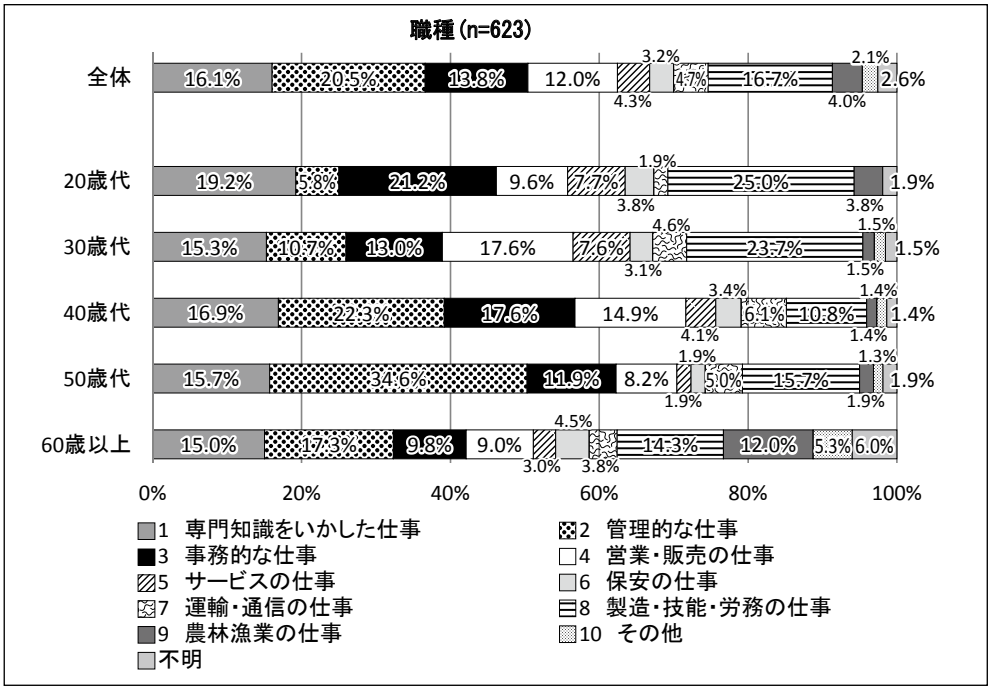


配偶者の専業主婦率を、さらに子どもがいる回答者のみで集計をすると、最も割合が高かったのは20歳代で68.4％、次いで30歳代が50.6％、40歳代が39.8％という結果であった。

ここで、配偶者が専業主婦である回答者の子どもの年齢をみてみると、20歳代では、長子の年齢が「０～２歳未満」が76.9％、「２歳以上６歳未満」が15.4％、30歳代では、「０～２歳未満」が27.9％、「２歳以上６歳未満」が48.8％という結果であり、乳幼児のいる家庭で専業主婦率が高いことがわかる。

【就業中の方にお伺いします】

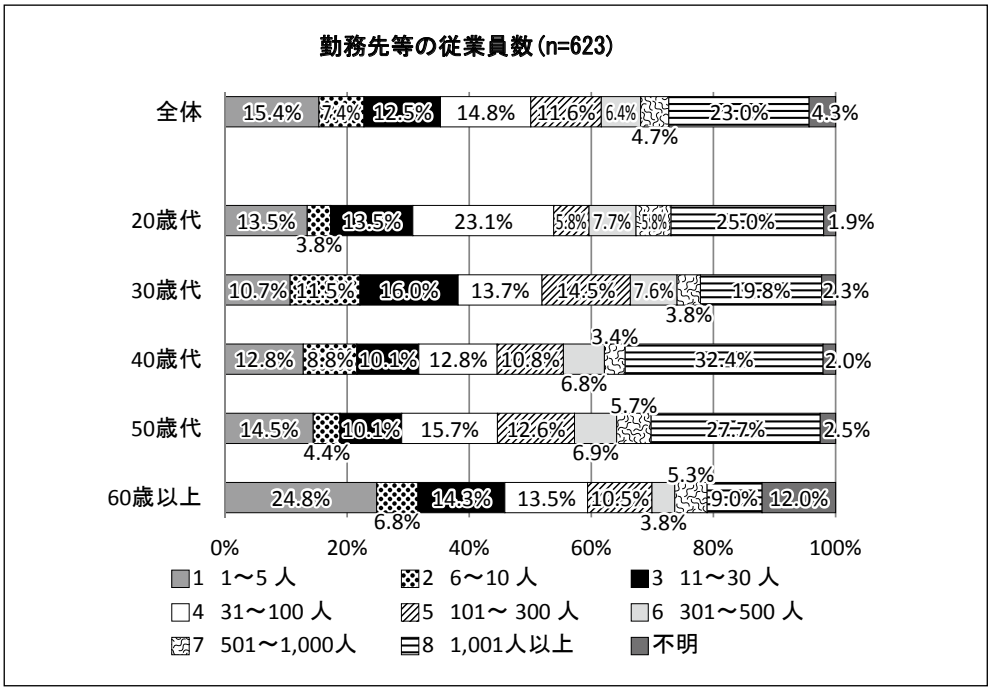
問10　あなたの現在のご職業や職種、お立場は、次のどれにあてはまりますか。あてはまるもの一つを選択してください。(○は一つだけ)



職業や職種、立場を尋ねたところ、「管理的な仕事（企業・官公庁・団体の役員・課長以上の管理職、経営者など)」と回答した人が20.5%と最も多く、次いで「製造・技能・労務の仕事（職人、工場労働者、修理工、建設・土木作業者、清掃員など)」が16.7%、「専門知識をいかした仕事（教員、医師、看護師、弁護士、建築士、システムエンジニアなど)」が16.1%となっている。

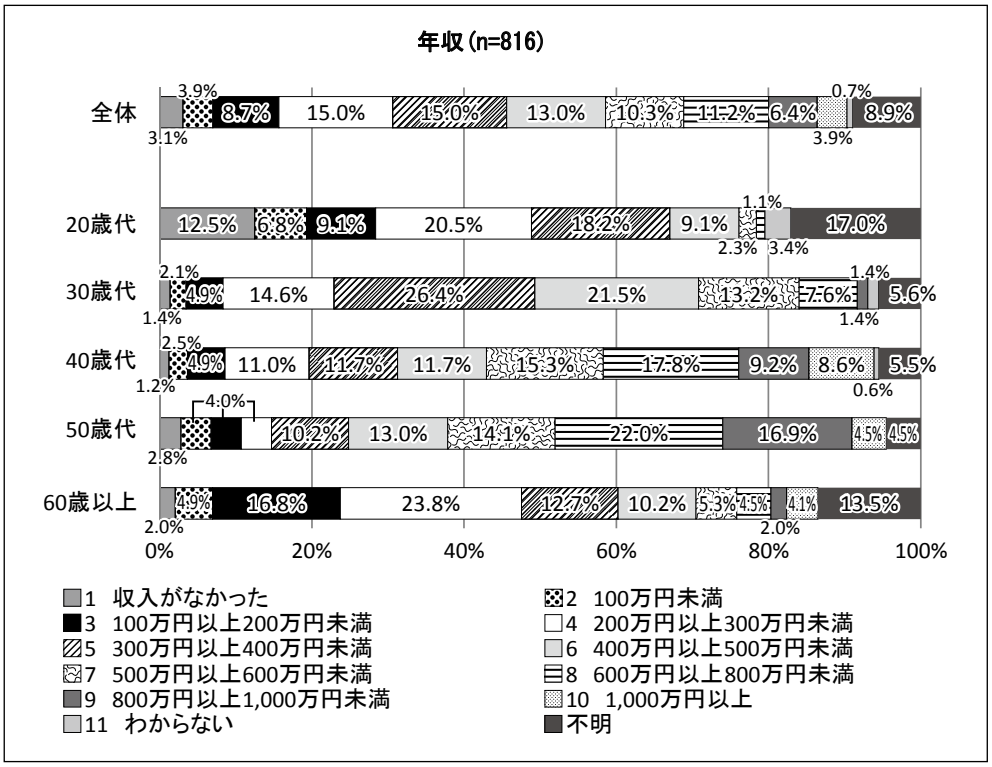
【就業中の方にお伺いします】

問11　あなたが勤務している勤務先や家業の従業員数は、次のどれにあてはまりますか。
あてはまるもの一つを選択してください。(○は一つだけ)

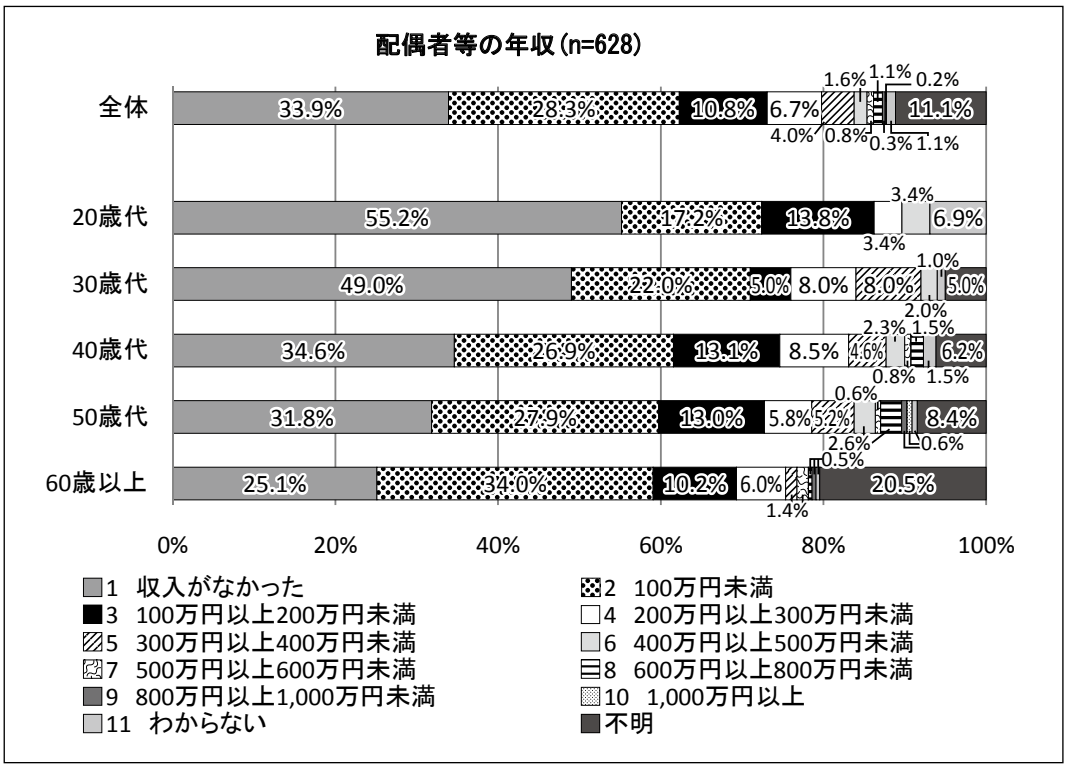


勤務先や家業の従業員数を尋ねたところ、「1,001人以上」と回答した人が23.0％と最も多く、次いで「１～５人」が15.4％、「31～100人」が14.8％となっている。

問12　昨年のあなた自身と配偶者等（いる方のみ）の年収（税込み）について伺います。
あてはまるものを一つずつ該当する欄にご記入ください。（番号を一つずつ）



年収を尋ねたところ、「200万円以上300万円未満」「300万円以上400万円未満」と回答した人がそれぞれ15.0％と最も多く、次いで「400万円以上500万円未満」が13.0％となっている。

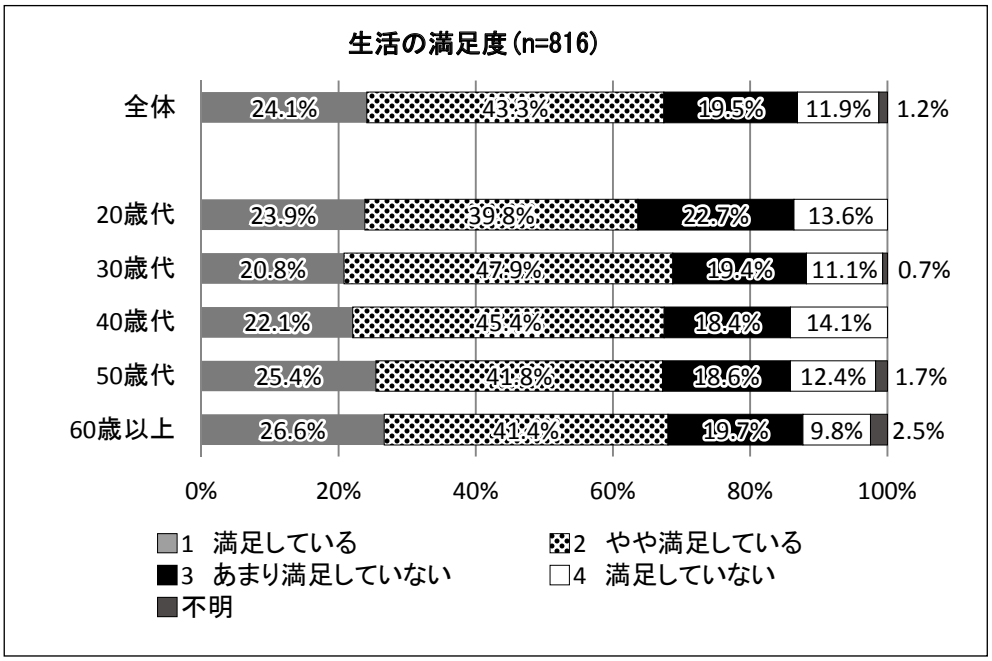


配偶者等の年収を尋ねたところ、「収入がなかった」が最も多く33.9%、次いで「100万円未満」が28.3%、「100万円以上200万円未満」が10.8%となっている。

さらに、回答者の年代別に配偶者の年収をみると、20歳代、30歳代と若い世代ほど「収入がなかった」配偶者の割合が高くなっており、これは、問９の就業状況で、若い世代ほど専業主婦率が高かったことと相関関係があるといえる。

２．あなたのお考えや生活についてお伺いします。

問13　あなたは、現在の生活に満足していますか。あてはまるもの一つを選択してください。
（○は一つだけ）

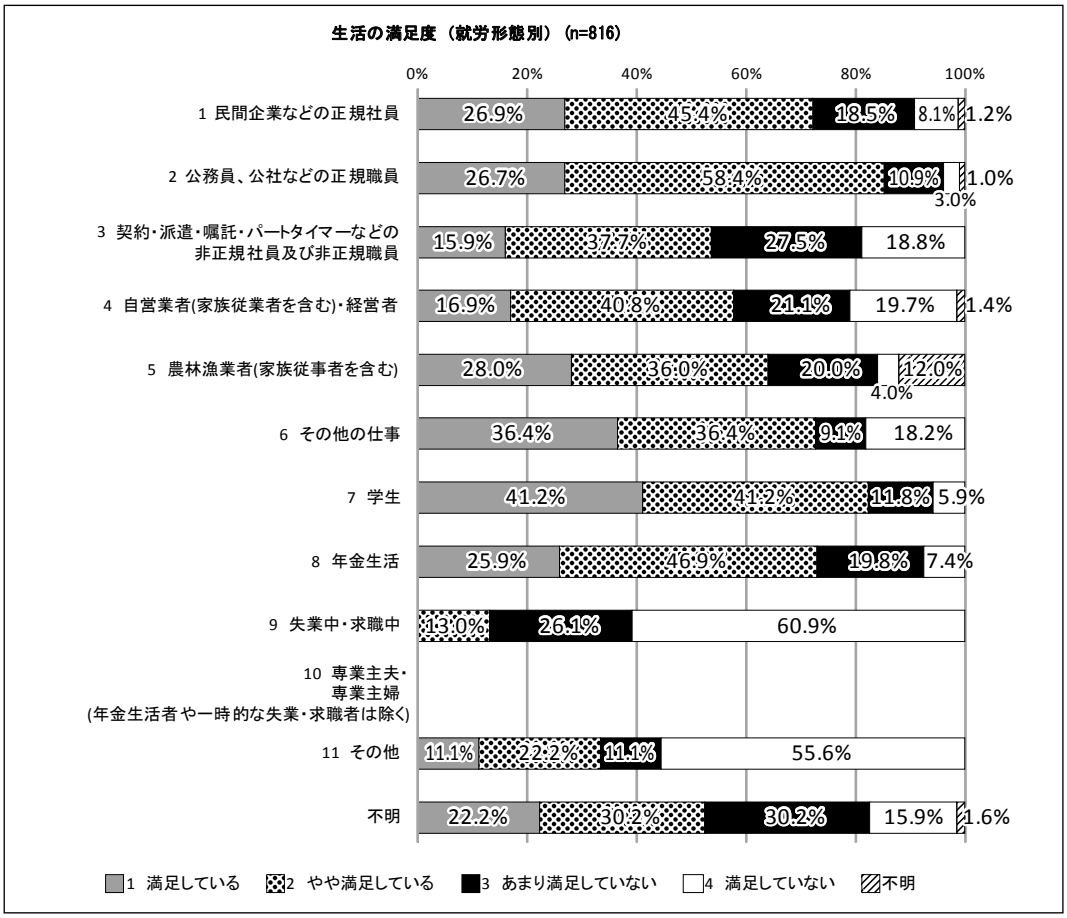


現在の生活に対する満足度について、「満足している」「やや満足している」「あまり満足していない」「満足していない」の４つの選択肢で尋ねた結果、現在の生活に「満足している」と明確に満足感を表明している人が24.1％と全体の約４分の１、「やや満足している」が43.3％であるので、両者を合わせると67.4％、約７割の人が現在の生活に対して概ね満足傾向にあると回答している。一方、「満足していない」は11.9％と明確に不満を表明しているのは１割、「あまり満足していない」19.5％と合わせると31.4％と約３割の人が不満傾向にあるという状況である。

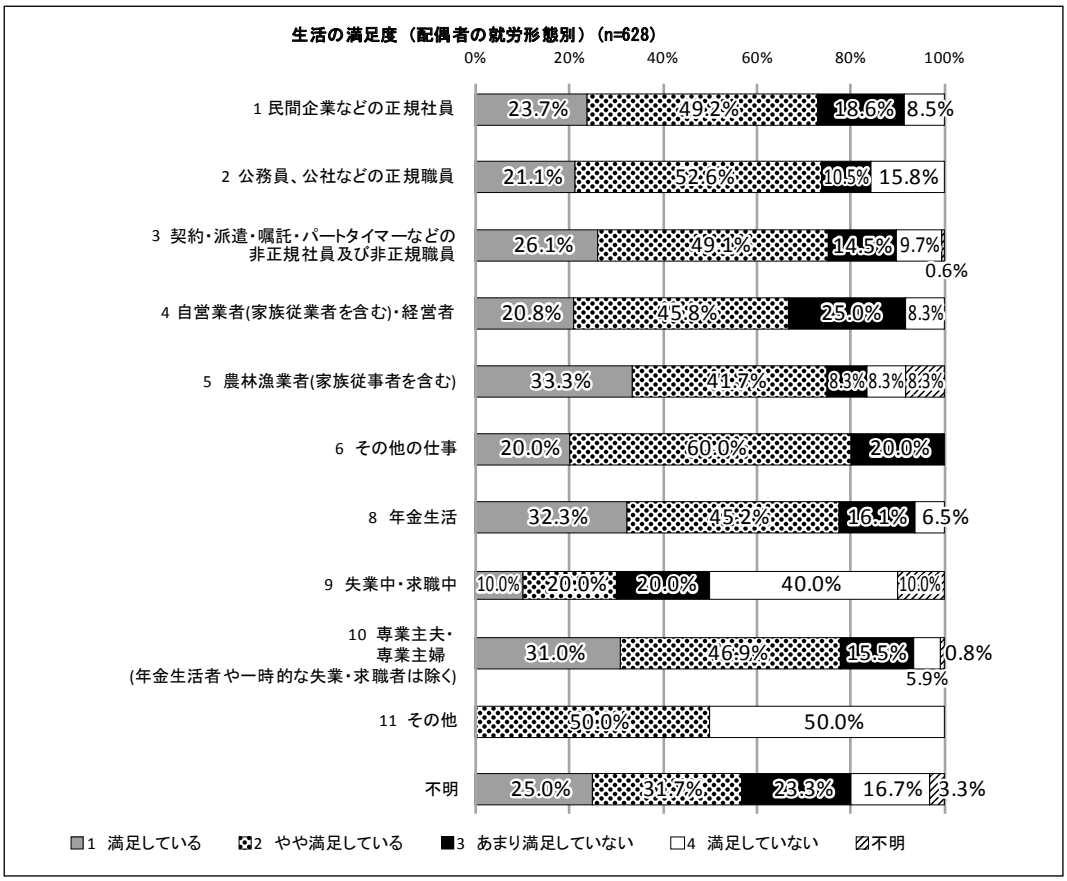
これを年代別にみると、年代ごとにそれほど顕著な違いがあるわけではないが、「満足している」と満足感を示した回答が最多であるのは、60歳以上で26.6％である。逆に割合が最も低いのは30歳代で、20.8％と５ポイントほどの開きがある。20歳代を除くと30歳以降、年齢層が上がるにつれて、「満足している」という満足度の高い回答割合は多くなる傾向にある。

「満足している」と「やや満足している」を合計したものを満足傾向にある人とすると、満足傾向にある割合は、20歳代を除くすべての年代で７割前後とそれほど差がないものの、20歳代のみがやや低くて63.7％である。また、「満足していない」という回答は、どの年代も１割前後であるが、40歳代で最も多く14.1％、20歳代が13.6％とそれに続いている。

〈回答者本人の就労形態とのクロス集計〉



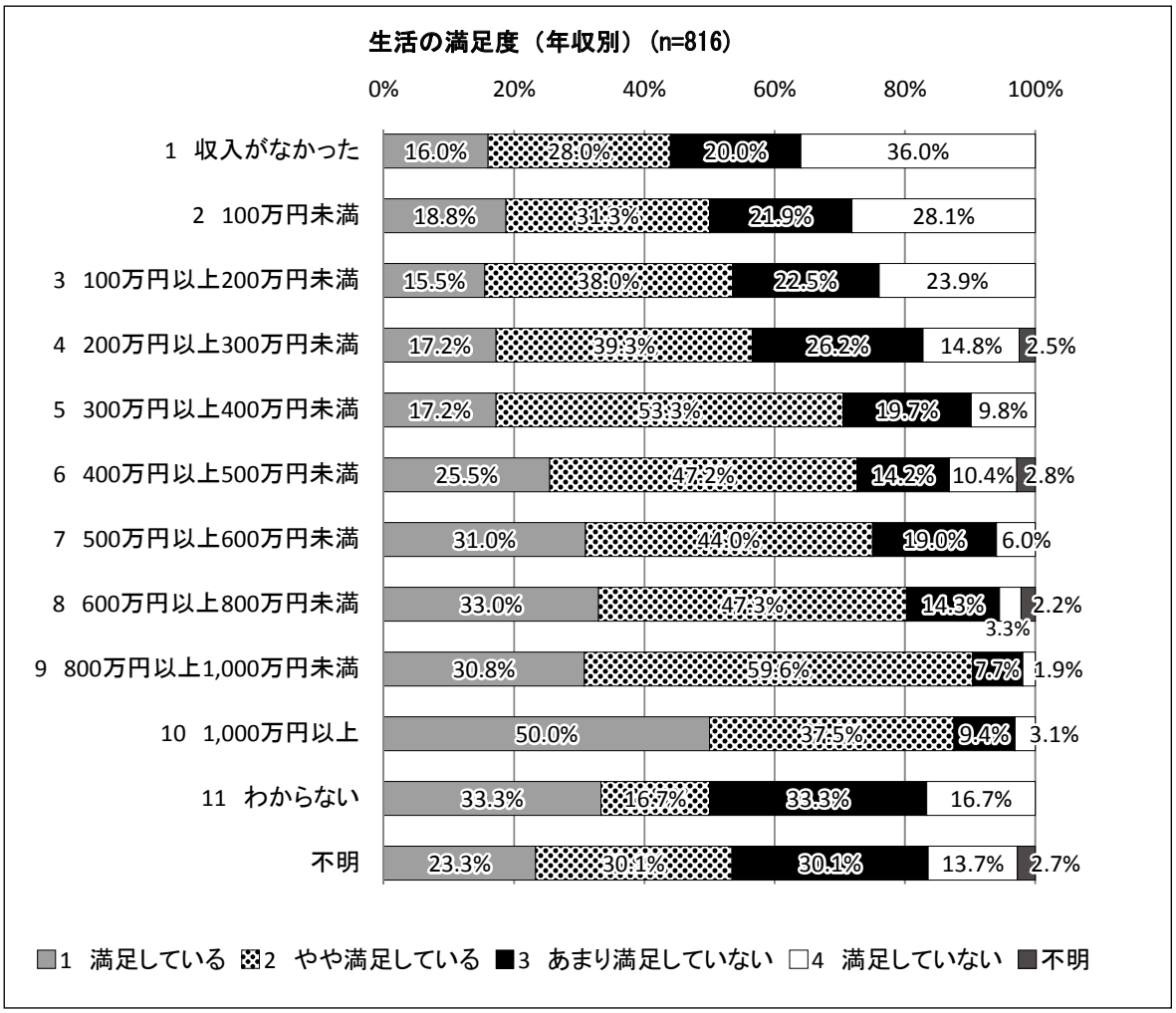
〈配偶者の就労形態とのクロス集計〉



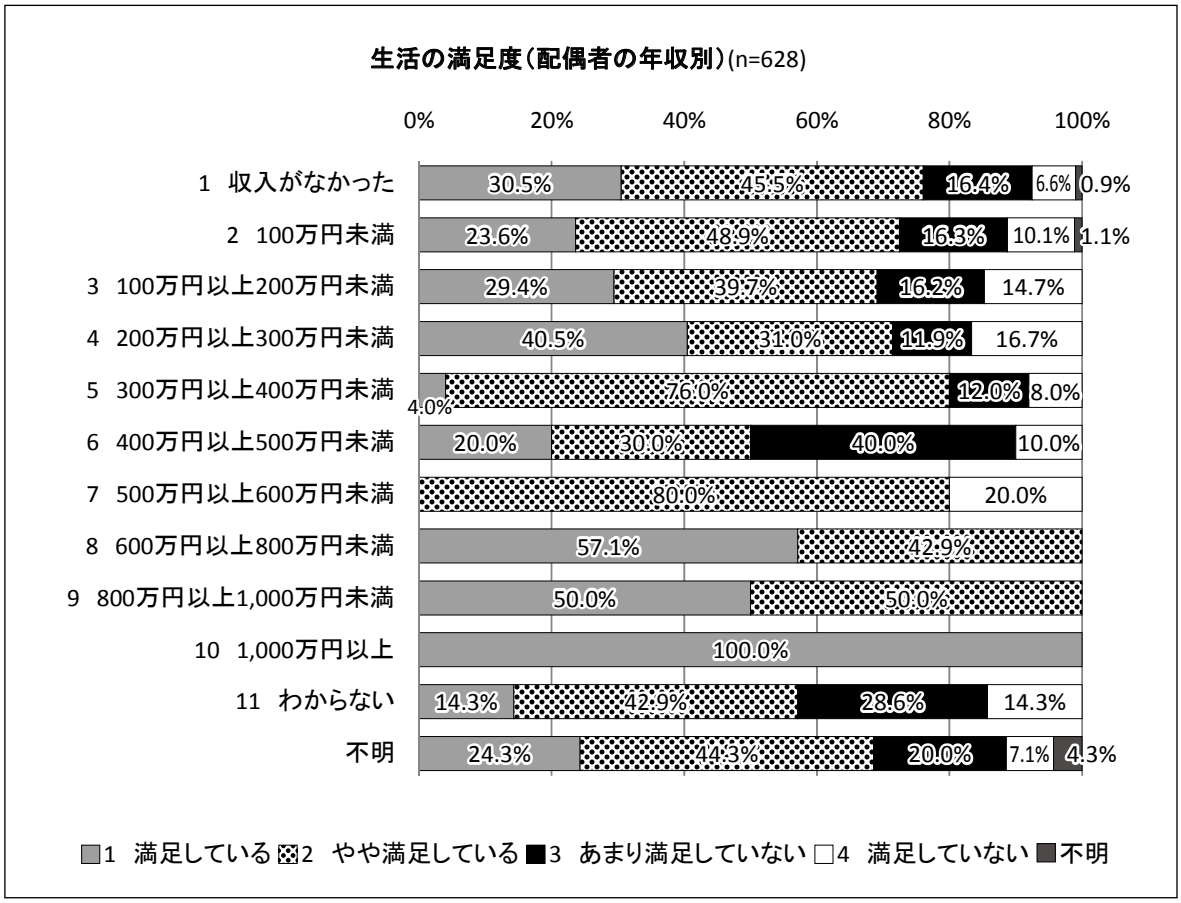
さらに、生活の満足度を回答者本人の就労形態別にみてみると、民間企業などの正規社員、公務員、公社などの正規職員である人は、「満足している」と「やや満足している」を合わせた割合がそれぞれ72.3%、85.1%と高い満足度を示している。それに対し、契約・派遣・嘱託・パートタイマーなどの非正規社員及び非正規職員であると回答した人では53.6%、自営業者（家族従業者）では57.7%といずれもかなり数値が少なくなっている。さらに、失業中・求職中と回答した人は、「満足していない」が60.9%と最も高い割合となっており、現在の生活に対する満足度と自分自身の職業生活のあり様が密接に関わっていることが推察される。

一方、配偶者の就労形態別に生活満足度をみると、配偶者が失業中、求職中である場合は満足度が低いものの、その他は関連性があまり見受けられない。

〈回答者本人の年収とのクロス集計〉



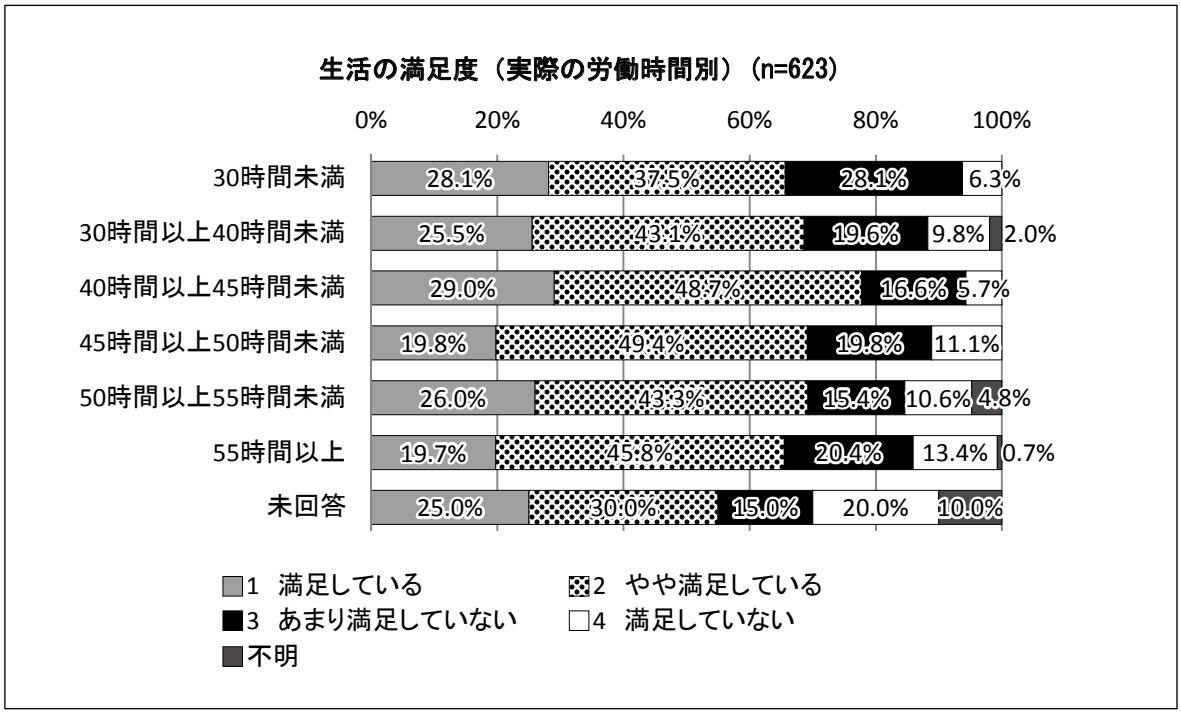
〈配偶者の年収とのクロス集計〉



また、自分自身の年収と生活の満足度との関わりをみると、「100万円未満」の人は「満足していない」が28.1％と最も不満度が高くなっており、「300万円以上400万円未満」で逆転がみられるものの年収が少ないほど不満度が高いという傾向にある。「満足している」と「やや満足している」という割合を合計した数値を比べてみると、年収300万円未満では50％台が満足傾向にあり、300万円以上から600万円未満が70％台、800万円以上は80％～90％と、あたかも年収の違いにおいて生活満足度の層があるかのような数値を示している。

一方、配偶者の年収と現在の生活に対する満足度は、年収500万円以上という回答数が極めて少ないので、500万円未満の回答でみると配偶者の年収の多寡との間に顕著な関係は認められない。

〈実際の労働時間とのクロス集計〉



現在の生活に対する満足度と労働時間（ｐ.27　問15）との関わりはどうであろうか。「満足している」と回答した割合が最も多いのは、１週間の労働時間が「40時間以上45時間未満」であると回答した人である。「満足している」と「やや満足している」と回答した割合も、他の層が60％台であるのに対して、この時間帯に所属する人は77.7％で約８割という大変高い数値を示している。

一方、「満足していない」と回答した割合が最も多いのは、「55時間以上」と回答した人で13.4％となっている。「50時間以上55時間未満」が10.6％、「45時間以上50時間未満」が11.1％であるから、どちらかというと長時間労働の傾向にある人が、現在の生活に対して不満を感じている傾向にあるということがわかる。

以上のことから、今回の調査では、約７割の人は現在の生活に対して概ね満足傾向にあるものの、約３割の不満傾向にある人は、自分自身の職業生活との関連性、特に年収との関わりが顕著であり、若年層で安定的な就労状況にない人、さらには年収等が充分に得られず経済的に不安を抱えている人に不満感が強いのではないかと推察される。また、どちらかというと長時間労働の傾向にある人が、現在の生活に対して何らかの不満を抱いていることを把握することができた。

問14　次のそれぞれの文の内容について、あなたご自身の現在の考え方や感じ方として、最も近いと思われる番号を選択してください。(○は一つだけ)

なお、「結婚生活に関する質問」や「子育てに関する質問」など、未婚の方やお子様のいない方、またお子様が既に成人されている方などの場合、現在の状況に該当しない項目もあると思いますが、その項目については例示のように、あなたがそのような立場になった場合を想定してご回答ください。

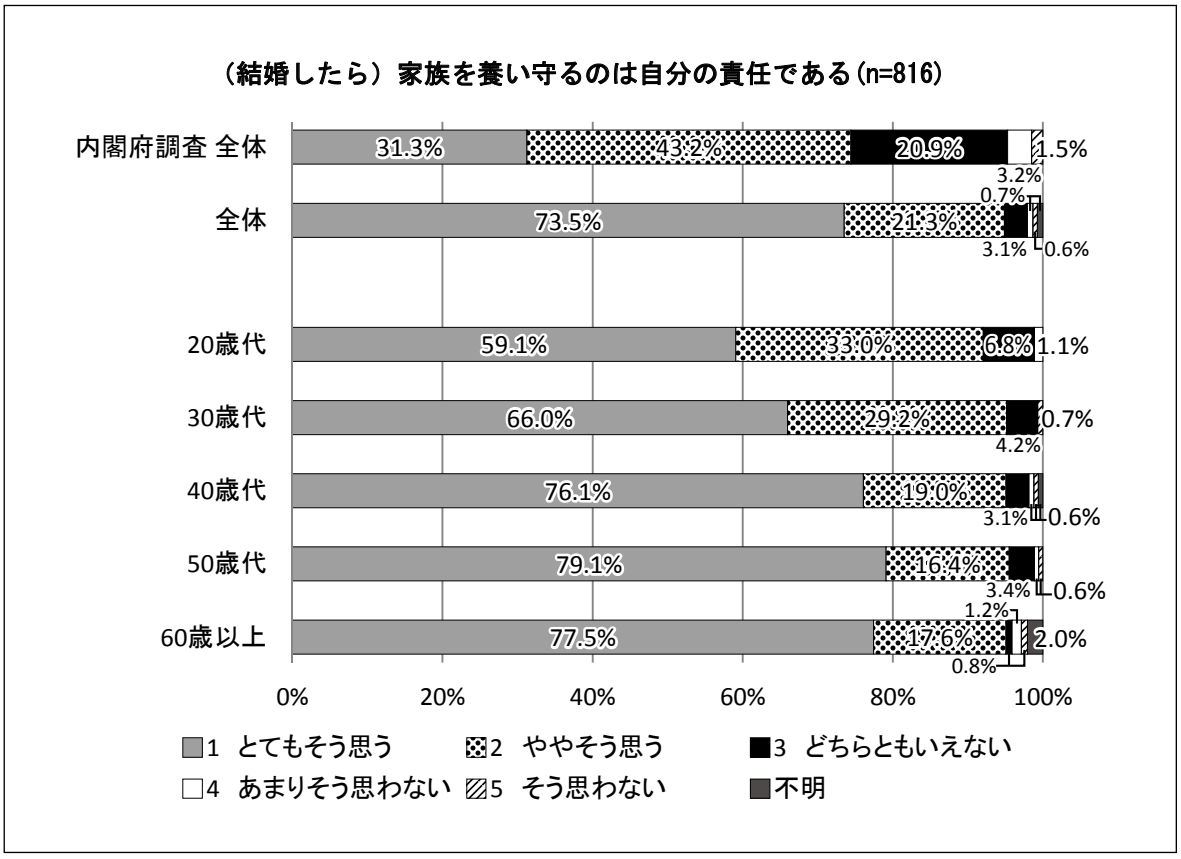
それ以外の項目については、現在のあなたの考え方や感じ方についてご回答ください。

例)(結婚したら)家族を養い守るのは、自分の責任である

→　結婚していない方は、結婚した場合を想定してご回答ください。

問14は、結婚生活・家庭生活に対する考え方について尋ねたもので、男女の固定的な役割分担意識に関わる設問である。

① (結婚したら)家族を養い守るのは自分の責任である

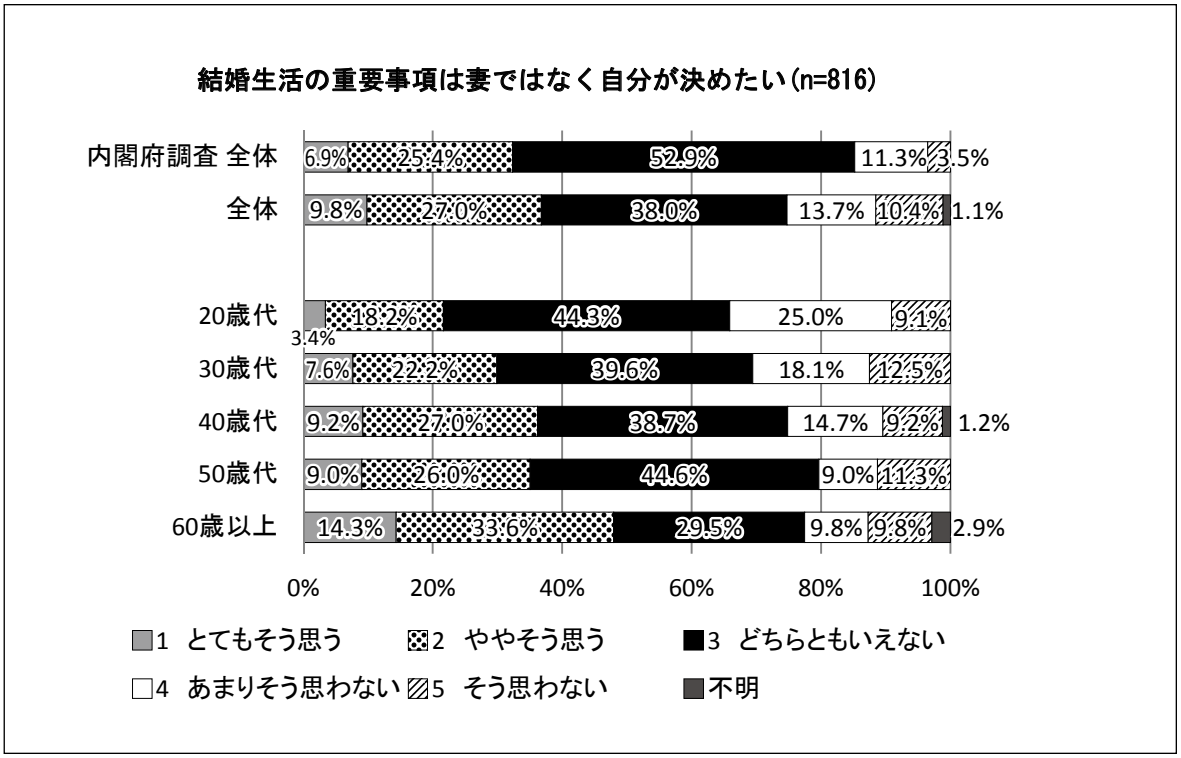


①は「(結婚したら)家族を養い守るのは、自分の責任である」という考え方について尋ねたものである。「とてもそう思う」と「ややそう思う」という回答が合わせて94.8%に及び、ほとんどの回答者が結婚後の家族に対する責任を強く感じていることが分かる。男性として家庭に対する責任の強さがはっきりと示されている。内閣府男女共同参画局が2011年11月におこなった「『男性にとっての男女共同参画』に関する意識調査」に同様の質問項目があり、この調査では「(結婚したら)家族を養い守るのは､自分の責任である」という質問に対して、「とてもそう思う」31.3%、「ややそう思う」43.2%、「どちらともいえない」20.9%、「あまりそう思わない」3.2%、「そう思わない」1.5%という結果が示されている。内閣府調査では「思う」という回答を合わせても74.5%であり、かなり高い割合を示しているものの、今回の松山市での調査結果ではそれ以上に高い割合が示されており、全国的なデータに

比べて違いがみられる。松山市においては、かなり強固な男性の責任意識がみられるといえる。

年齢層別の違いをみてみると、「とてもそう思う」という回答では、20歳代においては59.1％にとどまっているのに対して、年齢が上がるにつれて、その割合が増加する傾向を示している。30歳代では66.0％、40歳代では76.1％、50歳代では79.1％と非常に高い割合を示している。「夫」あるいは「父親」である「男性」としての責任を強く感じている回答者が年齢とともに多くなっていることがうかがえる。

② 結婚生活の重要事項は妻ではなく自分が決めたい



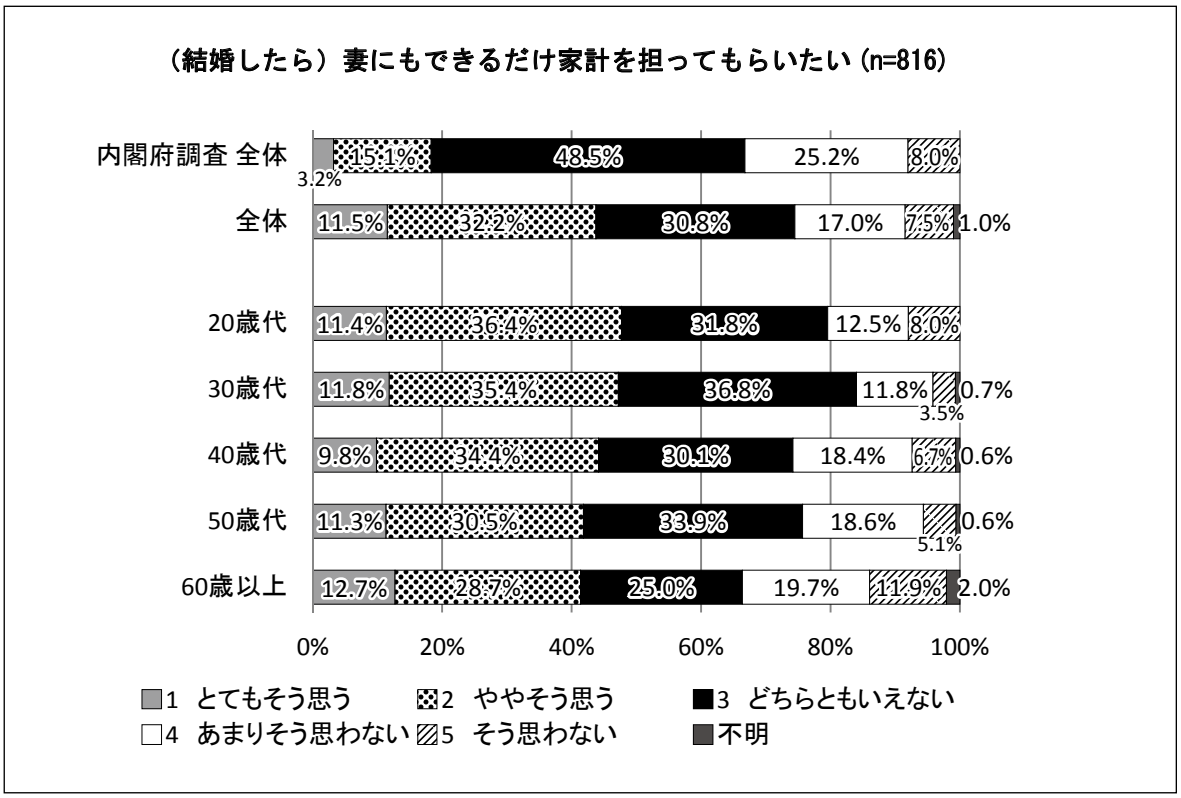
②は「結婚生活の重要事項は妻ではなく自分が決めたい」という考え方について尋ねたものである。回答は「どちらともいえない」が最も多く、38.0％を示している。「とてもそう思う」は9.8％であるが、「ややそう思う」は27.0％、「あまりそう思わない」が13.7％、「そう思わない」が10.4％となっており、「思う」という方がやや多い。前述の内閣府調査では「結婚生活の重要事項は、妻ではなく自分が決めたい」という質問項目に対して、「とてもそう思う」6.9％、「ややそう思う」25.4％、「どちらともいえない」52.9％、「あまりそう思わない」11.3％、「そう思わない」3.5％という結果となっており、「どちらともいえない」という回答が最も多く、半数を超えているが、「思う」回答の方が「思わない」回答よりも多く、今回の松山市調査の回答の傾向と同じである。個別の割合については若干の差がみられる。

この設問についても、次第に年齢が上がるにつれて、「思う」という回答の割合が増えており、年齢による差異があらわれている。20歳代では21.6％、30歳代では29.8％、40歳代では36.2％、50歳代では35.0％、60歳代では47.9％である。年齢が上がるにつれて、「自分が決めたい」という考え方が強くなっていく傾向がみられる。

しかし、「そう思わない」という回答については年齢による差異はほとんど見られず、10％前後である。

③ （結婚したら）妻にもできるだけ家計を担ってもらいたい

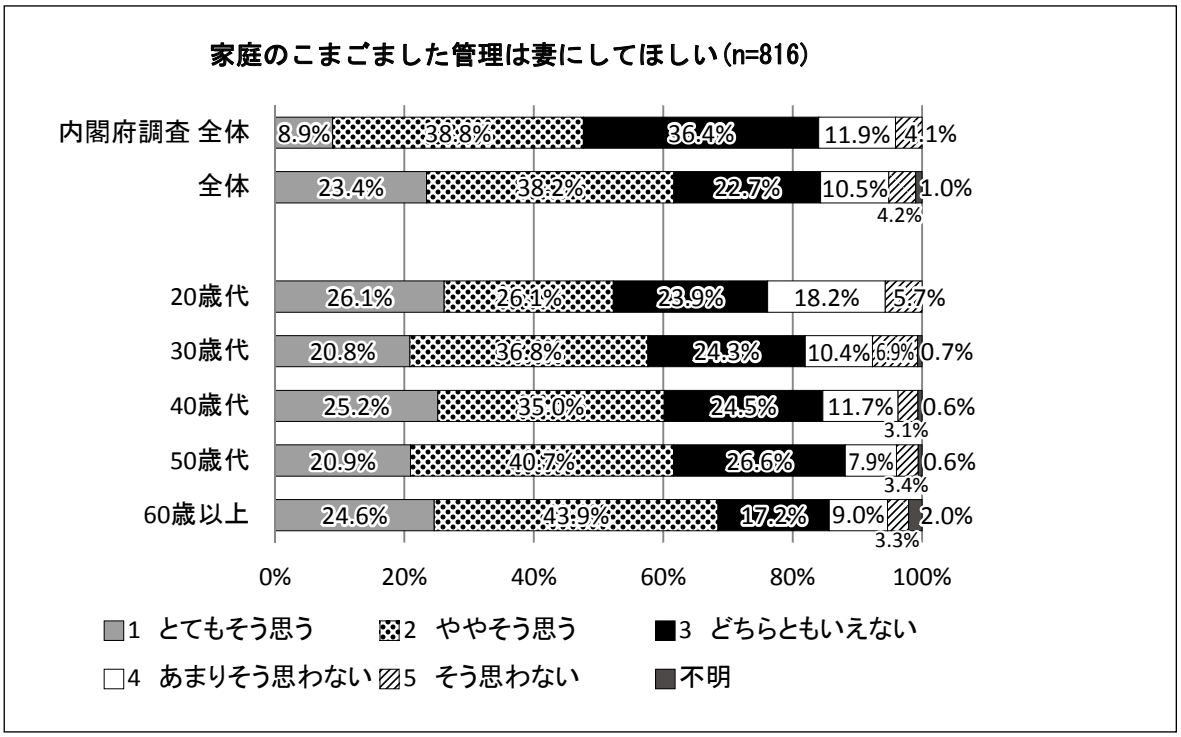
（内閣府調査の設問は「(結婚したら）妻には、できるだけ稼いでもらいたい」）



③は「(結婚したら）妻にもできるだけ家計を担ってもらいたい」という考え方についての設問である。これについては、「とてもそう思う」11.5%、「ややそう思う」32.2%、「どちらともいえない」30.8%、「あまりそう思わない」17.0%、「そう思わない」7.5%となっており、「どちらともいえない」という回答も多いが、どちらかといえば「思う」傾向が若干多いといえる。内閣府調査では、同様の質問に対して、「とてもそう思う」3.2%、「ややそう思う」15.1%、「どちらともいえない」48.5%、「あまりそう思わない」25.2%、「そう思わない」8.0%という結果になっており、半数近くが「どちらともいえない」ではあるが、「思わない」回答の方が多く、松山市での回答の結果とは異なる傾向が示された。松山市調査では、内閣府調査に比べ、「妻にも家計を担ってほしい」と考える回答者が多い。同時に、問①で「家計の中心は男性である」と答えた人も多いという結果となっている。

この設問に対する回答については、年齢が上がるにつれて若干「思う」という回答の割合が減少しつつあるものの、それほど顕著な違いはない。ただし、「思わない」という回答が30歳代は少なく、40歳代以上では多くなっている。内閣府調査でも、年齢層が上がるにつれて「思う」回答が減少し、「思わない」回答が増加する傾向がわずかながらみられるものの、30歳代から50歳代まではそれほど大きな違いはない。しかし､60歳代になると急激に「思う」回答が減少し、「思わない」回答が増加している。高年齢層で、現役世代との意識との差が出ているものと思われる。松山市調査では、「思わない」という回答が、30歳代では15.3%であるのに対して、40歳代で25.1%、50歳代で23.7%であり、60歳代では31.6%と多くなっている。問12の年収に関する設問をみると、30歳代では、ばらつきはあるものの、自分自身の収入については「300万円以上400万円未満」という回答が約４分の１を占めており、半数近くの回答者の年収は400万円以下であることを考えると、現在の深刻な経済状況が反映している可能性が高く、夫婦がともに家計を支える必要性が現実的にあって、妻が家計を支えることに対する抵抗感は少ないということが予想される。

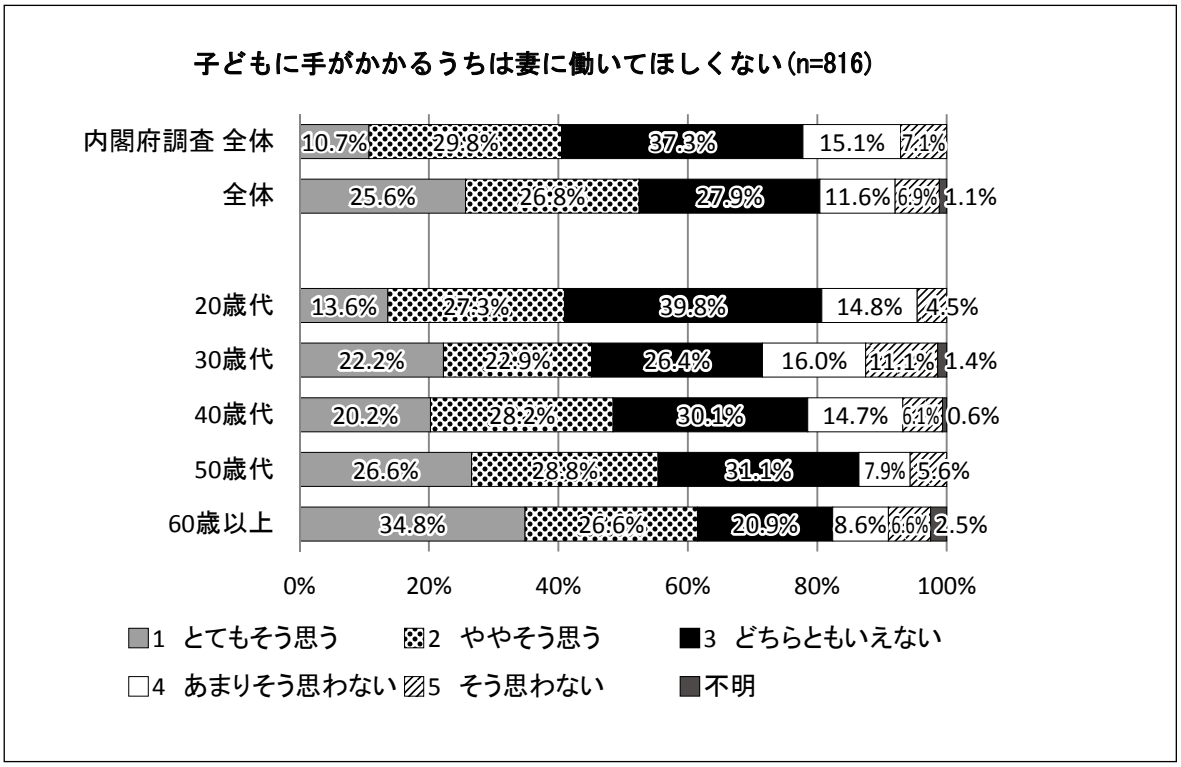
④　家庭のこまごました管理は妻にしてほしい



④は「家庭のこまごました管理は妻にしてほしい」という考え方についての設問である。これについては、「とてもそう思う」23.4%、「ややそう思う」38.2%、「どちらといえない」22.7%、「あまりそう思わない」10.5%、「そう思わない」4.2%となっており、６割を超える回答が「思う」となっている。内閣府調査では、同様の質問に対して、「とてもそう思う」8.9%、「ややそう思う」38.8%、「どちらともいえない」36.4%、「あまりそう思わない」11.9%、「そう思わない」4.1%となっている。「思う」回答が「思わない」回答よりも多いという点では、今回の松山市調査も同じであるが、かなり強く「思う」傾向が示されている。

これについても、年齢が上がるにつれて「思う」という回答が増加する傾向を示している。20歳代では52.2%であるが、30歳代では57.6%、40歳代では60.2%、50歳代で61.6%、60歳代では68.5%となっている。しかし、どの年代においても、こまごました問題は妻にまかせたいという意向が強いことがうかがえる。

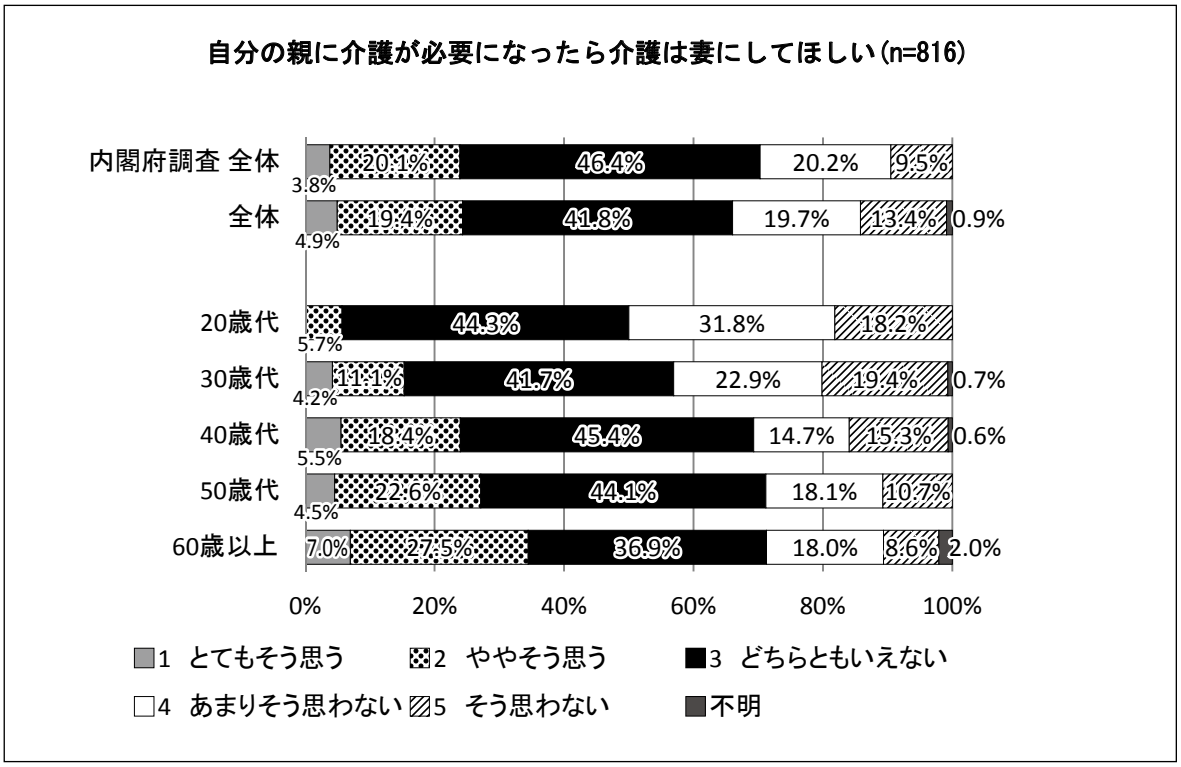
⑤　子どもに手がかかるうちは妻に働いてほしくない



⑤は「子どもに手がかかるうちは妻に働いてほしくない」という考え方について尋ねたものである。「とてもそう思う」25.6%、「ややそう思う」26.8%、「どちらともいえない」27.9%、「あまりそう思わない」11.6%、「そう思わない」6.9%となっている。「思う」という回答が５割を超えており、「思わない」という回答は２割に満たない結果となっている。育児に手がかかる間は妻に育児に専念してほしいという考えを持つ男性が多い結果となっている。内閣府調査では、同じ質問について「とてもそう思う」10.7%、「ややそう思う」29.8%、「どちらともいえない」37.3%、「あまりそう思わない」15.1%、「そう思わない」7.1%であり、全体的な傾向は今回の松山市調査と同じであるものの、今回の調査での「とてもそう思う」という回答が内閣府調査よりもかなり多く、違いがみられる。

「思わない」という回答が、30歳代で27.1%となっており、他の年代と比べて妻が働くことに対する抵抗は若干少ない傾向がみられる。前掲の設問の③についての「妻が家計を担う」ことに対する回答を見ても、妻が働くことに対する抵抗は少ないと考えることもできる。

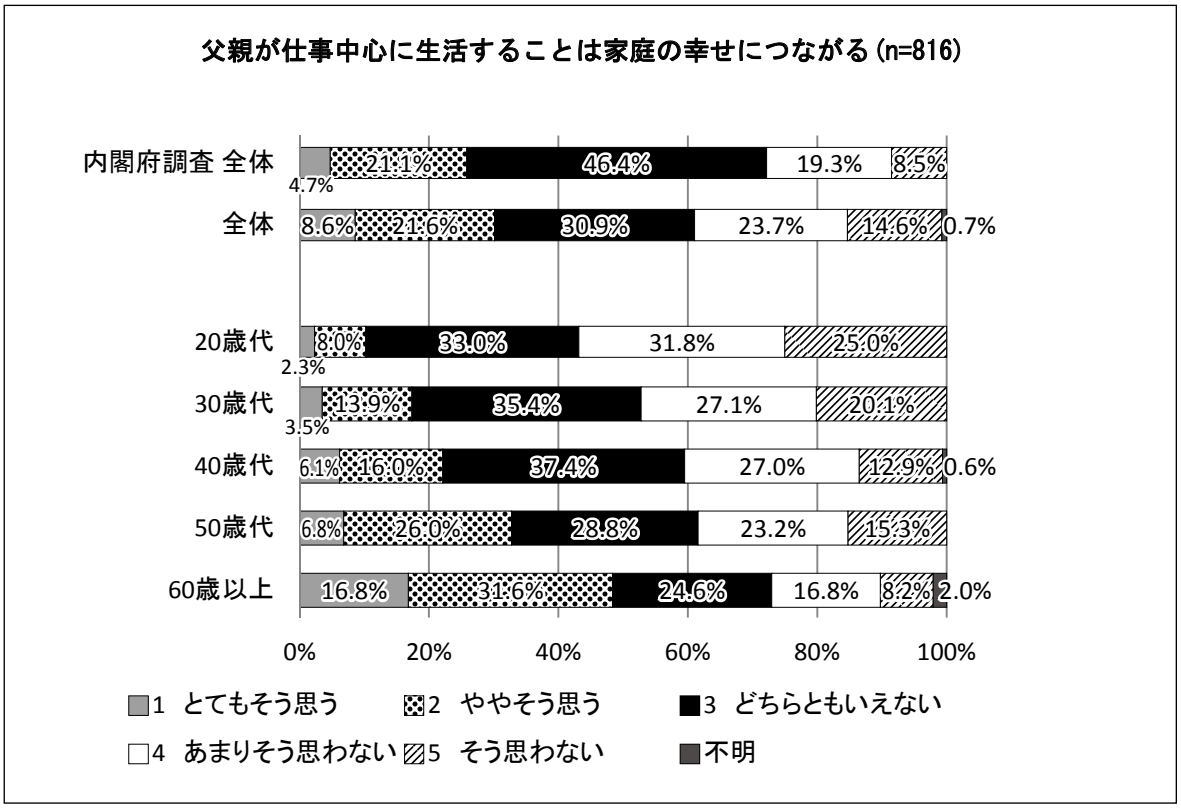
⑥　自分の親に介護が必要になったら介護は妻にしてほしい



⑥は「自分の親に介護が必要となったら介護は妻にしてほしい」という考え方についての設問である。これについては、「とてもそう思う」4.9%、「ややそう思う」19.4%、「どちらともいえない」41.8%、「あまりそう思わない」19.7%、「そう思わない」13.4%となっている。「どちらともいえない」が最も多いが、「思う」回答よりも「思わない」回答の方が多く、必ずしも自分の親の介護について妻に頼ると考えているわけではないことが分かる。内閣府調査では、「とてもそう思う」3.8%、「ややそう思う」20.1%、「どちらともいえない」46.4%、「あまりそう思わない」20.2%、「そう思わない」9.5%となっており、同様の傾向が示されている。

年齢による違いを見ると、「思う」という回答は20歳代で5.7%にすぎないが、30歳代で15.3%、40歳代で23.9%、50歳代で27.1%、60歳代で34.5%と次第に増加する傾向を示している。年齢が上がるほど、自分の親の介護に対して妻に期待している回答者の割合が多くなっている。

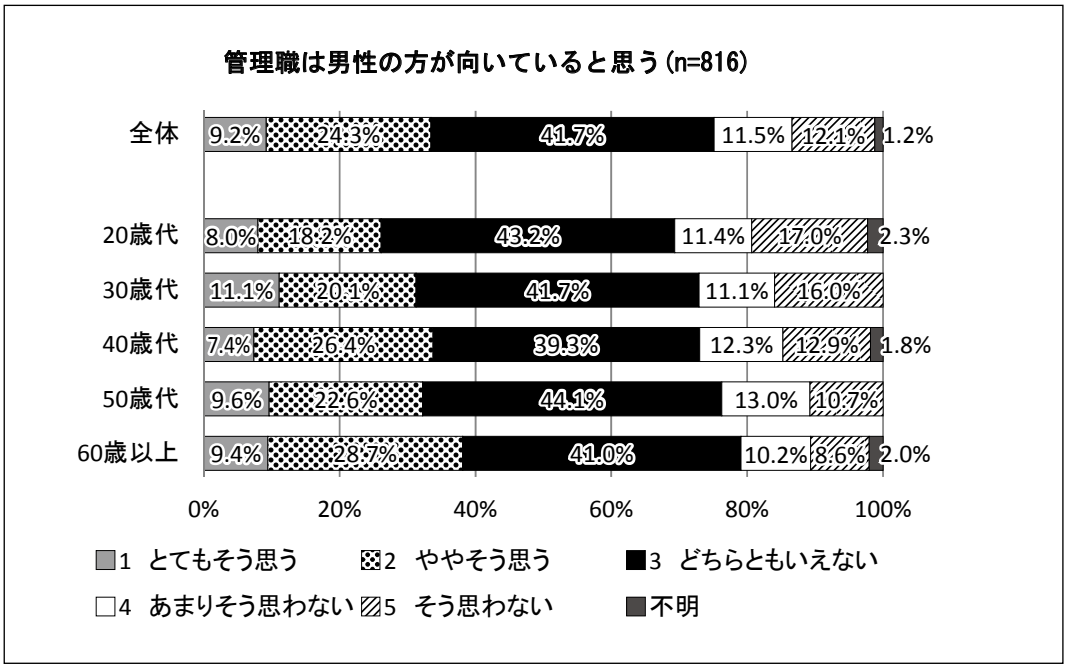
⑦　父親が仕事中心に生活することは家庭の幸せにつながる



⑦は「父親が仕事中心に生活することは家庭の幸せにつながる」という考え方について尋ねたものである。これについては、「とてもそう思う」8.6%、「ややそう思う」21.6%、「どちらともいえない」30.9%、「あまりそう思わない」23.7%、「そう思わない」14.6%となっており、意見が分かれているが、どちらかといえば「思わない」傾向の回答が多くなっている。内閣府調査の同じ質問に対する回答は、「とてもそう思う」4.7%、「ややそう思う」21.1%、「どちらともいえない」46.4%、「あまりそう思わない」19.3%、「そう思わない」8.5%となっており、「思う」回答（25.8%）と「思わない」回答（27.8%）がほぼ同じであるものの、「思わない」回答の方がわずかながら多く、今回の松山市調査の結果と同じである。

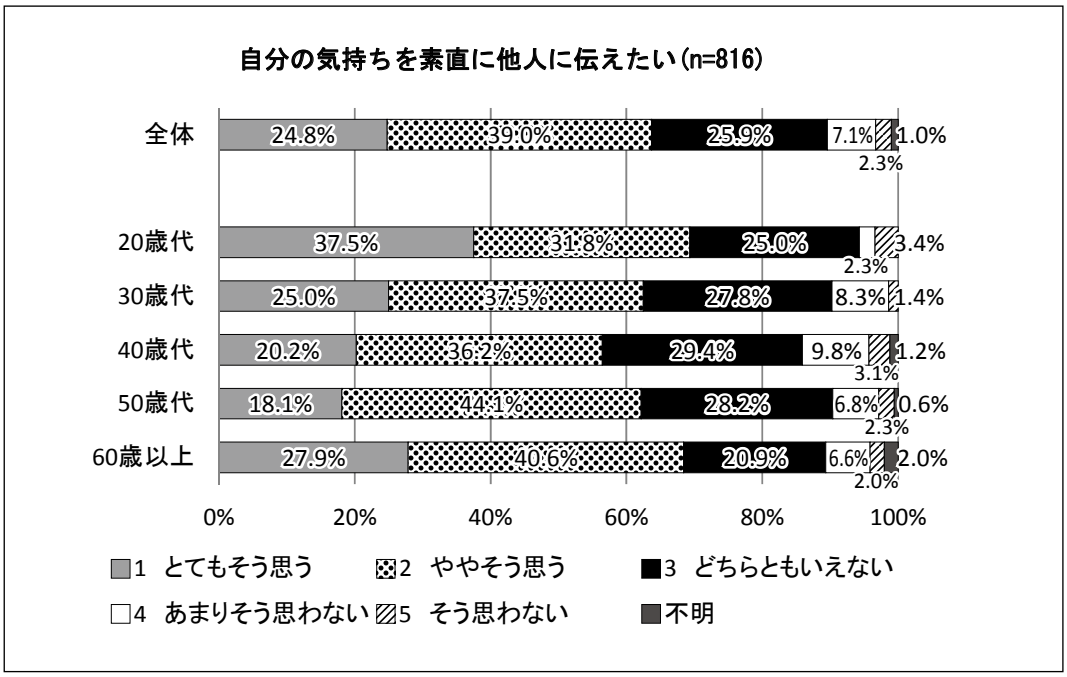
この設問についても年齢による違いが顕著にあらわれており、20歳代では「思う」という回答がわずかに10.3%にすぎないが、30歳代で17.4%、40歳代で22.1%、50歳代では32.8%、60歳代で48.4%となって、20歳代と60歳代ではかなり大きな違いがみられる。若い年齢では、仕事中心の父親の存在が必ずしも家庭の幸福にはつながらないと考えている回答者が多いものと思われるが、年齢が上がるにつれて次第に、父親が仕事中心であることが家庭の幸福につながるという考え方が増えていることになる。

⑧　管理職は男性の方が向いていると思う



⑧は「管理職は男性の方が向いていると思う」という考え方について尋ねたものである。これについては、「とてもそう思う」9.2%、「ややそう思う」24.3%、「どちらともいえない」41.7%、「あまりそう思わない」11.5%、「そう思わない」12.1%となっている。圧倒的に「どちらともいえない」という回答が多く、どの年代においても同じである。ただし、年齢が上がるにつれて「思う」という回答が少しずつ増加し、「思わない」という回答が減少する傾向がみられる。

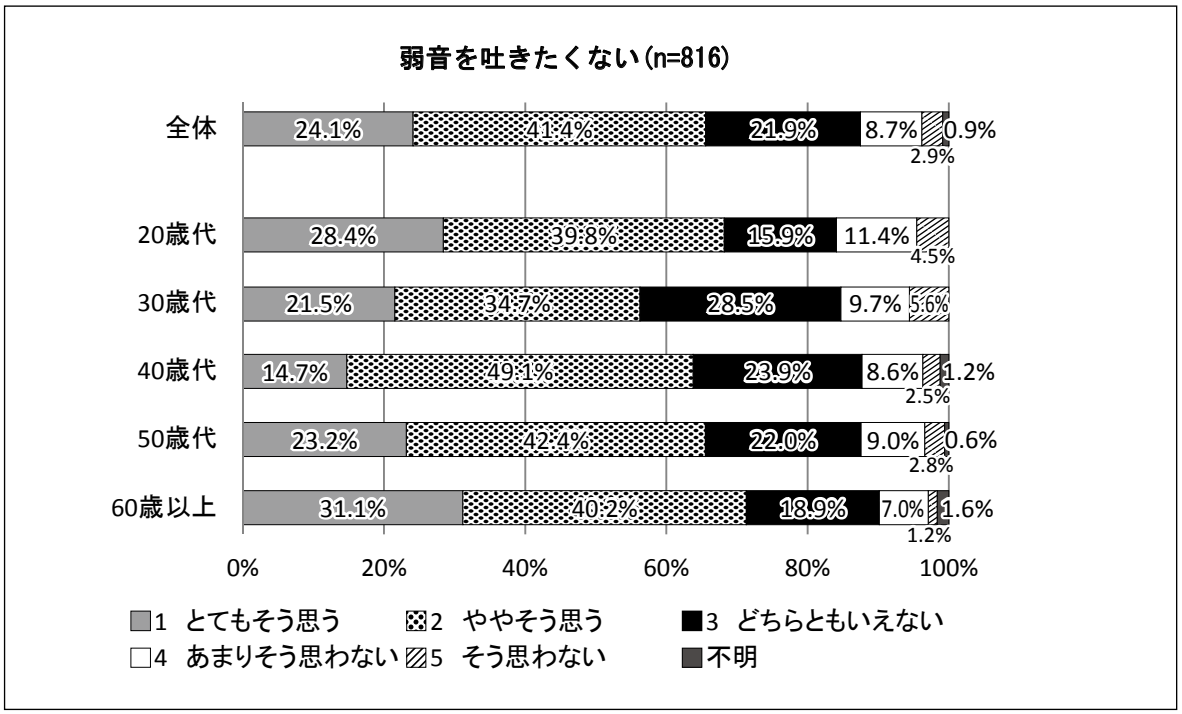
⑨　自分の気持ちを素直に他人に伝えたい



⑨は「自分の気持ちを素直に他人に伝えたい」という考え方について尋ねたものである。回答は「とてもそう思う」24.8%、「ややそう思う」39.0%、「どちらともいえない」25.9%、「あまりそう思わない」7.1%、「そう思わない」2.3%となっており、圧倒的に「思う」という回答が多い。

年齢による違いを見ると、20歳代と60歳代で「思う」という回答がそれぞれ69.3%、68.5%で、高い割合を示している。30歳代では62.5%、50歳代でも62.2%と６割を超えているのに対して、40歳代では56.4%で、他の年代に比べて少ない。また、50歳代で「とてもそう思う」が18.1%で、20%を超えている他の年代に比べて違いがみられる。しかし、どの年代においても、自分の気持ちを素直に伝えることに対して肯定的である。

⑩　弱音を吐きたくない



⑩は「弱音を吐きたくない」という考え方について尋ねたものである。これについては、「とてもそう思う」24.1%、「ややそう思う」41.4%、「どちらともいえない」21.9%、「あまりそう思わない」8.7%、「そう思わない」2.9%となっており、弱音を吐きたくないという気持ちが非常に強い結果となっている。

「思う」という回答について見ると、20歳代と60歳代でそれぞれ68.2%、71.3%と多く、40歳代と50歳代では63.8%、65.6%となっている。前掲の⑨の設問の「自分の気持ちを素直に他人に伝えたい」と考えている回答の傾向と同様の傾向が出ている。しかし、一方で「自分の気持ちを素直に他人に伝えたい」と「思う」回答が多く、他方で「弱音を吐きたくない」と「思う」回答が多いというのは男性特有の心の葛藤であろう。

「思う」という回答が最も少ないのが30歳代で、56.2%である。ただし、「とてもそう思う」という回答に限定すると、40歳代が14.7%で他の年代に比べてかなり少ない。

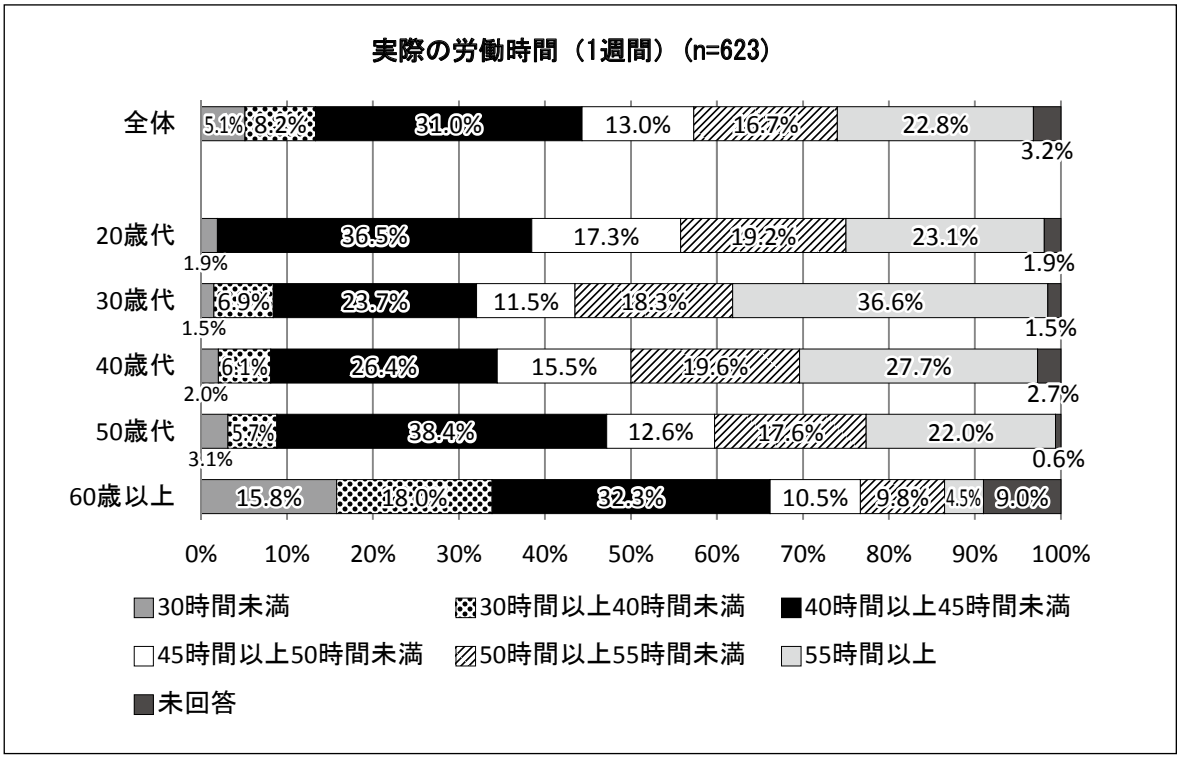
※問14全体のまとめ

問14全体について見ると、「妻が家計を担うこと」などにみられるように、妻の就労に対する意識はかなり肯定的になっている傾向が示されており、自分の親の介護について必ずしも妻に頼るとは考えていない回答や父親の仕事中心の生活が家庭の幸福には結びつかないと考えている回答も多く、家庭生活における男女の役割分担については柔軟な考え方がみられる部分がある。しかし、子どもに手がかかる時期には妻の就労に消極的な考え方の回答の方が多く、育児については妻にまかせたいという意識がみられる。また、男性中心の家庭生活というイメージが強い回答者は、年齢が上がるにつれて多くなる傾向がみられる。

【就業中の方にお伺いします】

問15　あなたの１週間の労働時間についてお伺いします。

ア）実際の労働時間（ばらつきがある場合は、平均的な労働時間をご記入ください。）

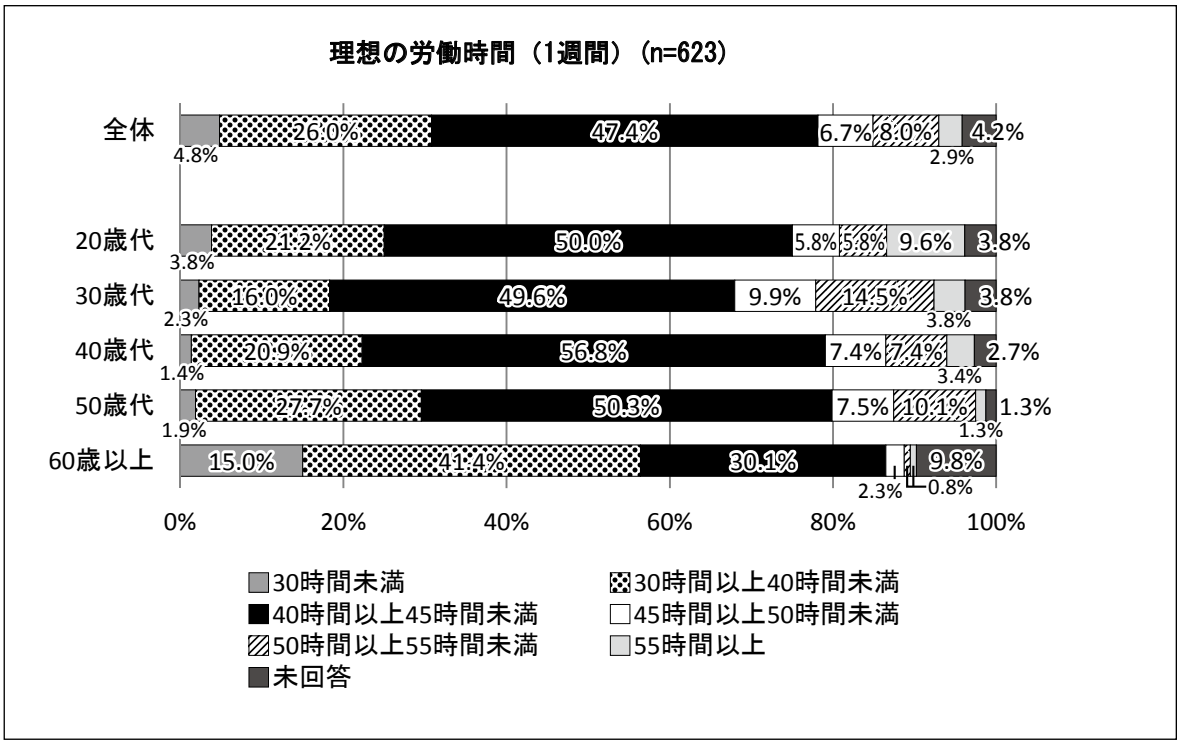


現在就業中の人に、１週間の労働時間について尋ねた結果、「40時間以上45時間未満」が31.0％と最も多い。次いで、「55時間以上」の22.8％、「50時間以上55時間未満」が16.7％と続いている。１週間の労働時間が40時間以上と回答した（「40時間以上45時間未満」「45時間以上50時間未満」「50時間以上55時間未満」「55時間以上」の回答を合算）のは、全体の83.5％と８割を超えており、そのうち50時間以上と回答した人は39.5％と約４割を占めている。今回の回答からは、やや長時間労働の傾向がみてとれる。一方、「30時間未満」と回答したのは5.1％、「30時間以上40時間未満」と回答したのは8.2％である。

これを年代別にみると、40時間以上と回答したのが最も多いのは、20歳代で96.1％である。30歳代、40歳代、50歳代では、それぞれ90.1％、89.2％、90.6％と９割前後とほぼ同率であるが、60歳代になると57.1％と約６割に減少している。さらに、長時間労働の傾向にあるといえる「55時間以上」と回答した人の割合を取り上げてみると、30歳代が最多で36.6％、次いで40歳代27.7％、20歳代23.1％と

続いており、回答者の中では30歳代に最も長時間労働に従事している割合が多く、年代が上がるにつれて割合が減少していることがわかる。逆に、「30時間未満」と回答したのが最も多いのは60歳以上で15.8％と１割を超えているが、それ以外の年齢層ではいずれも１割に満たず、50歳代では3.1％、40歳代2.0％、30歳代1.5％、20歳代1.9％となっている。

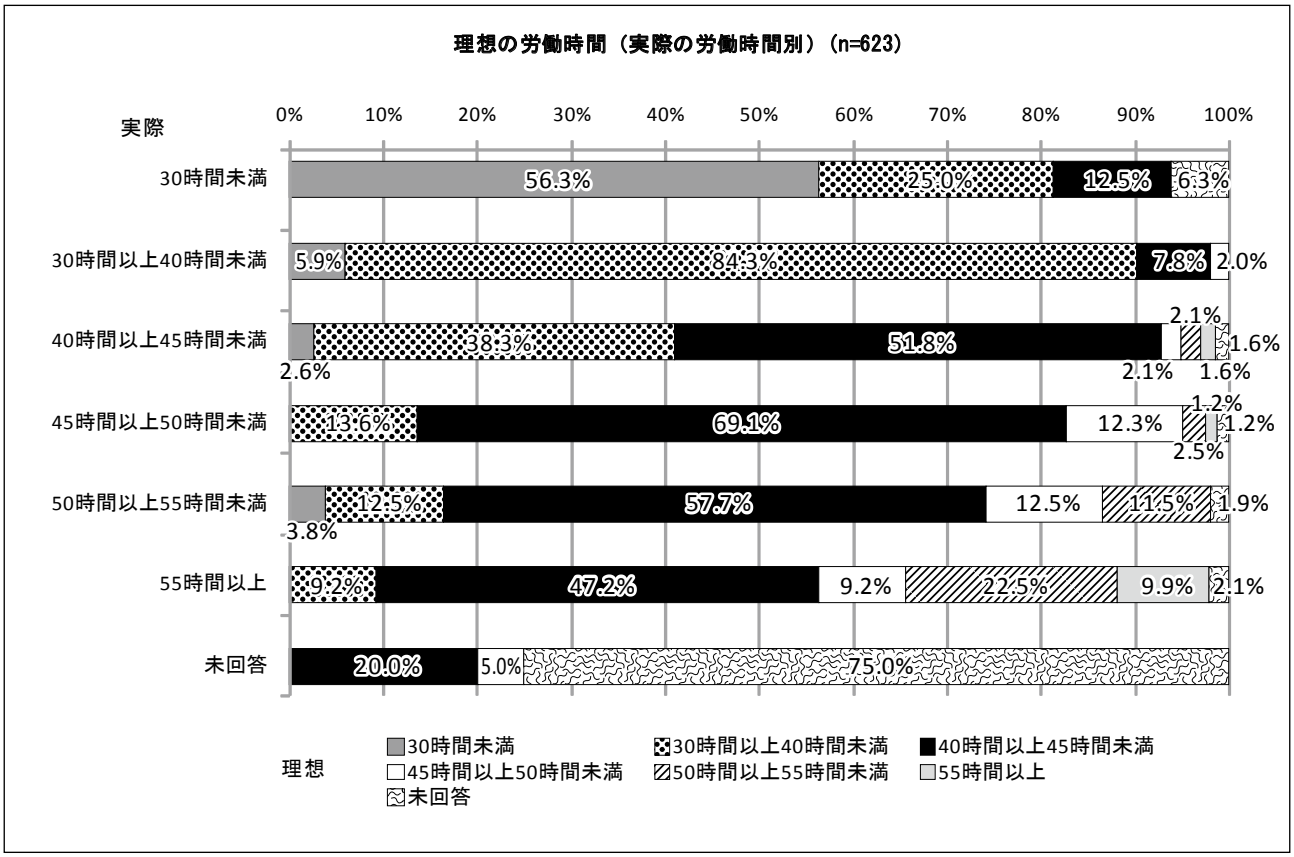
イ）あなたが「理想とする労働時間」は、１週間あたりどのくらいですか。その時間をご記入ください。



次に、理想とする労働時間について尋ねた結果、「40時間以上45時間未満」が47.4％と半数に近い数値となっている。次いで、「30時間以上40時間未満」26.0％となっており、労働基準法に示された40時間前後というものを理想の労働時間と掲げる人が73.4％と８割を占めるということである。

これを年代別にみると、40時間未満という回答が最も多いのは、60歳以上で56.4％、次いで50歳代29.6％、40歳代22.3％、30歳代18.3％となっているので、20歳代を除き、年齢が上がるにつれて労働時間をやや抑制しながら働きたいという希望があることがうかがえる。一方、「55時間以上」と回答した割合が最も多いのは20歳代で9.6％であり、年齢が上がるにつれてこの割合は減少している。

〈実際の労働時間と理想の労働時間とのクロス集計〉

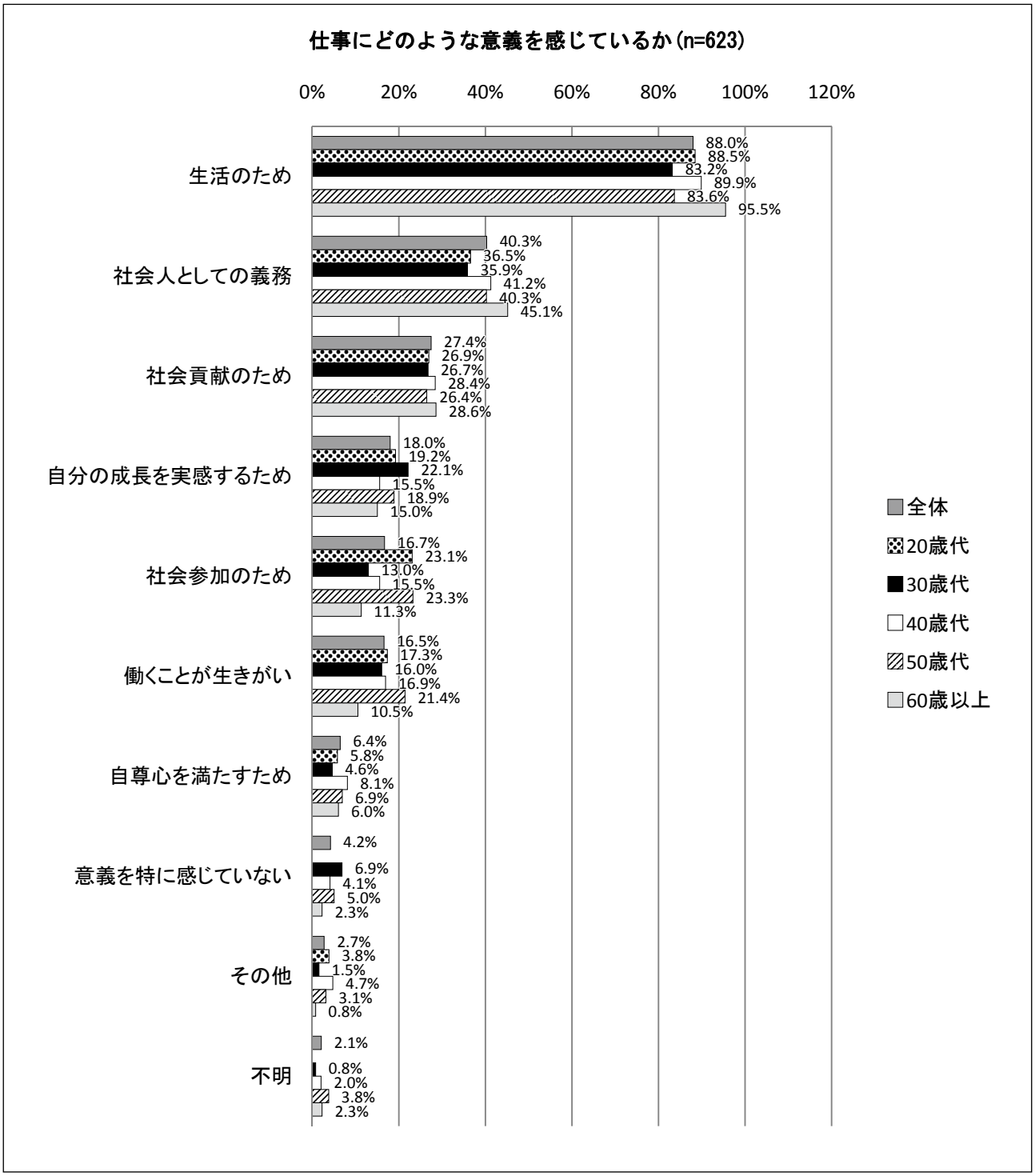


さらに、実際の労働時間と理想とする労働時間をクロスしてみると、実際の労働時間が45時間未満の人は概ね自分と理想とする労働時間内に働くことができており、それ以上の人は、理想とする労働時間を「40時間以上45時間未満」と回答する割合が最も多くなっていて、実際の労働時間が長くなればなるほど理想の労働時間との乖離が大きいことをあらわしている。具体的な数値を上げると、実際の労働時間が「45時間以上50時間未満」という人は69.1%、「50時間以上55時間未満」の人は57.7%、「55時間以上」の人は47.2%の人が「40時間以上45時間未満」が理想であると回答している。こうした実態と理想の隔たりが問13に示した現在の生活満足度につながっているのであろう。

しかしながら、その一方で、労働実態が長時間の人ほど徐々に理想の労働時間数が減少しており、長時間労働を肯定し、容認する傾向にあるのではないかと推察される。

【就業中の方にお伺いします】

問16　あなたは、現在のお仕事にどのような意義を感じていますか。(○はいくつでも)



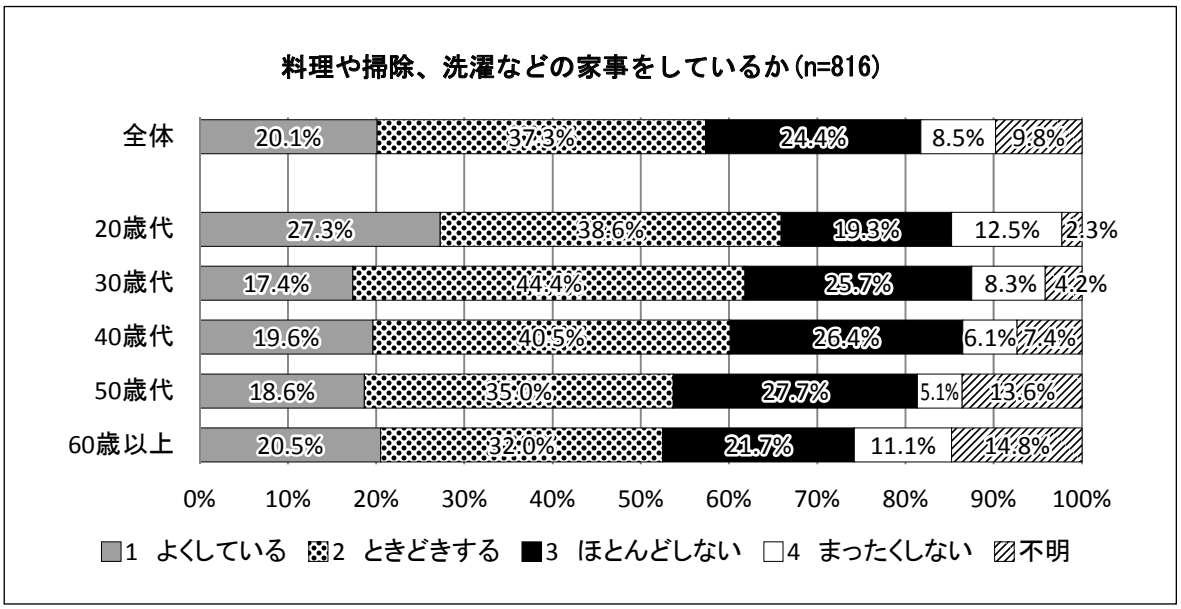
	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
1位	生活のため（88.0%）	生活のため（88.5%）	生活のため（83.2%）	生活のため（89.9%）	生活のため（83.6%）	生活のため（95.5%）
2位	社会人としての義務（40.3%）	社会人としての義務（36.5%）	社会人としての義務（35.9%）	社会人としての義務（41.2%）	社会人としての義務（40.3%）	社会人としての義務（45.1%）
3位	社会貢献のため（27.4%）	社会貢献のため（26.9%）	社会貢献のため（26.7%）	社会貢献のため（28.4%）	社会貢献のため（26.4%）	社会貢献のため（28.6%）
4位	自分の成長を実感するため（18.0%）	社会参加のため（23.1%）	自分の成長を実感するため（22.1%）	働くことが生きがい（16.9%）	社会参加のため（23.3%）	自分の成長を実感するため（15.0%）
5位	社会参加のため（16.7%）	自分の成長を実感するため（19.2%）	社会参加のため（13.0%）	自分の成長を実感するため（15.5%） 社会参加のため（15.5%）	働くことが生きがい（21.4%）	
6位	働くことが生きがい（16.5%）				自分の成長を実感するため（18.9%）	
7位	自尊心を満たすため（6.4%）					
8位	意義を特に感じていない（4.2%）					

現在の仕事に対して、どのような意義を感じているかについて「生活のため」「社会人としての義務」「社会参加のため」「社会貢献のため」「働くことが生きがい」「自尊心を満たすため」「自分の成長を実感するため」「その他」という８項目を示し、さらに「意義を特に感じていない」を加えて複数回答で尋ねた。その結果、全体的には、「生活のため」が最多で88.0％と約９割で圧倒的に多く、次いで「社会人としての義務」が40.3％、「社会貢献のため」27.4％と続いている。以下は、10％台で「自分の成長を実感するため」18.0％、「社会参加のため」16.7％、「働くことが生きがい」16.5％、「自尊心を満たすため」6.4％と続いている。「意義を特に感じていない」という回答は、4.2％である。日常生活を営んでいくための経済的理由を第１位に挙げているものの、第２位、第３位には、働くことは社会人のひとりとして果たすべき義務であると捉えており、さらには、働くことで自分の持っている知識・能力等を社会のために活かすという社会貢献としての意義を感じているなど、個人と社会との関わりという視点で捉えている傾向が強いことがわかる。

これらを年代別にみると、上位３位はいずれの年代も同様である。働くことは生活のためであること、さらには社会人としての義務であり、社会貢献としても必要なことであると認識することは年代を超えた共通認識であることがわかる。20歳代は、上位３位に加えて社会参加と自分の成長という項目が挙げられており、30歳代は、それらが逆転しているが同様の項目が第４位、第５位にきている。まずは、仕事を通して社会参加をする20歳代から、徐々に実力をつけて自分自身の成長を実感するようになる過程を物語っているようである。さらに年代が上がると40歳代では「働くことが生きがい」という項目が挙げられている。50歳でも順位は変わるものの「働くことが生きがい」という回答が第５位に挙げられている。さらに60歳以上で働くことに意欲的に関わっている人は、「自分の成長を実感するため」という項目が第４位である。

問17　あなたは普段、料理や掃除、洗濯などの家事をしていますか。①～④の中からあてはまるもの一つを選択してください。またその理由をａ～ｊの中からあてはまるもの一つを選択してください。

家事（○は一つだけ）	その理由（○は一つだけ）
① よくしている →	ａ．自発的にしている
	ｂ．話し合いの上でしている
② ときどきする →	ｃ．仕方なくしている
③ ほとんどしない →	ｄ．仕事が忙しいからできない
	ｅ．家事は妻の役割だと思うからしない
	ｆ．格好悪いからしない
④ まったくしない →	ｇ．面倒くさいからしない
	ｈ．能力的に無理だからしない
	ｉ．話し合いの上でしない
	ｊ．その他（　　）

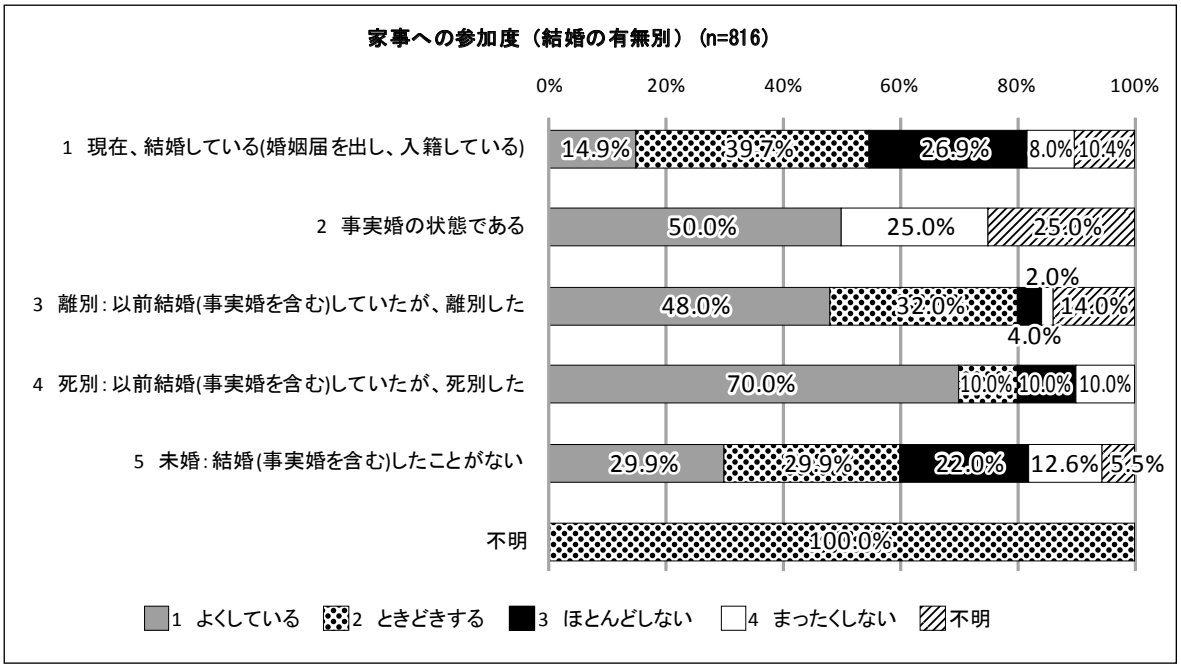


あなたは普段、料理や掃除、洗濯などの家事をしていますか、という問いに対し、「よくしている」「ときどきする」「ほとんどしない」「まったくしない」という４つの選択肢を示して回答を得た。その結果、「よくしている」と回答したのは20.1％と２割程度で、「ときどきする」37.3％である。両者を合わせると57.4％と約６割の人が普段の家事をしていると回答している。一方、「まったくしない」と回答したのは8.5％、「ほとんどしない」は24.4％である。

これらを年代別にみると、普段、家事をしていると回答したのが最も多いのは20歳代で「よくしている」27.3％、「ときどきする」38.6％で、65.9％の人が普段、家事を行っていると回答している。「よくしている」と回答した割合もすべての年代において、20歳代が最多の割合となっている。しかしながら、「まったくしない」と回答した割合もすべての年代において最多の12.5％で、家事への参加が両極端な層に分かれている点が特徴的である。家事を行っているという回答が多いのは、20歳代に次いで30歳代で、「よくしている」17.4％、「ときどきする」44.4％で合計すると61.8％という割合である。40歳代も、「よくしている」19.6％、「ときどきする」40.5％で、両者を合わせると60.1％と６割を若干超えている。50歳代になると、「よくしている」18.6％、「ときどきする」35.0％と両者を合わせた

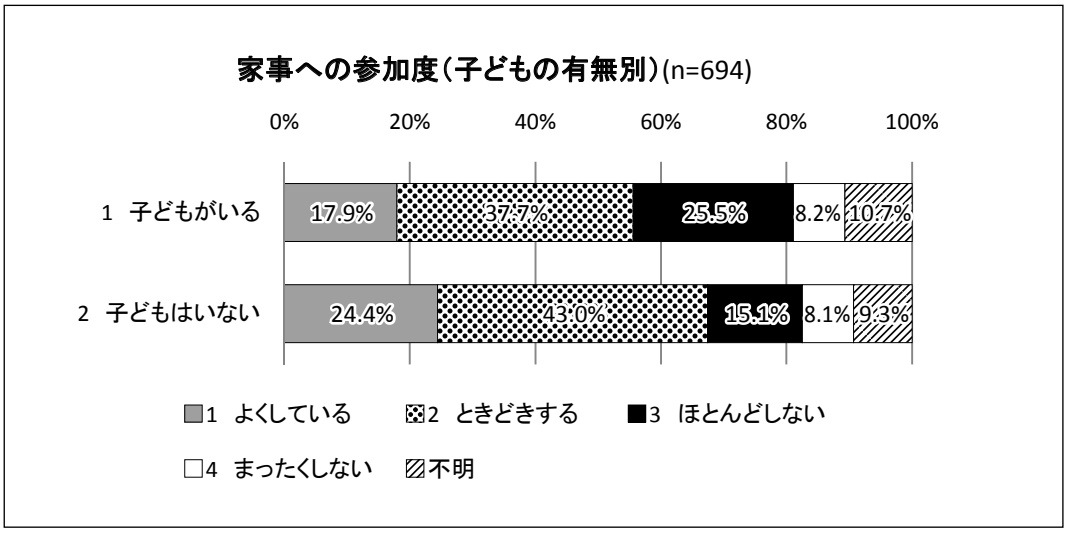
割合が６割を下回り53.6％となっている。さらに、60歳以上になると、その割合はさらに減少し、「よくしている」20.5％、「ときどきする」32.0％で52.5％である。全体的な傾向としては、年齢層が上がるにつれて、家事への参加度が低くなっているようである。

〈結婚の有無とのクロス集計〉



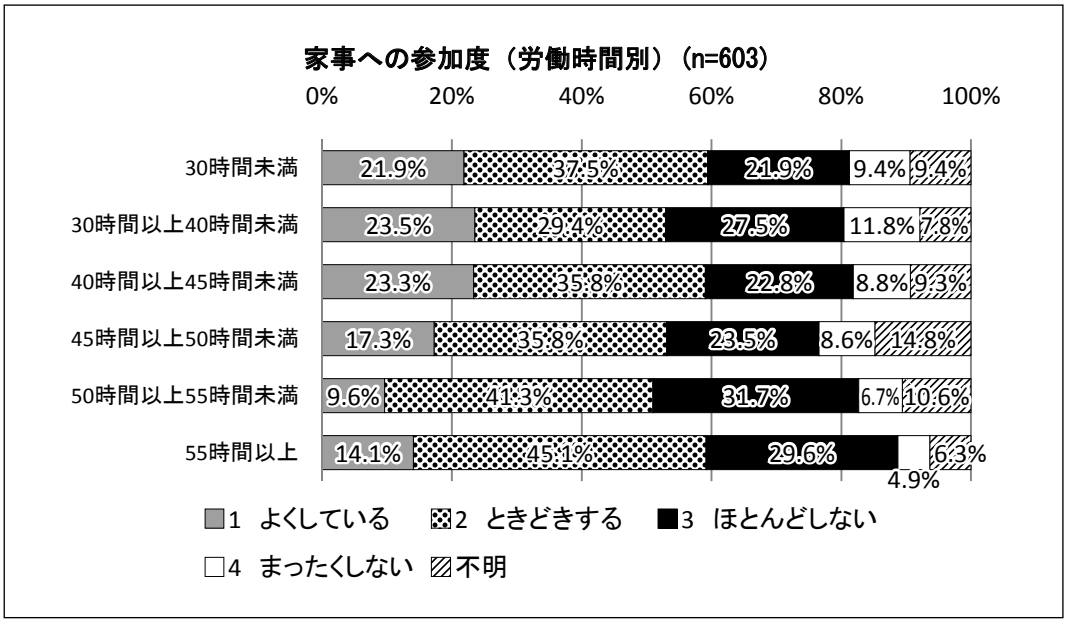
家事への参加度を結婚の有無との関係でみると、「現在、結婚している（婚姻届を出し、入籍している)」人は、「よくしている」と回答しているのが14.9％、「ときどきする」39.7％で、合計すると54.6％と過半数をわずかに超える人が日常の家事に参加していると回答している。一方、「未婚、結婚（事実婚を含む）をしたことがない」人は、「よくしている」29.9％、「ときどきする」29.9％で合計すると59.8％で、結婚している人よりもわずかながら家事参加の度合いが高いようである。未婚等結婚をしていない状況下では、自分以外に家事をする者がいない場合が多く、仕方なく家事をしている割合が高いことも予想される。しかしながら、そのような人も結婚を機に家事への関わり度合いが少なくなるということであろうか。

〈子どもの有無とのクロス集計〉

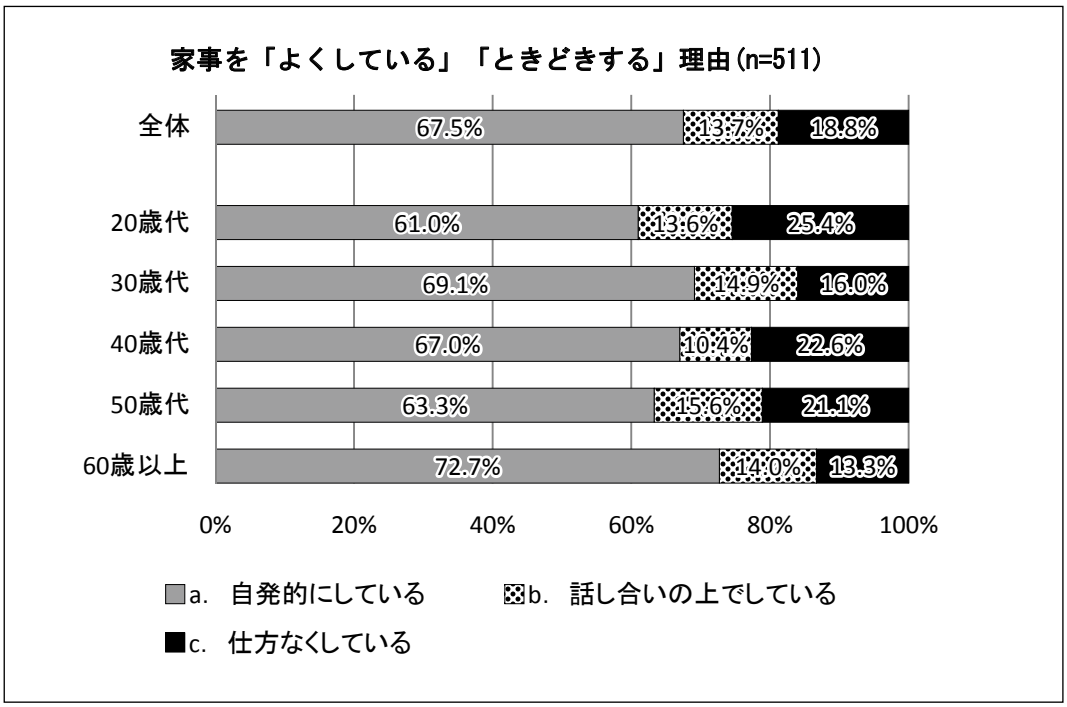


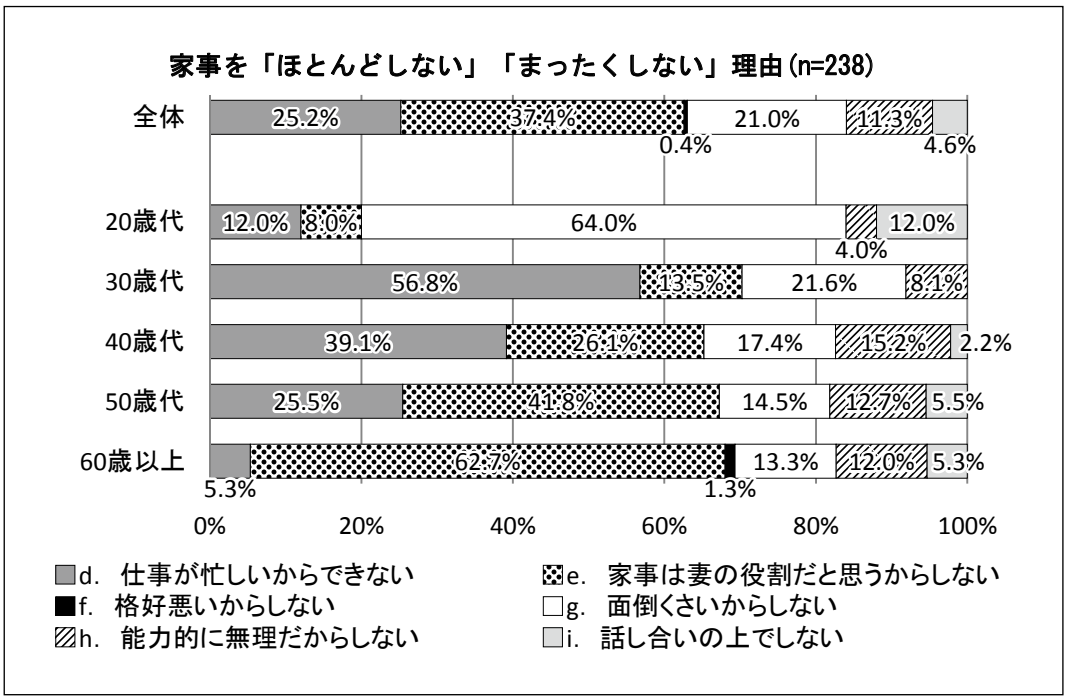
さらに、結婚をしている人の中で、子どもの有無による家事参加の度合いを見ると、「子どもがいる」人は、「よくしている」17.9%、「ときどきする」37.7%、合計すると55.6%である。一方、「子どもがいない」人は、「よくしている」24.4%、「ときどきする」43.0%で、合計すると67.4%と７割近い人が家事に参加していると回答している。子どもがいると回答した男性の方が家事参加の度合いが少ないという結果である。子どもがいる家庭では、男性の家事参加がより求められると思われるが、実態はそうではないようである。

〈実際の労働時間とのクロス集計〉



次に、男性の家事参加と労働時間との関わりをみると、「よくしている」という回答は、50時間以上の労働時間である人は９～15%、それ未満は20%前後と若干の違いがある。しかしながら、「ときどきする」を合わせるとほとんど60%前後の回答で、今回の調査からは労働時間の長短が家事参加を阻害している要因であるとまでは言えないようである。





家事への参加度合いについて、その理由を尋ねた結果、「よくしている」「ときどきする」の理由として最も多く回答があったのは、「自発的にしている」で67.5%、次いで、「仕方なくしている」18.8%、「話し合いの上でしている」13.7%と続いている。

「ほとんどしない」「まったくしない」理由としては、「家事は妻の役割だと思うからしない」37.4%が最も多く、「仕事が忙しいからできない」25.2%、「面倒くさいからしない」21.0%である。

年代別にみると、20歳代から50歳代は、「自発的にしている」と回答した割合が６割台の数値であるが、60歳代では72.7%と７割を超える結果となっている。家事をしているという回答が最も多いのは20歳代であったが、その実態は「仕方なくしている」の回答が25.4%とすべての年代において最多の結果であった。「話し合いの上でしている」という回答は、すべての年代において１割台とほぼ同率を示している。

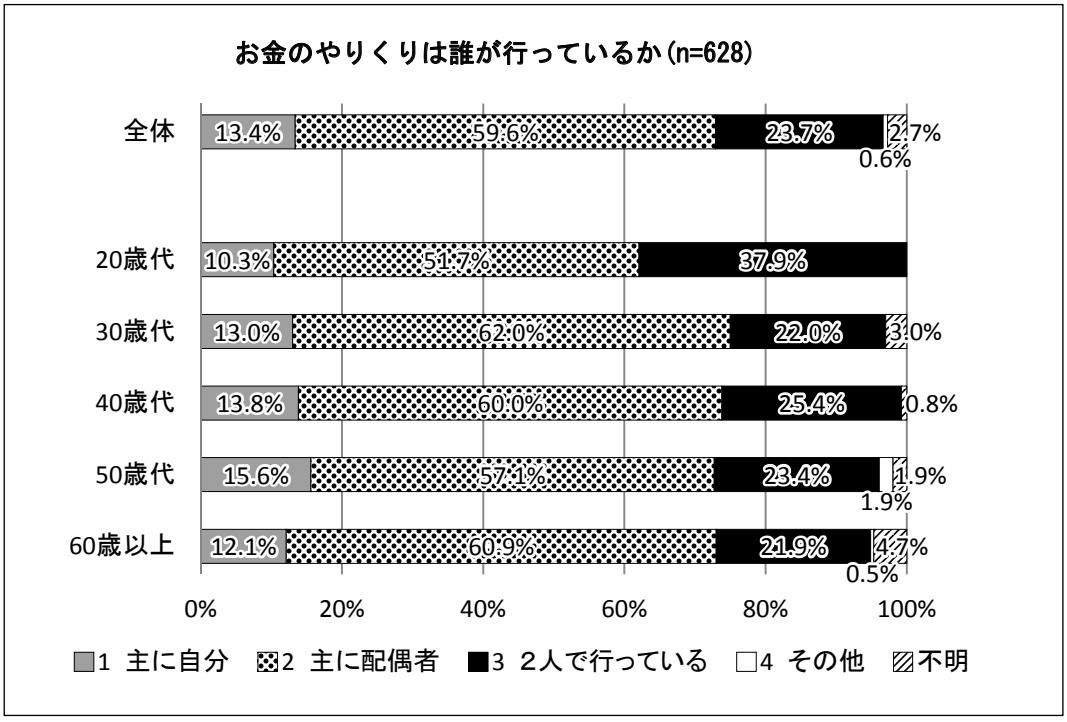
家事をしていない理由として、「家事は妻の役割だと思うからしない」という回答が最も多いのは60

歳以上で62.7%、次いで50歳代の41.8%となっており、年代が上がるにつれて、この理由を挙げる割合が多くなっていることがわかる。一方、若年層の理由で最も多く挙げられた回答は、「仕事が忙しいからできない」で、長時間労働の傾向にある30歳代で56.8%、40歳代で39.1%となっているが、20歳代の家事をしていない理由の第一位は、「面倒くさいからしない」で64.0%であるなど、男性が家事に参加しない理由については、年代別の理由が特徴的であることが明らかになった。

さらに、家事をしていない理由として「その他」を選択しているのが33件あり、そのうち、６件の未婚者の回答をみると、「親がしてくれるから」というのが５件、「必要に迫られていない」１件である。既婚者は24件で、そのうちの７件が、「妻がすべてしてくれるから」「専業主婦の妻がよく家事をこなしてくれるので」といった妻がするから自分の家事参加は不要であるという回答である。中には、「妻がしなくてよいと言う」「手伝おうとするといやがられる」というように、妻が夫の家事参加を望んでいないような回答も見られる。また、「頼まれたらするが、頼まれないから」と、普段の家事分担について、夫婦間でコミュニケーションがとられていないと思われるような回答もある。

【結婚または事実婚の状態の方にお伺いします】

問18　家計のお金のやりくり（何にいくら使うかを決めること）は、誰が行っていますか。
あてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）



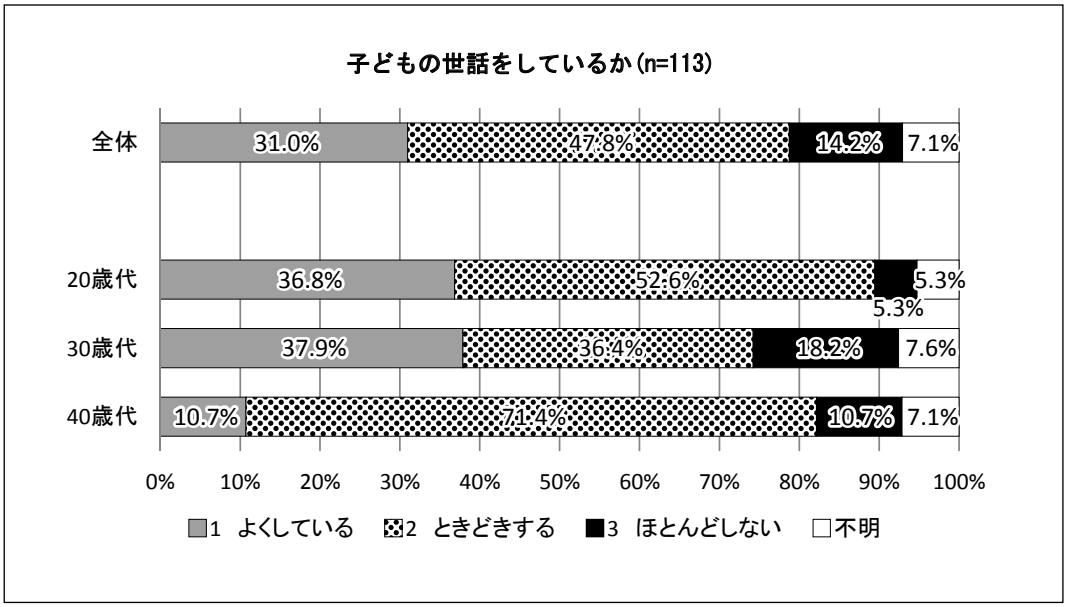
結婚または事実婚の状態にある人に対し、家計のお金のやりくり（何にいくら使うかを決めること）について、誰が行っているか尋ねた結果、「主に配偶者」と回答した割合が最も多く59.6%と約６割である。半数を超える家庭で、家計のやりくりを妻が中心に行っていることがわかる。次いで、「２人で行っている」23.7%で、「主に自分」と回答したのは13.4%である。

年代別にみても、いずれの年代においても「主に配偶者」という回答が過半数を超えており、最多であることに変わりはないが、30歳代、40歳代、60歳以上では６割を超えている。また、60歳以上を除くと、年齢が上がるにつれて、「主に自分」という回答が微増している。主に夫が家計のやりくりを行うという傾向が見受けられる中・高年に対して、20歳代では、特に「２人で行っている」という回答が多く37.9%と４割近い。

【未就学児のいる方にお伺いします】

問19　あなたは、子どもの世話をしていますか。①～④の中からあてはまるもの一つを選択してください。またその理由をａ～ｊの中からあてはまるもの一つを選択してください。

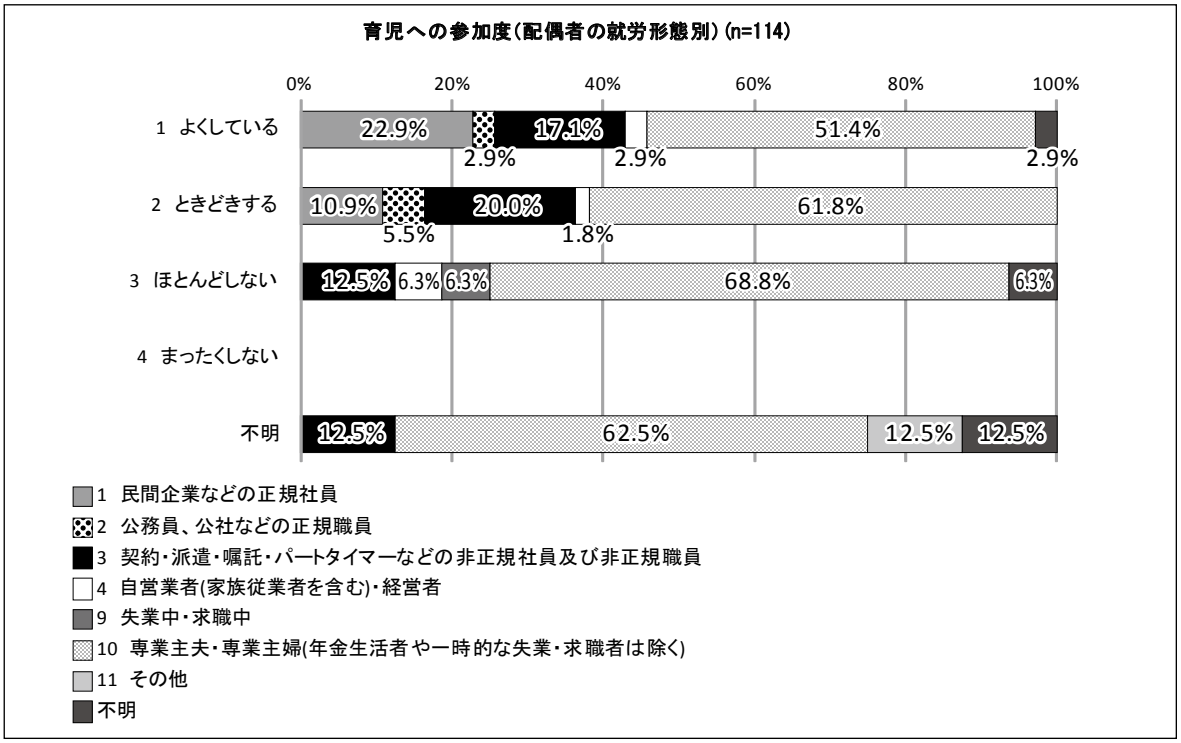
子どもの世話（○は一つだけ）	その理由（○は一つだけ）
①よくしている	ａ．自発的にしている
	ｂ．話し合いの上でしている
②ときどきする	ｃ．仕方なくしている
③ほとんどしない	ｄ．仕事が忙しいからできない
	ｅ．子どもの世話は妻の役割だと思うからしない
	ｆ．格好悪いからしない
④まったくしない	ｇ．面倒くさいからしない
	ｈ．能力的に無理だからしない
	ｉ．話し合いの上でしていない
	ｊ．その他（　　）



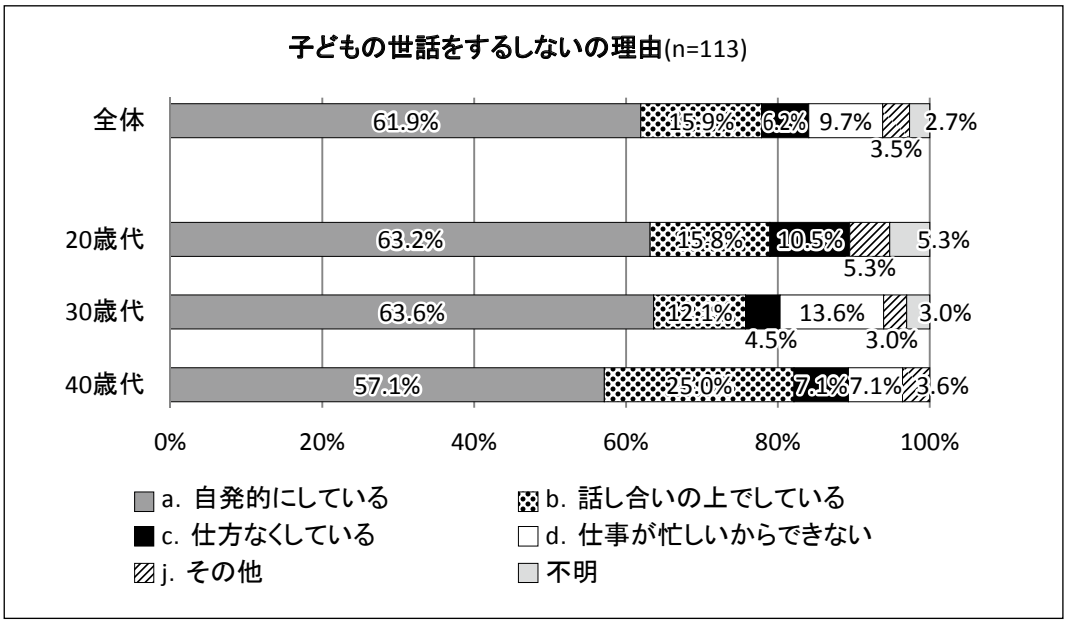
未就学児のいる人に対して、「あなたは、子どもの世話をしていますか」と尋ねた結果、「よくしている」31.0%、「ときどきする」47.8%と回答しており、それらを合算すると78.8%、約８割の人が子どもの世話をしていると回答している。「ほとんどしない」は14.2%と１割強の人が回答している。

年代別にみると、「よくしている」という回答が多いのは20歳代、30歳代で36.8%、37.9%とともに約４割である。「ときどきする」は、20歳代で52.6%であるのに対し、30歳代は36.4%である。「よくしている」と「ときどきする」を合わせた数値をみると、20歳代は、89.4%と９割が子どもの世話をしているという回答であるのに対し、30歳代は74.3%とやや少ない。さらに40歳代になると、「よくしている」のは10.7%と約１割であり、「ときどきする」は71.4%と、両者を合わせると82.1%である。「ほとんどしない」という割合は、30歳代で18.2%と最も多くなっており、40歳代10.7%、20歳代5.3%となっている。育児への参加度は、20歳代、40歳代、30歳代という順で強いようである。

〈配偶者の就労形態とのクロス集計〉



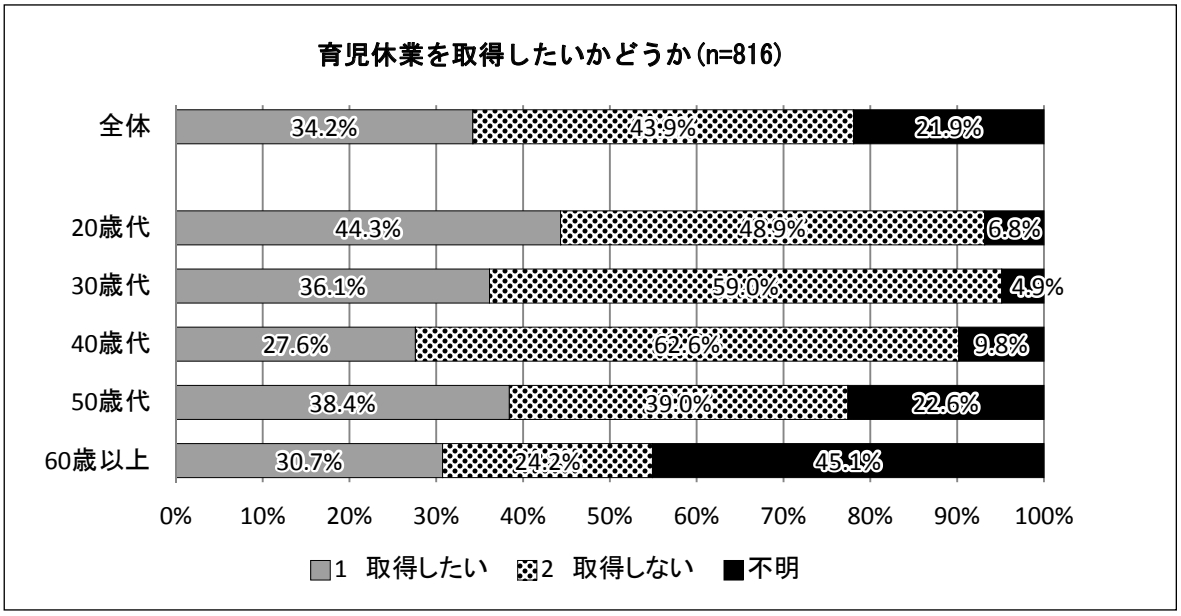
育児への参加度は、配偶者の就労形態によって異なるのかどうか比較してみたところ、「よくしている」と回答した人の51.4％は配偶者が専業主婦である。民間企業などの正規社員は22.9％、公務員、公社などの正規職員は2.9％、契約・派遣・嘱託・パートタイマーなどの非正規職員は17.1％であるから、男性の育児への参加は、配偶者の就労形態には影響されていないのではないかということが推察される。



育児への参加の有無について、その理由を尋ねた結果、「自発的にしている」が61.9％と６割を超えており、家事への参加理由で挙げた割合よりも多くなっており、家事よりも育児の方が自発的に参加していることがわかる。また、「仕事が忙しいからできない」という理由は、30歳代で多く13.6％である。一方、「仕方なくしている」という回答は、全体では6.2％であるが、20歳代では10.5％と30歳代の4.5％、40歳代の7.1％と比較しても多くなっている。40歳代の特徴は、「話し合いの上でしている」という回答が25.0％と他の年代が１割程度であるのと比較すると圧倒的に多い年代となっている。

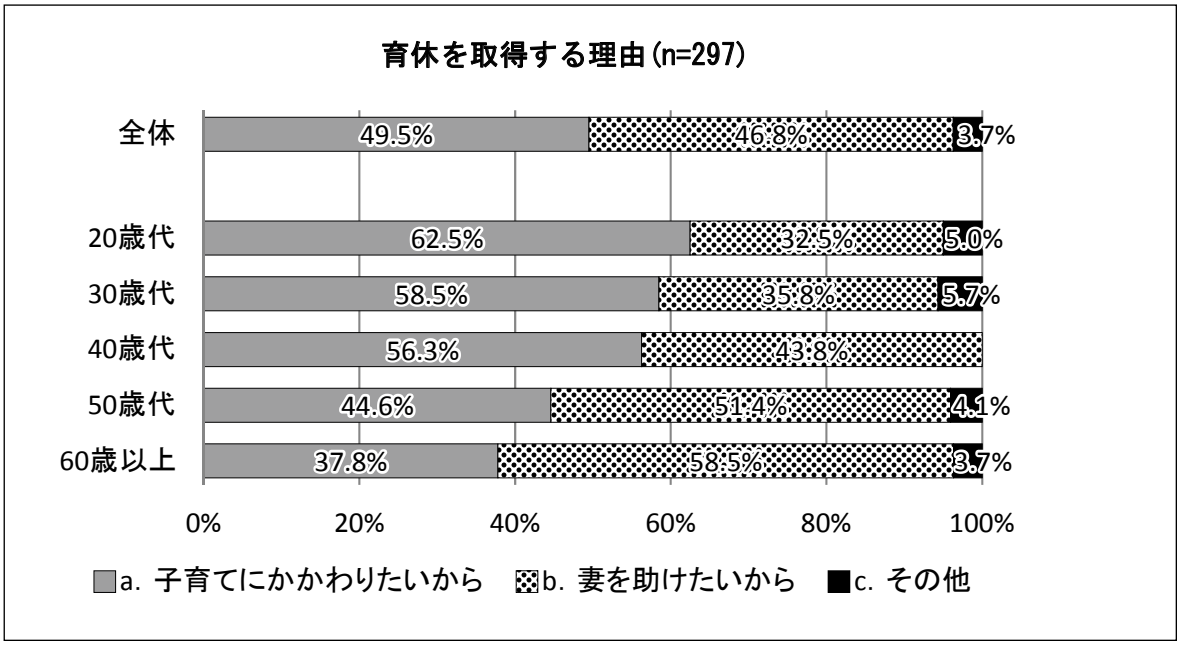
問20　あなたは、これから子どもが生まれるとしたら育児休業を取得したいと思いますか。
①か②のうち、あてはまるもの一つを選択してください。またその理由をａ～ｉの中からあてはまるもの一つを選択してください。

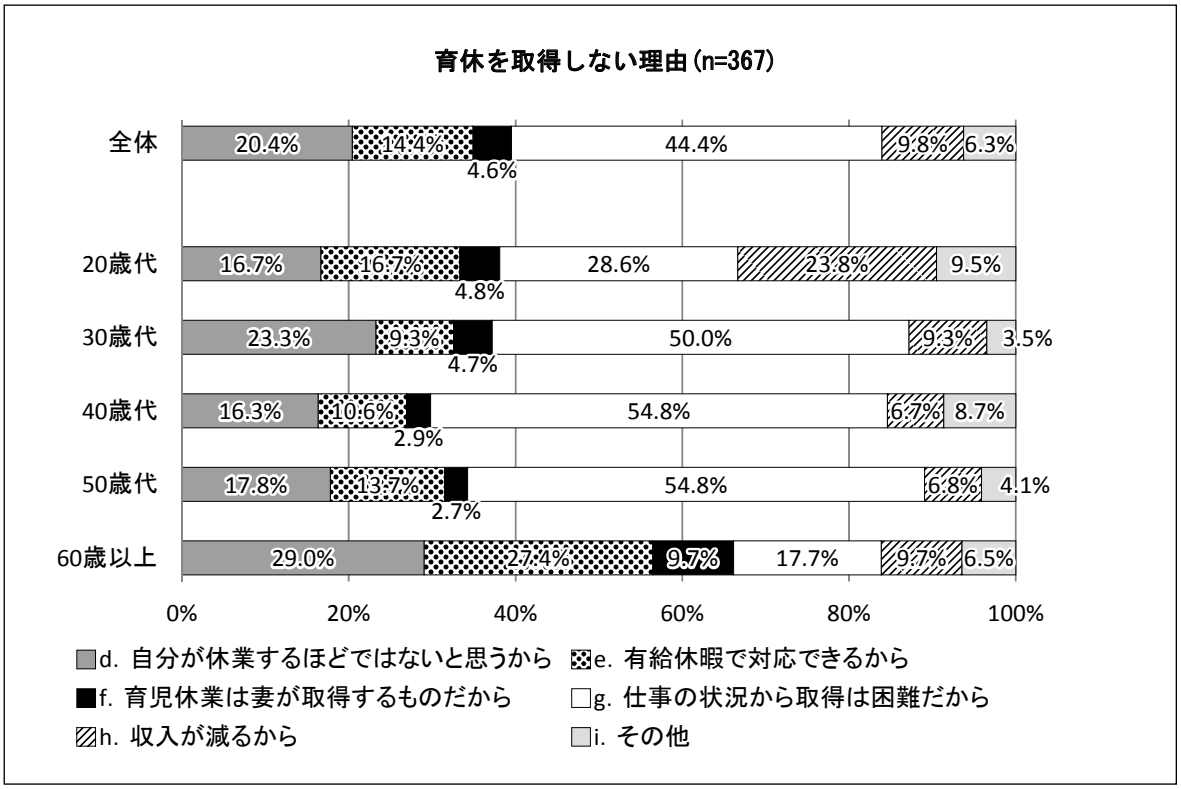
育児休業（○は一つだけ）		その理由（○は一つだけ）
①取得したい	⟶	ａ．子育てにかかわりたいから ｂ．妻を助けたいから ｃ．その他（　　）
②取得しない	⟶	ｄ．自分が休業するほどではないと思うから ｅ．有給休暇で対応できるから ｆ．育児休業は妻が取得するものだから ｇ．仕事の状況から取得は困難だから ｈ．収入が減るから ｉ．その他（　　）



これから子どもが生まれるとしたら育児休業を取得したいかどうかについて尋ねた結果、「取得したい」という回答は34.2%、「取得しない」は43.9%で、「取得しない」がやや上回っている。

これを年代別にみると、「不明」という回答が45.1%と多い60歳以上を除いて、すべての年代で「取得しない」が「取得したい」を上回っている。中でも40歳代は62.6%と６割を超えて最も多い割合を示している。20歳代は「取得したい」が44.3%とどの世代よりも割合が多いものの、「取得しない」という回答も48.9%で半数近い。50歳代は、「取得したい」と「取得しない」が拮抗している唯一の年代である（38.4%、39.0%）。





取得したいという希望を有していることについて、その理由を見ると、全体では「子育てにかかわりたいから」49.5%、「妻を助けたいから」46.8%という回答が拮抗している。

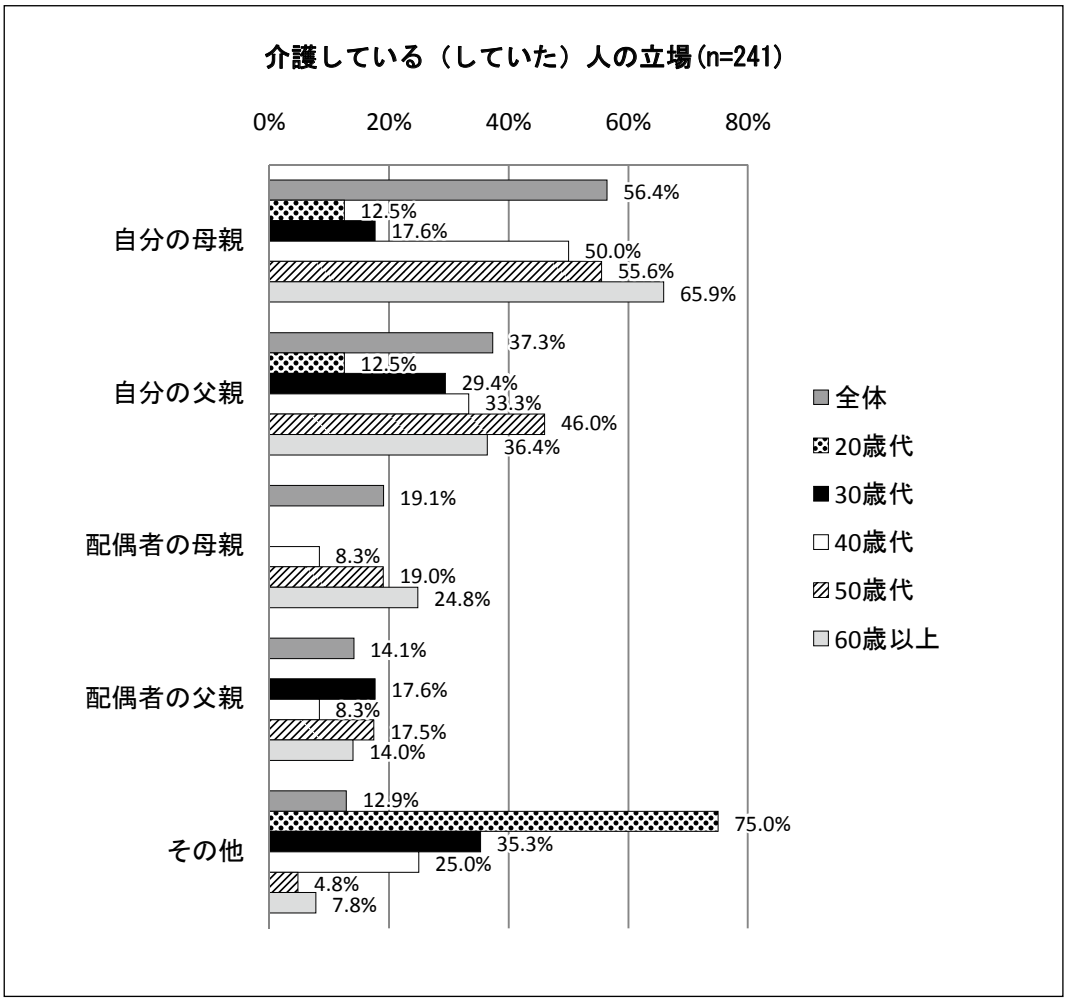
年代別にみると、それぞれ傾向が異なり、年代が若い方が「子育てにかかわりたいから」という回答がやや多いようであり、20歳代では62.5%、30歳代では58.5%となっている。「妻を助けたいから」は、50歳代で51.4%、60歳以上58.5%と過半数を超え、他の年代よりも割合が高くなっている。

一方、「取得しない」理由を見ると、「仕事の状況から取得は困難だから」が最も多く44.4%である。次いで、「自分が休業するほどではないと思うから」20.4%、「有給休暇で対応できるから」14.4%、「収入が減るから」9.8%と続いている。

育児休業を取得することを決定する要因は、仕事の状況が大きく関わっており、男性の育児休業取得を促進するためには、職場環境や働く環境を改善することが必要であろう。

【実際に介護にかかわっている、もしくはかかわったことのある方にお伺いします】

問21　介護を必要とした方は、あなたから見てどういう立場ですか。(○はいくつでも)



介護のかかわりについて、すべての年代について、自分の母親が56.4%、自分の父親が37.3%、配偶者の母親が19.1%、配偶者の父親が14.1%、その他が12.9%となっている。男性が介護にかかわる対象者として女性の割合が高いのは、女性の平均寿命が男性の平均寿命よりも長いことが影響している。

年代別にみると、20歳代では、自分の母親が12.5%、父親が12.5%、その他が75.0%となっている。20歳代のアンケート対象者88名中、かかわりをもった者８名と母数が少ない。これは20歳代の男性は、核家族化の影響で介護の経験が少ないことの表れであろう。そのなかで、その他が多いのは、同居している祖父母の介護にかかわったと考えられる。

30歳代では、自分の母親が17.6%、父親が29.4%、配偶者の父親が17.6%、その他が35.3%となっている。その他が35.3%とほかの者へのかかわりより高くなっているのは、20歳代同様、祖父母の介護が中心となっていると考えられる。厚生労働省の「出生動向調査」によると、男性の初婚は1950年から2010年までの間で男性の方が女性より２年から３年の範囲で遅くなっていて、家庭において父親が母親よりも年長であることが多いことから、30歳代では、父親に対する介護の割合が、母親に対する介護の割合よりも高くなっていると考えられる。

これが40歳代になると、自分の母親が50.0%、父親が33.3%、配偶者の母親が8.3%、配偶者の父親が8.3%と女性の長寿傾向が表れ、数値は逆転している。また、40歳代は、その他も25.0%となっており、男性にとって両親、祖父母の介護と介護の対象が重層化しているとみられる。

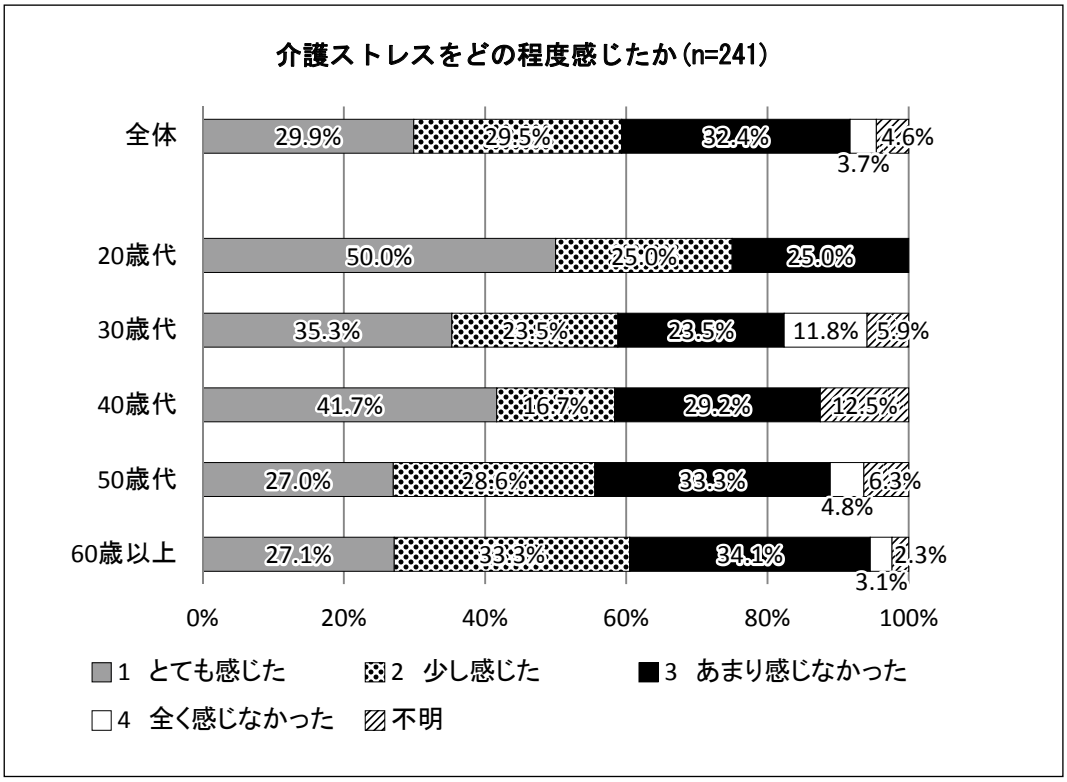
50歳代では、自分の母親が55.6%、父親が46.0%、配偶者の母親が19.0%、配偶者の父が17.5%と

なっており、介護の問題が深刻化していると考えられる。また、50歳代は社会的にも責任が重くなる年代であり、家庭内外でストレスがより高くなる頃と思われる。

60歳以上では、自分の母親が65.9%、父親が36.4%、配偶者の母親が24.8%、配偶者の父親が14.0%、その他7.8%となっている。自分の母親と配偶者の母親の割合が父親よりも高くなっているのは、男女の平均寿命の違いが関係していると考えられる。特に、この年代の両親の介護は、高齢介護度の上昇にともなう介護度の上昇と認知症の発症率の上昇で他の年代よりも男性の介護負担が大きいと考えられる。

【実際に介護にかかわっている、もしくはかかわったことのある方にお伺いします】

問22　介護のストレスをどの程度感じましたか。(○は一つだけ)



ストレスについて全体では、「とても感じた」が29.9%、「少し感じた」が29.5%、「あまり感じなかった」が32.4%、「全く感じなかった」が3.7%となっており、半数以上の男性にとって介護はストレスの原因となっている。

年代別では、20歳代が、「とても感じた」が50.0%、「少し感じた」が25.0%、「あまり感じなかった」が25.0%となっている。家庭の中で、20歳代は、男性が、通常実質的に初めて介護を行う年齢である。従来の日本社会において、介護は女性の役割とされてきたので、男性が初めて介護に直面すると大きなストレスを感じるのではなかろうか。

30歳代では、「とても感じた」が35.3%、「少し感じた」が23.5%、「あまり感じなかった」が、23.5%、「全く感じなかった」が11.8%となっている。40歳代では、「とても感じた」が41.7%、「少し感じた」が16.7%、「あまり感じなかった」が29.2%となっている。「とても感じた」が41.7%と多いのは、男性の両親や配偶者の両親など身近なところで、両親の年齢からくる介護度の上昇や認知症など介護をめぐる状況が厳しくなり始めているからであろう。

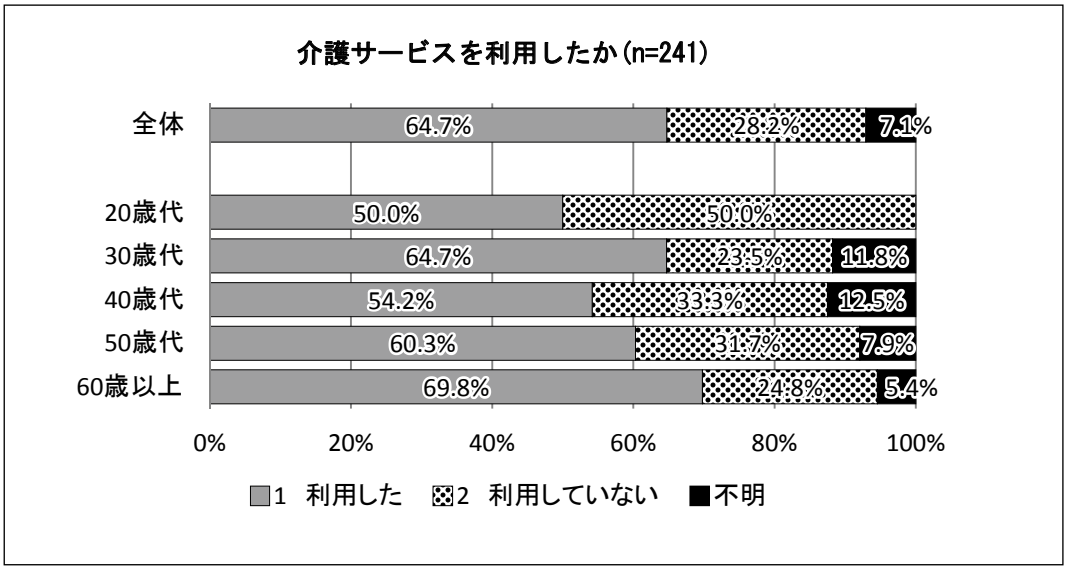
50歳代は、「とても感じた」が27.0%、「少し感じた」が28.6%である。40歳代に比べて母数が増え

ながら、かつ介護度が上昇していることが想像できるにもかかわらず、介護のストレスが減少しているのは、介護に慣れたり、介護サービスをうまく活用してることが考えられる。60歳以上は、「とても感じた」が27.1%、「少し感じた」が33.3%であった。

この結果から、男性に対して介護の知識を学ぶ場を提供したり、地域活動による支援や介護サービスによる支援を充実させれば、男性の介護ストレスは軽減できるのではなかろうか。それとともに、介護において大きな問題となっている認知症高齢者に対する地域全体での理解も男性の介護ストレスの軽減に不可欠である。

【実際に介護にかかわっている、もしくはかかわったことのある方にお伺いします】

問23　介護サービスを利用しましたか。(○は一つだけ)

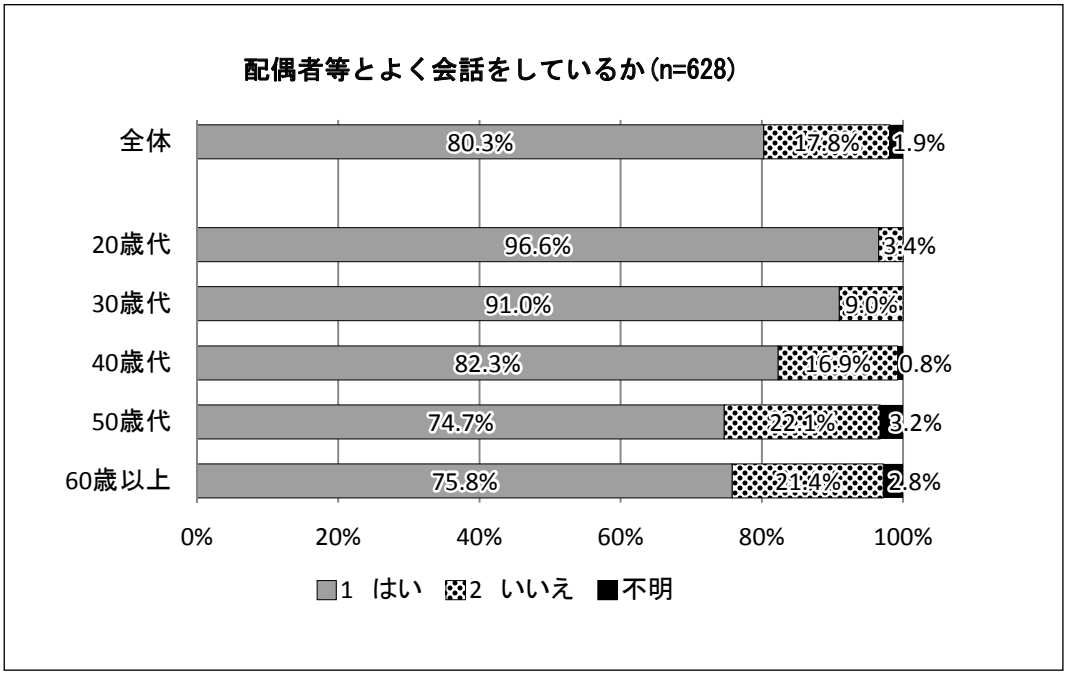


介護サービスの利用について、全体で64.7%の人が利用している。40歳代は、54.2%、50歳代は60.3%、60歳以上は69.8%が利用している。前問で「介護のストレスをとても感じた」と答えた割合が、40歳代の41.7%に対し、60歳以上は27.1%となっており、介護サービスを上手く活用すれば男性の介護ストレスが軽減できると考えられる。日本の社会においては、介護は女性の役割と決めつけられてきた傾向があるが、特に、60歳以上においてはその意識がいまでも根強く残っているようで、男性は、自身が介護について主体的な立場に置かれると戸惑うことが少なくない。行政や地域包括支援センターが介護について適切な相談援助を行うことにより男性の介護ストレスは軽減されるのではなかろうか。

【結婚または事実婚の状態の方にお伺いします】

問24　配偶者等との会話についてお伺いします。

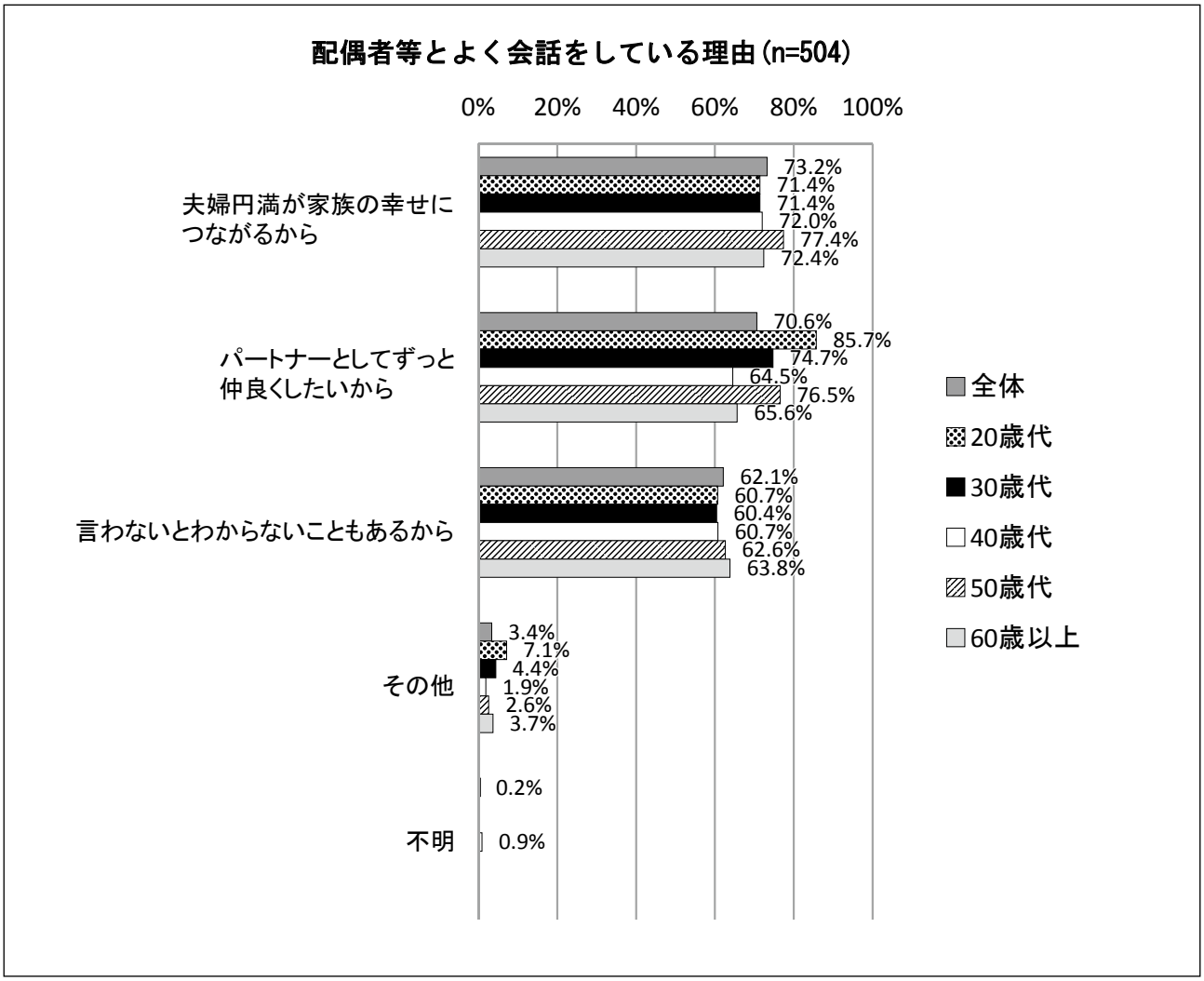
ア）あなたは、配偶者等とよく会話をしていますか。（○は一つだけ）



結婚または事実婚の状態の方に、配偶者等との会話について、「あなたは、配偶者等とよく会話をしていますか」という問いに「はい」「いいえ」で回答を求めた。その結果、配偶者等とよく会話をしていると回答した割合が80.3%、会話をしていないと回答した割合が17.8%と、会話をしているという回答が圧倒的に多く、配偶者等との日ごろのコミュニケーションは頻繁にとれていると感じている男性が多いようである。

普段から会話が多いと感じているのは、年代が比較的若い方が多く、20歳代では96.6%と９割を超えている。年代が上がるにつれて、その割合は減っており、30歳代では91.0%、40歳代82.3%、50歳代はもっとも低く74.7%、60歳以上でも75.8%と低い数値にとどまっている。

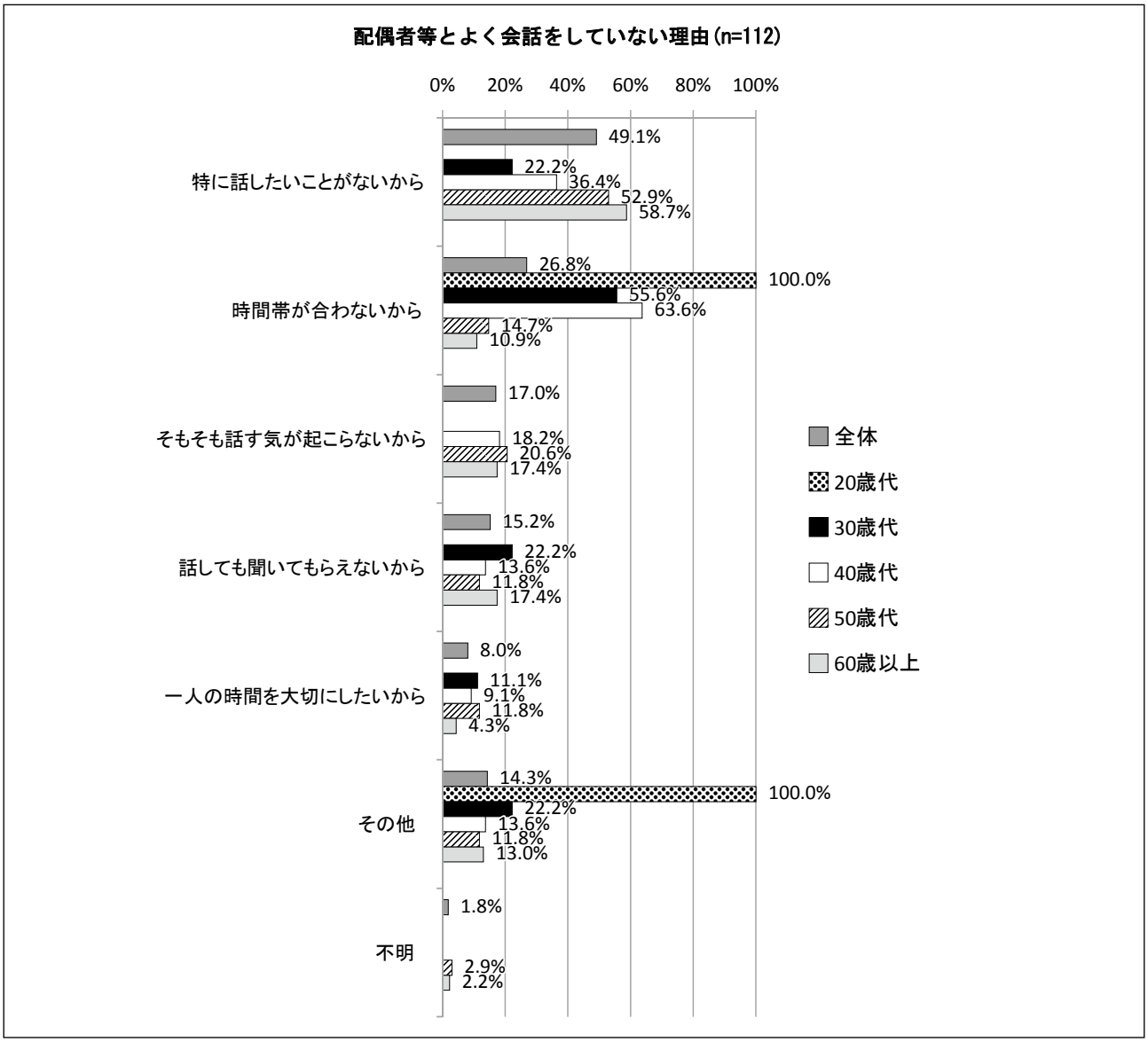
イ）その理由で、あてはまる番号すべてをご記入ください。（○はいくつでも）
「①はい」と回答した方



配偶者等との会話の頻度について、よく会話をしていると回答した理由を複数回答で尋ねた結果、全体では「夫婦円満が家族の幸せにつながるから」が最多で73.2%、「パートナーとしてずっと仲良くしたいから」が70.6%とともに７割を超えている。次いで、「言わないとわからないこともあるから」が62.1%で、積極的に会話を交わし、コミュニケーションをとることがお互いの意思疎通のために重要であり、そのことが家族の幸福につながると考えているようである。

年代別にみると、どの年代もほぼ同じような傾向を示しているものの、20歳代では「パートナーとしてずっと仲良くしたいから」が85.7%と９割近い人が回答しており、他の年代が６割～７割台であるのと比較してやや特徴的な様相を呈している。「夫婦円満が家族の幸せにつながるから」、「言わないとわからないこともあるから」という回答については、年代ごとの特徴は見受けられない。

「②いいえ」と回答した方



一方、普段の会話があまりないと感じている理由をみると、「特に話したいことがないから」49.1%と半数近い人が回答しており、共通の話題がないと感じている様子がうかがえる。次いで、「時間帯が合わないから」が26.8%と続いており、コミュニケーションをとるために時間という物理的な障害があると回答している。さらには、「そもそも話す気が起こらないから」が17.0%であり、会話に対して消極的な姿勢も見受けられる。「話しても聞いてもらえないから」も15.2%あり、会話をしたい希望は有しているものの、うまくコミュニケーションをとることにつながっていない状況も感じているようである。

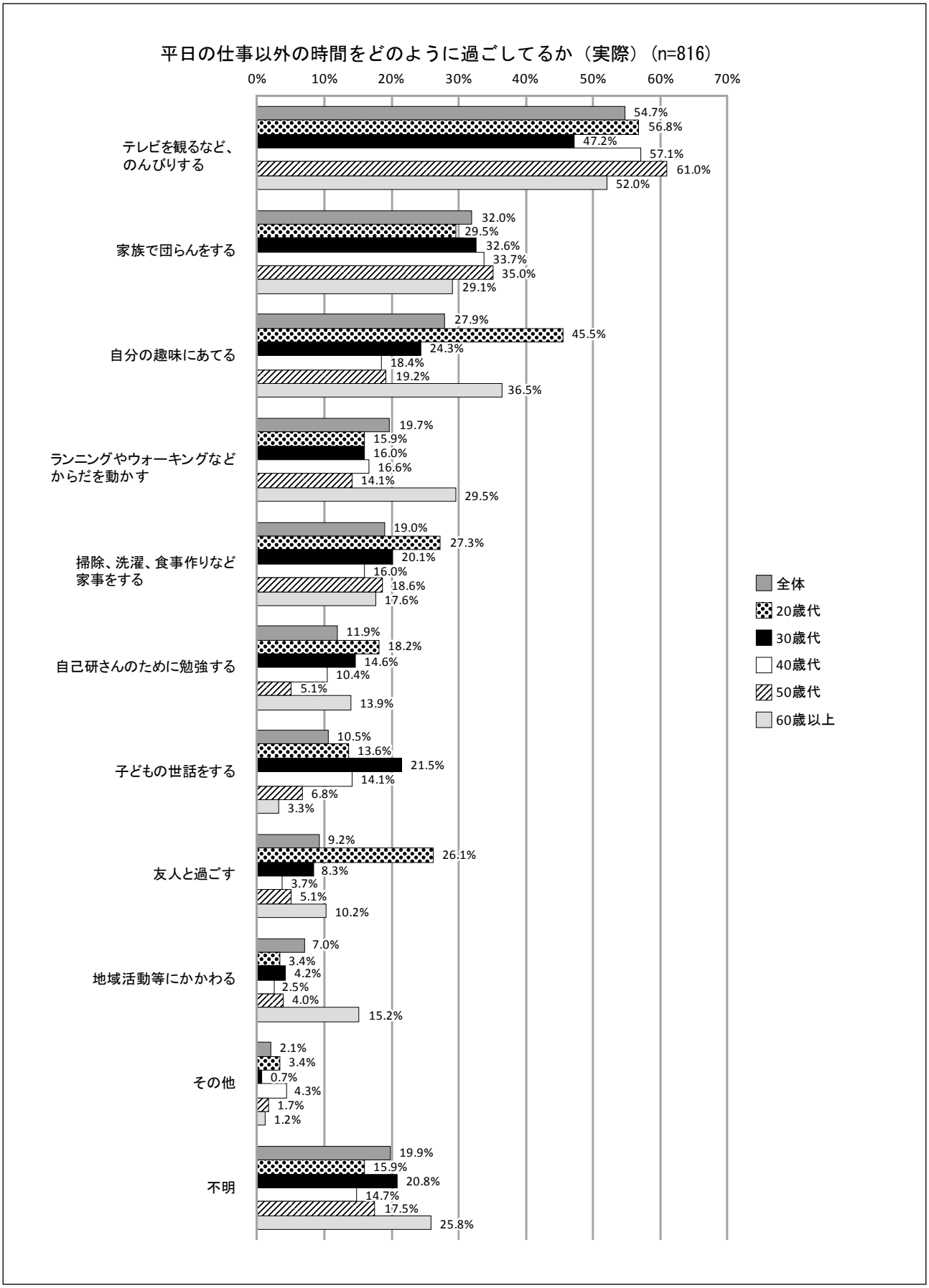
こうした理由を年代別にみると、20歳代では、「時間帯等が合わないから」が100.0%であり、仕事等が忙しく物理的な要因で配偶者等との会話ができないと感じているようである。また、30歳代55.6%、40歳代63.6%と労働時間が長いことが予想される年代も、20歳代と同様に物理的に配偶者等との会話に割く時間を確保することに困難を感じているようである。

「特に話したいことがないから」という回答は、年代が上がるにつれて増える傾向にあり、カップルとして過ごす時間が長くなるほど、会話をしなくてもわかりあえていると感じているのか、会話そのものを重要視しなくなるのか、共通の話題が少なくなるのかは不明であるが、お互いの会話について、あまり重要視していない傾向にあるようである。

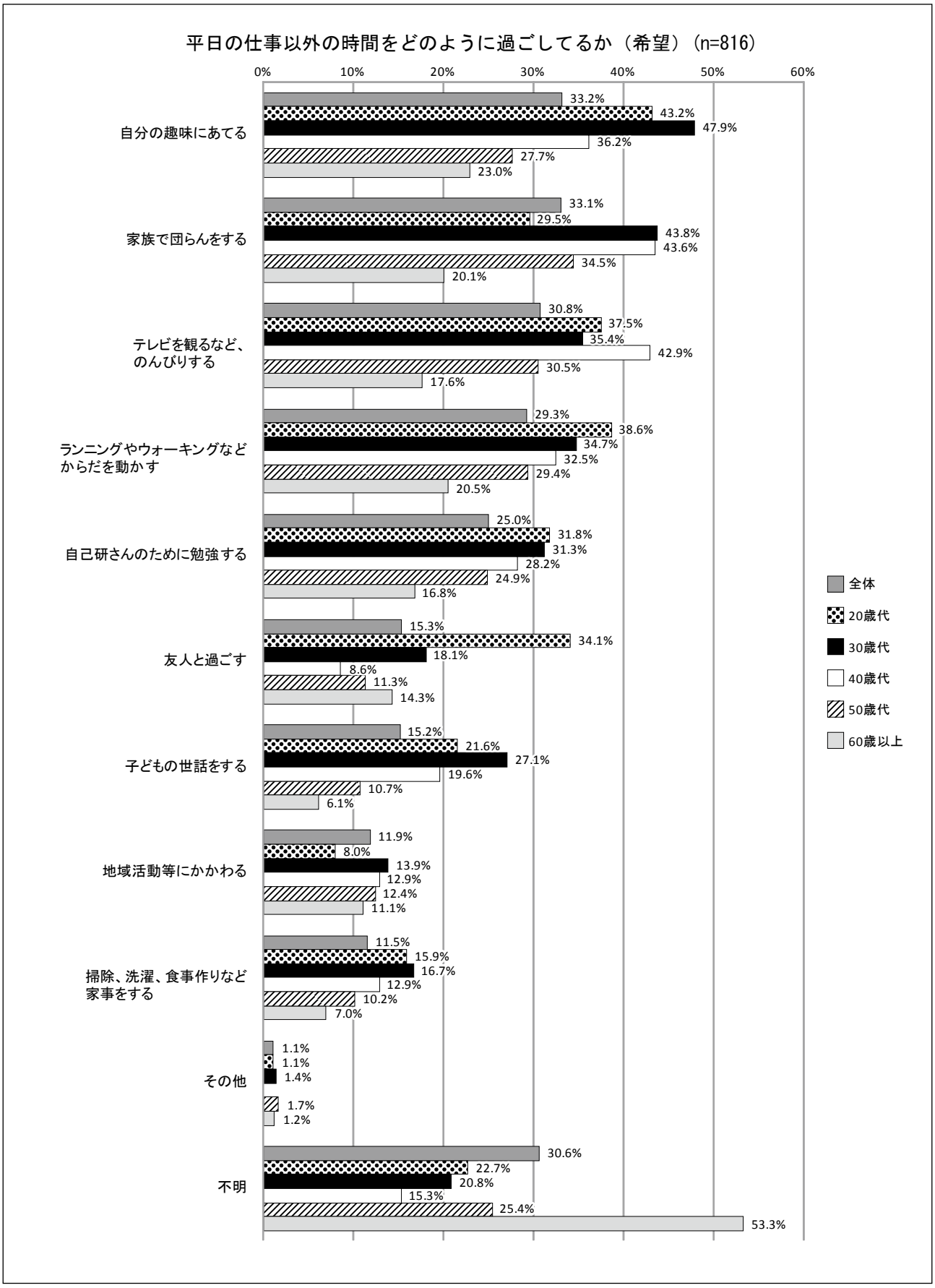
「そもそも話す気が起こらない」は、20歳代、30歳代ともに皆無であるものの、40歳代18.2%、50歳代20.6%、60歳以上17.4%と、それぞれ２割近い人が回答している。

問25　あなたは、平日や休日の仕事以外の時間をどのように過ごしていますか。
　　また、希望としては、どのように過ごしたいとお考えですか。
　　（それぞれ該当する欄に○をご記入ください，○はいくつでも）

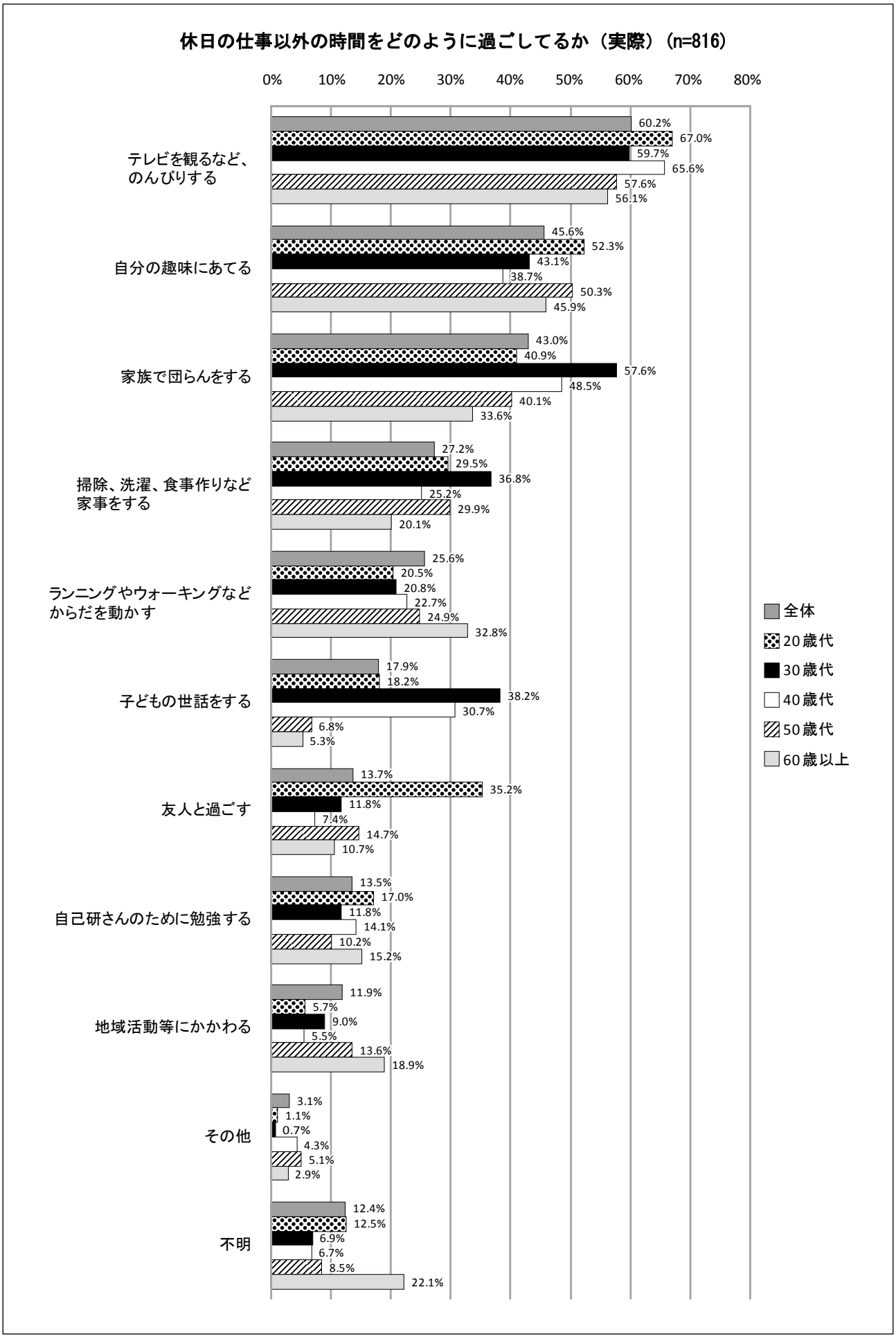
〈平日の仕事以外の時間の過ごし方〉（実際）



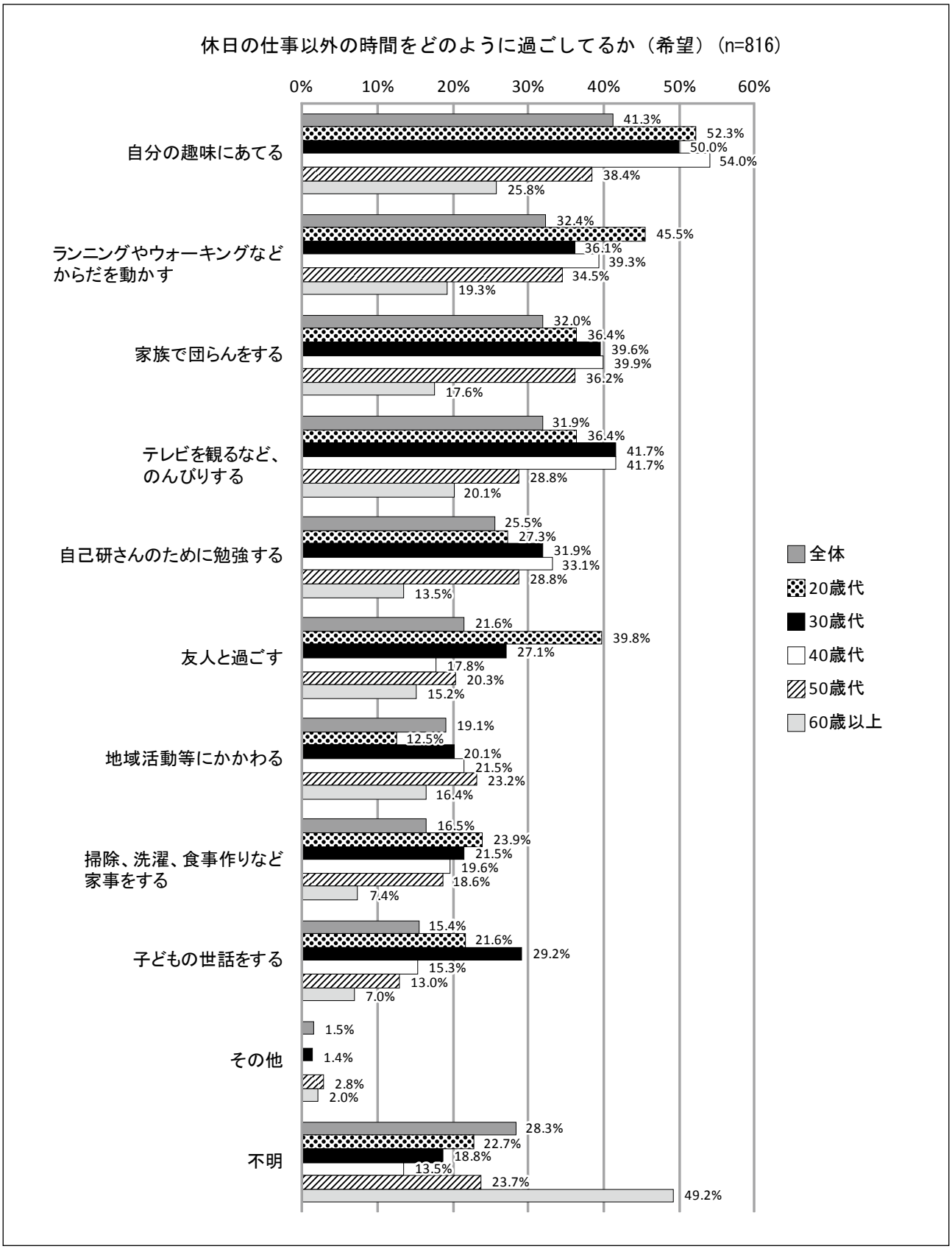
〈平日の仕事以外の時間の過ごし方〉（希望）



〈休日の仕事以外の時間の過ごし方〉（実際）



〈休日の仕事以外の時間の過ごし方〉（希望）



平日や休日の仕事以外の時間をどのように過ごしているかについて、その実態と希望について尋ねた。その結果、平日と休日では、時間の過ごし方の実態にそれほどの違いがない。順位に多少の違いがあるものの、上位５位までには、「テレビを観るなど、のんびりする」「家族で団らんをする」「自分の趣味にあてる」「ランニングやウォーキングなどからだを動かす」「掃除、洗濯、食事作りなど家事をする」という項目が挙げられている。また、希望する時間の過ごし方についても、平日と休日に大きな違いはなく、「自分の趣味にあてる」「家族で団らんをする」「テレビを観るなど、のんびりする」「ランニングやウォーキングなどからだを動かす」「自己研さんのために勉強する」という項目が上位５位に挙げられている。「テレビを観るなど、のんびりする」という項目は、平日54.7%、休日60.2%といずれも第１位であるが、希望とする時間の過ごし方では、いずれも平日第３位、休日第４位と順位を下げている。その項目にかわって、希望する時間の過ごし方の第１位に挙げられているのは、平日、休日ともに「自分の趣味にあてる」という項目で、平日33.2%、休日41.3%である。さらに、実態では10%程度の回答であった「自己研さんのために勉強をする」という項目が、希望する過ごし方では平日25.0%、休日25.5%でともに第５位に挙げられており、のんびりとテレビを観て過ごしている余暇時間を、できれば自分のために趣味の時間や勉強の時間にあてて、時間を有効に活用したいと願っている様子がうかがえる。

一方、「掃除、洗濯、食事作りなど家事をする」という項目は、平日、休日とも希望する時間の過ごし方では順位を下げており、平日では第９位11.5%、休日では第８位16.5%となっている。男性にとって、家事参加にはあまり時間を割きたくないと思っている様子がうかがえる。「子どもの世話をする」は、平日の実態と希望の順位は変わらないものの10.5%から15.2%に割合が若干上がっており、家事と異なり、平日の子育てにもう少し参加したい意向があることがうかがえる。それに対し、休日には17.9%（第６位）から15.4%（第９位）へと順位、割合ともに下がっており、休日には、家事や子育てよりも、もう少し自分のために時間を使いたいという意向があるのではないかと推察される。

「地域活動等にかかわる」のは、平日、休日ともに7.0%、11.9%と最下位の第９位であるが、希望では11.9%（第８位)、19.1%（第７位）とやや順位を上げており、地域活動等に全く関心がないわけではなく、できればもう少し参加したいという意向があることがわかる。

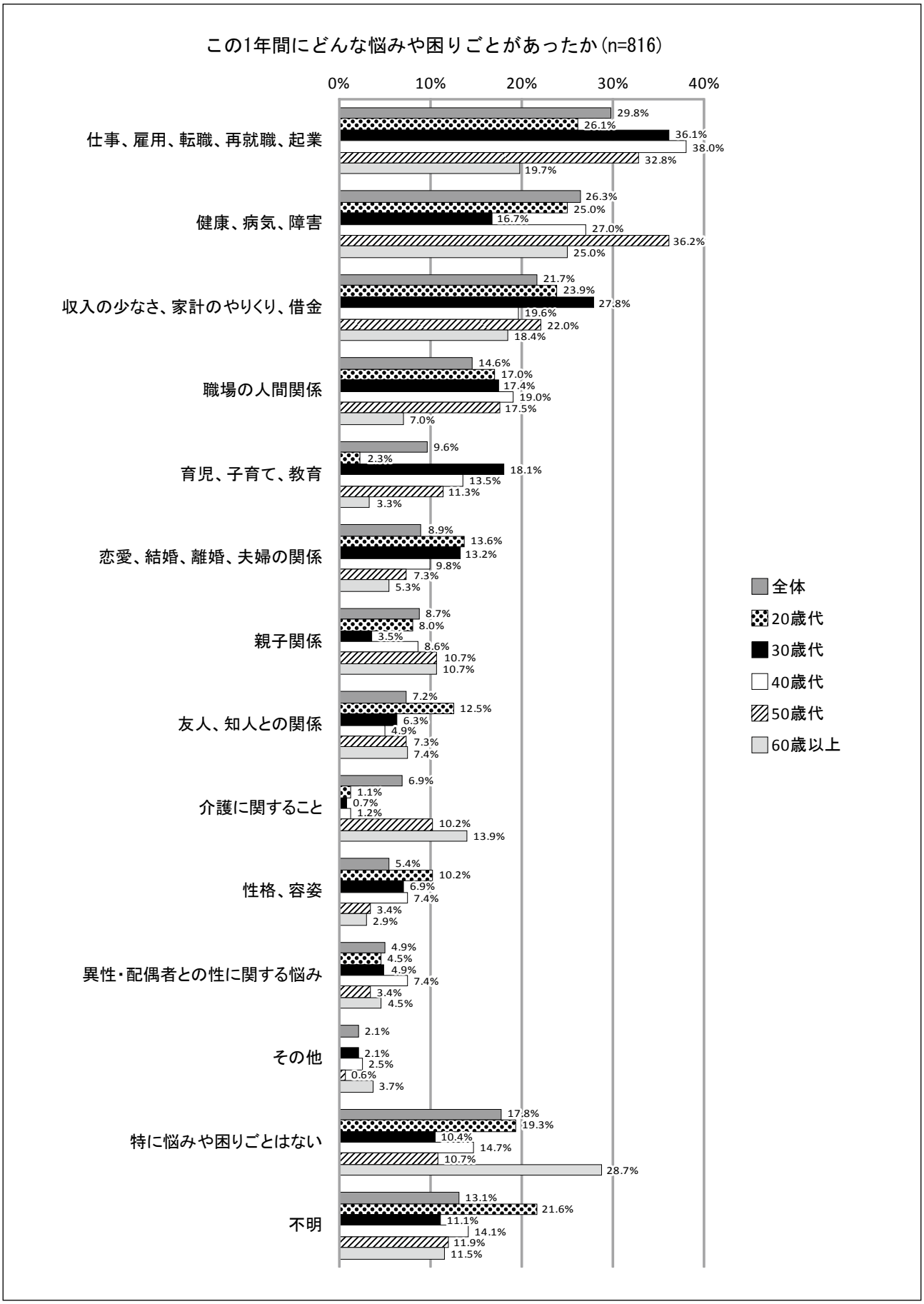
年代別にみてみると、すべての年代において「テレビを観るなど、のんびりする」「自分の趣味にあてる」「家族で団らんする」が挙げられており、仕事以外の時間の活用についてはほとんど上述の全体的傾向と同様の傾向を示している。「テレビを観るなど、のんびりする」はどの年代においても実態では第１位に挙げられているものの、希望する時間の過ごし方では順位を下げ、「自分の趣味にあてる」もしくは「家族で団らんする」が第１位に挙げられており、のんびりする時間もよいが、年代に関わらず、もう少し目的をもった時間の過ごし方をしたいと思っているようである。家事や子育てに費やす時間が最も多いと回答したのは30歳代で、平日、休日とも「子どもの世話をする」は第４位（平日21.5%、休日38.2%)、「掃除、洗濯、食事作りなど家事をする」は第５位（平日20.1%、休日36.8%）に挙げられている。家事をする時間は、平日、休日とも、できれば減らしたいという希望を有しているものの、「子どもの世話をする」時間については、平日はもう少し増やしたいと思っているようで、21.5%から27.1%に増加している。さらに、この年代は、「自己研さんのために勉強したい」という希望も強く、平日、休日とも約30%の方が回答している。仕事、家事、子育て、さらには自分の趣味や自己研さんのための勉強と、大変意欲的なこの年代の特徴をよくあらわしていると思われる。限られた時間をどのように使うか、家庭を持ち、家事や子育てにも参加する男性にとっても、仕事を効率よく行うためのタイムマネージメントだけでなく、生活全体のタイムマネージメントやライフスタイルの見直しが必要なのではないだろうか。

平日の実際の過ごし方として、30歳代、40歳代、50歳代になると、「子どもの世話をする」も４位～

６位に位置していることが特徴的である。「地域活動等にかかわる」は、60歳以上を除くすべての年代で最下位であるが、中でも40歳代が2.5％と最も低い。40歳代は、「掃除、洗濯、食事作りなど家事をする」という回答も16.0％と最も低い世代である。

60歳以上の回答をみると、「テレビを観るなど、のんびりする」「自分の趣味にあてる」に次いで、「ランニングやウォーキングなどからだを動かす」が第３位に挙げられており、自分自身の健康維持を意識していることが推察される。また、「地域活動等にかかわる」も15.2％と少ないながらも１割を超えており、すべての年代の中で最も多い。「自己研さんのために勉強する」も、13.9％と20歳代、30歳代に次いで多い割合となっていて、自己成長に対して積極的に取り組んでいる様子がうかがえる。一方で、「掃除、洗濯、食事作りなど家事をする」は、17.6％と40歳代に次いで低い数値を示している。

問26　あなたは、この１年間に、次のような悩みや困りごとがありましたか。あてはまるものすべてを選択してください。（○はいくつでも）
その中で、もっとも大きな悩みや困りごとに一つだけ◎をつけてください。（◎は一つだけ）



悩みや困りごとについて（以下悩み等という）、仕事に関する悩み等が、29.8%、健康に関する悩み等が26.3%、収入に関する悩み等が21.7%、職場の人間関係が14.6%など、悩み等の上位は仕事、健康、収入となっている。

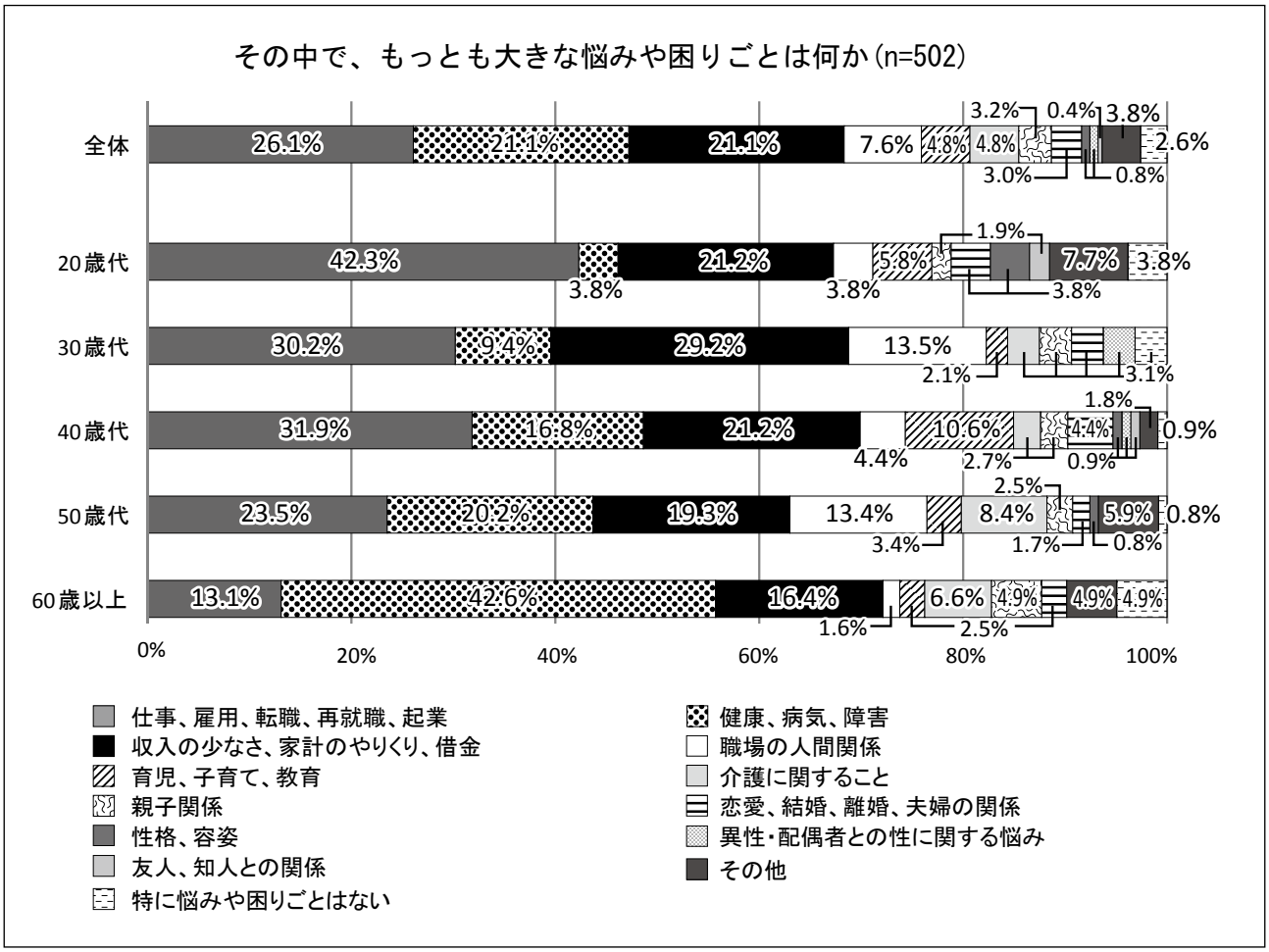
仕事に関する悩み等については、特に、社会的に責任が重くなる30歳代から割合が高くなり、定年を迎える60歳代になると19.7%と極端に低くなる。特に、40歳代は38.0%と他の年代と比べると高くなっている。仕事上の地位として、中間管理職となる年齢であることが要因であろう。このことは、職場の人間関係の悩み等の割合が他の年代に比べて高いことからも裏付けられる。

健康についての悩み等は、50歳代が36.2%と最も高く、以下40歳代が27.0%、60歳以上と20歳代が25.0%、30歳代が16.7%となっている。50歳代と60歳以上は、健康問題の悩み等が仕事の悩み等よりも割合が高くなっているところが注目される。

収入の悩み等は、30歳代が27.8%、20歳代が23.9%であり、育児・子育て・教育の悩みでは、30歳代が18.1%、40歳代13.5%と他の年代よりも高くなっている。この結果から、30歳代は、子育てに伴う収入の問題が顕在化していることが考えられる。

恋愛・結婚・離婚・夫婦の関係についての悩み等は、20歳代が13.6%、30歳代が13.2%、40歳代が9.8%など年齢が低いほど割合が多くなっている。これに関連して、性格・容姿の悩み等は20歳代が10.2%、友人・知人との関係においても12.5%と他の年代よりも高くなっており、人間関係に悩む若い年代の一つの特徴を示している。

介護に関する悩み等は、一応の傾向として年代が上がるにつれて多くなっている。定年退職をした後の60歳以上の年代が収入ややりくりの悩み等で18.4%と40歳代の19.6%に近い傾向を示しているのは、老後の生活や介護の費用の問題が顕在化しているからではなかろうか。



もっとも大きな悩み等については、全体では、仕事・雇用・転職・再就職・起業が、26.1%、健康・病気・障害が21.1%、収入の少なさ・家計のやりくり・借金が21.1%、職場の人間関係が7.6%、育児・子育て・教育が4.8%、介護に関することが4.8%等となっている。

しかし、もっとも大きな悩み等については、仕事関係と健康関係で年代によって顕著な違いが表われている。20歳代のもっとも大きな悩みは仕事に関するものであり、42.3%であるのに対して、退職者が多い60歳以上は13.1%となっている。一方、健康・病気・障害については、20歳代は3.8%であるのに対して、60歳以上は42.6%となっている。

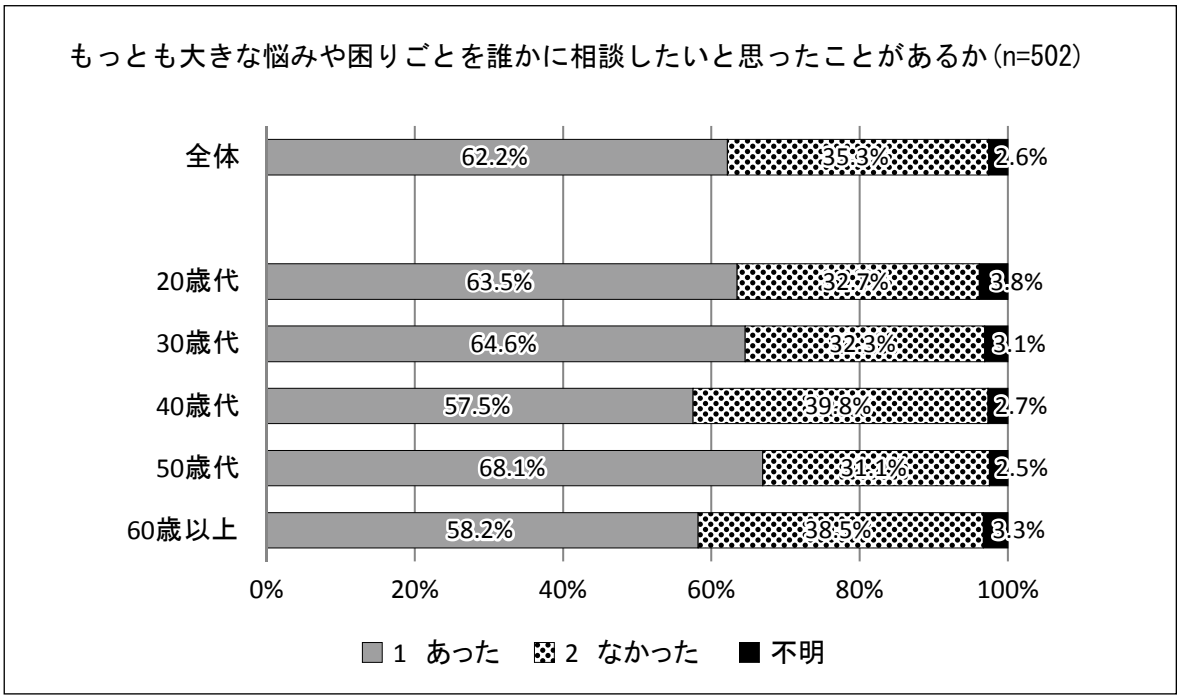
収入関係の悩み等については、年代に現役世代と退職世代に違いがみられる。特に、30歳代は29.2%が最も大きな悩み等としているのに対して、60歳以上は16.4%となっている。また、職場の人間関係の悩みについて30歳代と50歳代は約13%であるのに対して、60歳代は1.6%となっている。

年代ごとの最も大きな悩み等の傾向として、20歳代と30歳代は、仕事と収入関係に悩みが多く、健康関係の悩みは少ないが、40歳代以降は、この他に健康関係の悩みが増大している。

この他に、40歳代の育児・子育て・教育の悩みが10.6%と年代平均の4.8%を大きく上回っていることと、50歳代になると介護に関する悩みが8.4%と年代平均の4.8%を大きく上回っていることが特筆事項である。

【問26で、◎をつけた方にお伺いします】

問27　あなたは、その悩みや困りごとについて、誰かに相談したいと思ったことがありますか。(○は一つだけ)

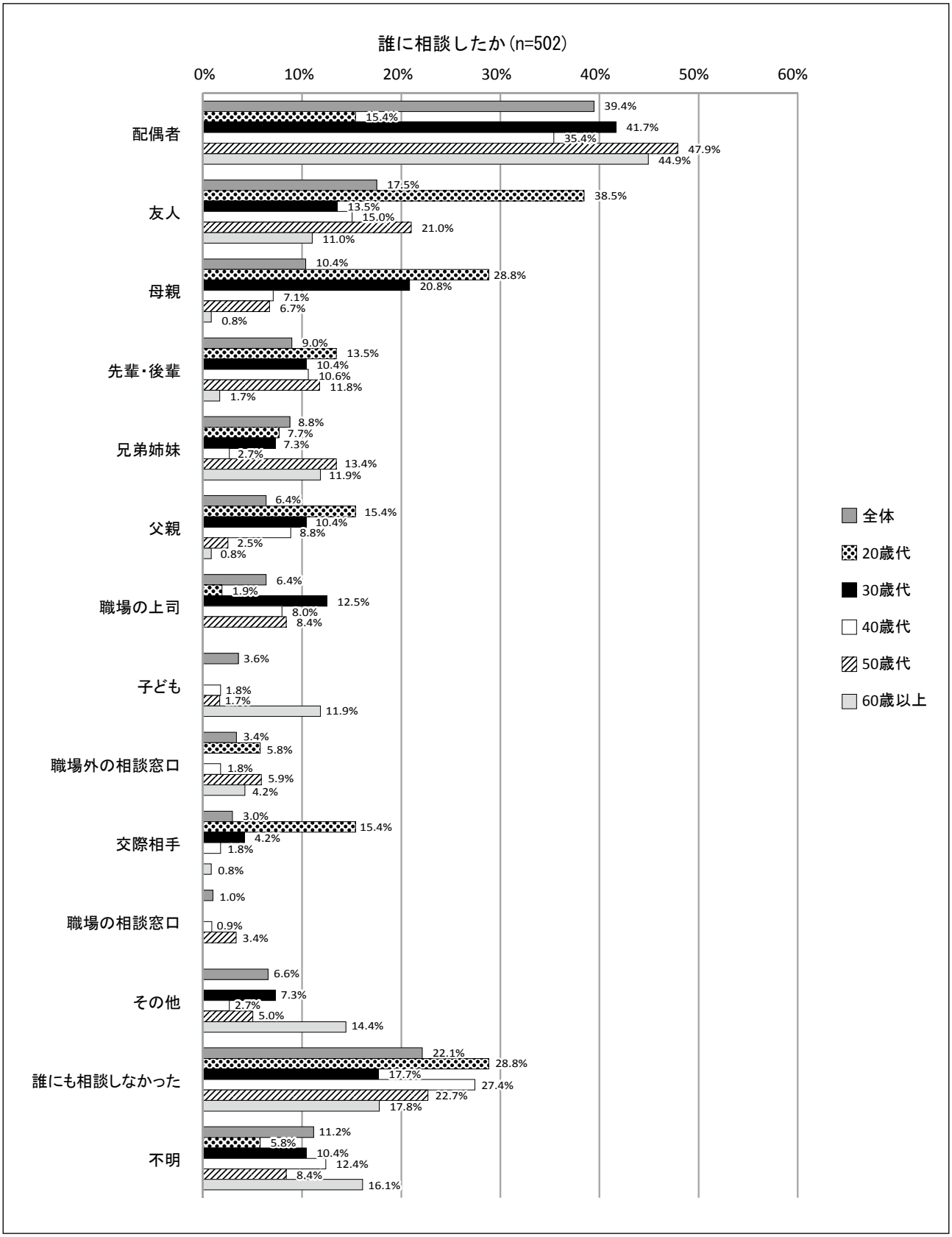


悩みについて、誰かに相談したいと思った割合は、全体で62.2%であり、相談したいと思わなかった割合が35.3%である。相談したいと思った割合では、40歳代が57.5%と最も低い。一方、仕事の悩みは問26の結果から見て、最も高い割合を示している。この結果から、40歳代は仕事上の中間管理職として悩みながらも相談し難い環境にいる場合が多いのではなかろうか。

悩みの相談については、相談したいと思った割合が40歳代の57.5%の次に60歳以上が58.2%と低い。60歳以上の特徴として、介護に関する悩みが他の年代に比べて高い。この結果から、60歳以上は介護の悩みをもちながらも相談しがたい環境にいる場合が多いのではなかろうか。

【問26で、◎をつけた方にお伺いします】

問28　あなたは、誰に相談しましたか。(○はいくつでも)



相談相手として、全体としては、配偶者が39.4%、友人が17.5%、母親が10.4%、先輩・後輩が9.0%、兄弟姉妹が8.8%、父親が6.4%、職場の上司が6.4%等となっている。20歳代は、他の年代に比べて未婚者が多いので、他の年代と異なる傾向がある。すなわち、他の年代では、相談相手として配偶者が最も割合が高いのに比べて、友人が38.5%と最も高くなっている。また、母親や父親の相談相手としての存在が、それぞれ28.8%、15.4%と他の年代と比べて高くなっている。これらの傾向から、家族は相談者にとって重要な役割を果たしていることが分かる。また、独身者にとっては、友人が配偶者に代わる最も身近な相談者としての役割を果たしていると考えられる。

60歳以上にとって、子どもが11.9%と全体の3.6%に比べて著しく高い割合となっている。このことから、60歳以降、家族のなかで支配的地位の交代が無意識のうちに行なわれているのではなかろうか。年齢から配偶者という最も重要な相談相手をなくすことが多くなる世代にとって、子どもの相談者としての役割が大きいといえる。

【問26で、◎をつけた方にお伺いします】

問29　お差し支えなければ、もっとも大きな悩みや困りごとをご記入ください。

自由記述においては、20歳代は就職関連の悩み等が多く書かれていた。内容として新規就職の悩み、非正規雇用の悩み、転職の悩み等が含まれていた。

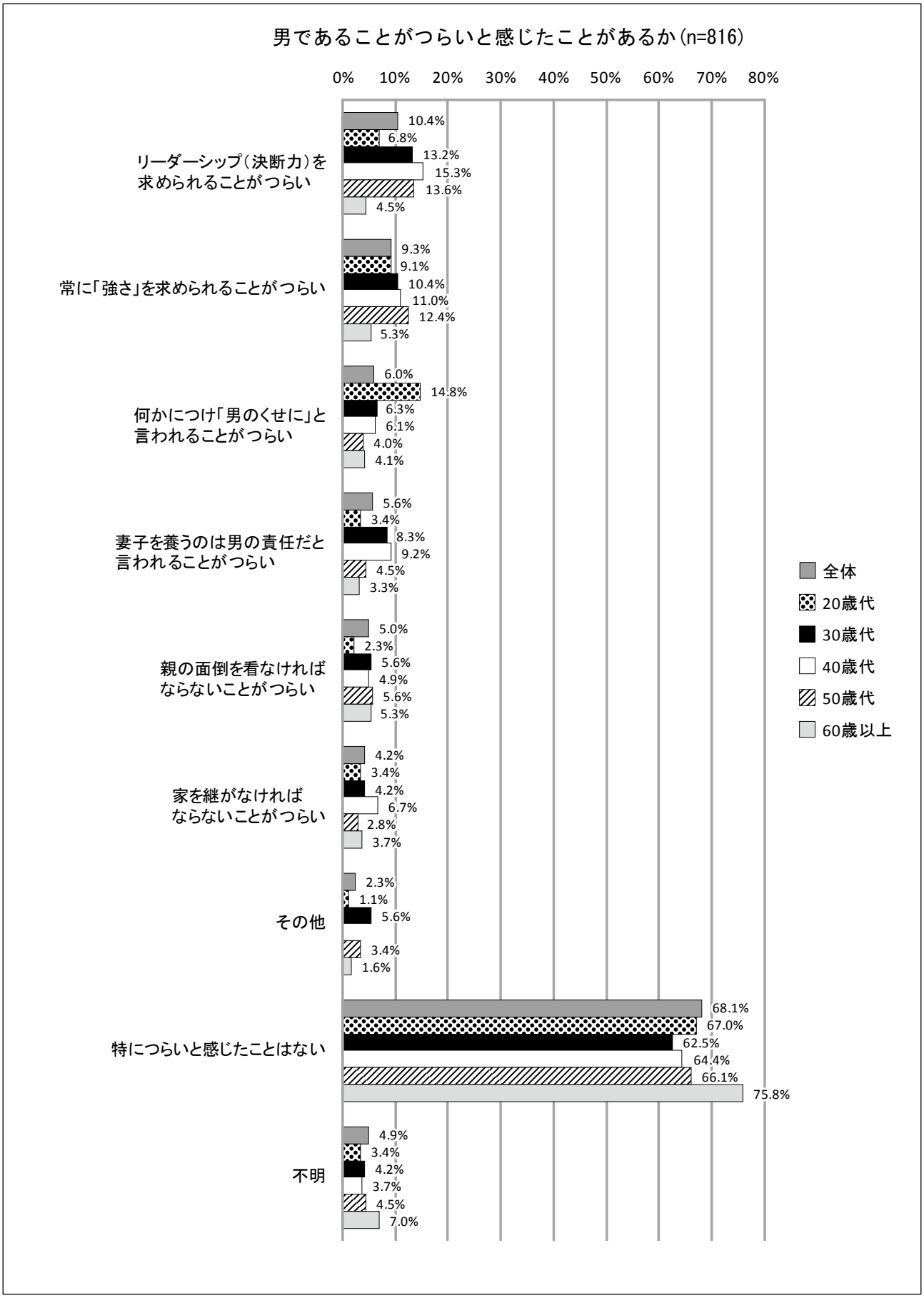
30歳代は生活費の苦悩、仕事の悩み・転職、子育てや健康についての悩み等が記述されていた。

40歳代は仕事関係では、20歳と30歳代で記述されていなかったリストラや不当解雇に関する悩みが出ていた。また、自分自身や家族の健康問題に関する悩みが多数記述されていた。なかでも、うつ病と生活習慣病についての悩みが多くみられた。また、結婚についての焦りもいくつかあった。

50歳代は健康と退職後の人生設計についての記述が多かった。健康については、50歳代以前の世代と比べて、生活習慣病の他に病名においてより深刻なものが多数見られた。

60歳以上は、病気と介護の悩みの記述が多かった。特に、健康については、認知症やうつ病などの精神的な疾患の他に脳梗塞、腎臓疾患など他の年代とくらべてより重度な疾患に関する悩みが数多く記述されていた。また、退職にともなう生活費の確保についての悩みも多く記述されていた。

問30　あなたは、男であることがつらいと感じたことがありますか。あてはまるものすべてを選択してください。（○はいくつでも）



全体として、68.1％が「特に男であることがつらいと感じたことはない」としているが、60歳以上は、75.8％が「特につらい」とは感じていない。このことは、60歳以上の世代は、「男性は弱音を吐いてはいけない」という古典的な考え方に強く支配されているのではなかろうか。これは、「リーダーシップを求められることがつらい」の項目や「常に『強さ』を求められることがつらい」の項目で他の世代に比べてつらいと感じている割合が著しく少ないことに顕著に表れている。

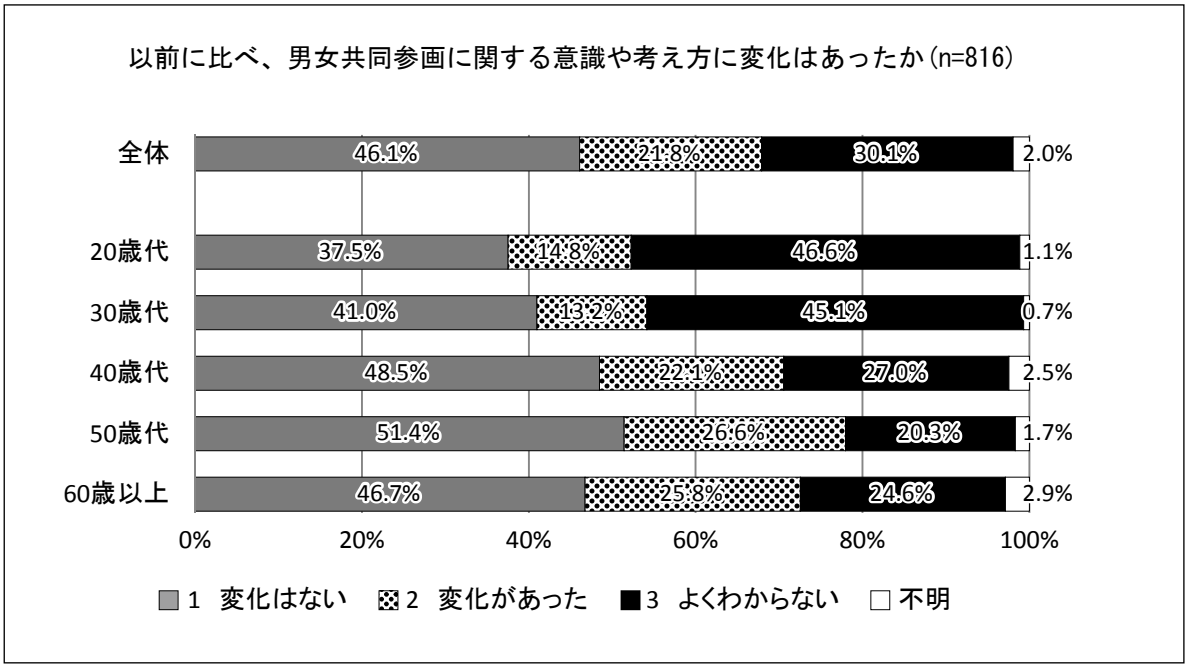
全体でつらいと感じた割合が最も高かったリーダシップが求められることでは、40歳代が15.3％、50歳代が13.6％、30歳代が13.2％、20歳代が6.8％、60歳以上が4.5％となっており、中間管理的な立場にある40歳代と管理的な立場にある50歳代で割合が高くなっている。また、仕事の面で自立的に行動できる立場になる30代においても同じ傾向がみられる。

確かに、何かにつけ「男のくせに」と表現されることは多いが、これをつらいと感じることについて、30歳代は、6.3％、40歳代は6.1％、50歳代は、4.0％、60歳以上は4.1％となっているが、20歳代は14.8％と高くなっている。20歳代は現代の柔軟な意識と従来からの古典的な考え方の狭間で苦悩しているように感じられる。

「妻子を養うのは男の責任だと言われることのつらさ」については、全体が5.6％であるのに対し、40歳代は9.2％と高い割合となっている。また、30歳代も8.3％と全体のなかでは高い割合となっている。「リーダーシップが求められることがつらい」と感じる割合が高いことも合わせると、30歳代、40歳代の仕事と家庭の狭間での悩みがうかがえる。

３．男女共同参画について

問31　近年、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会」の実現が求められています。
以前に比べ、男女共同参画に関するあなたの意識や考え方に変化はありましたか。
（○は一つだけ）

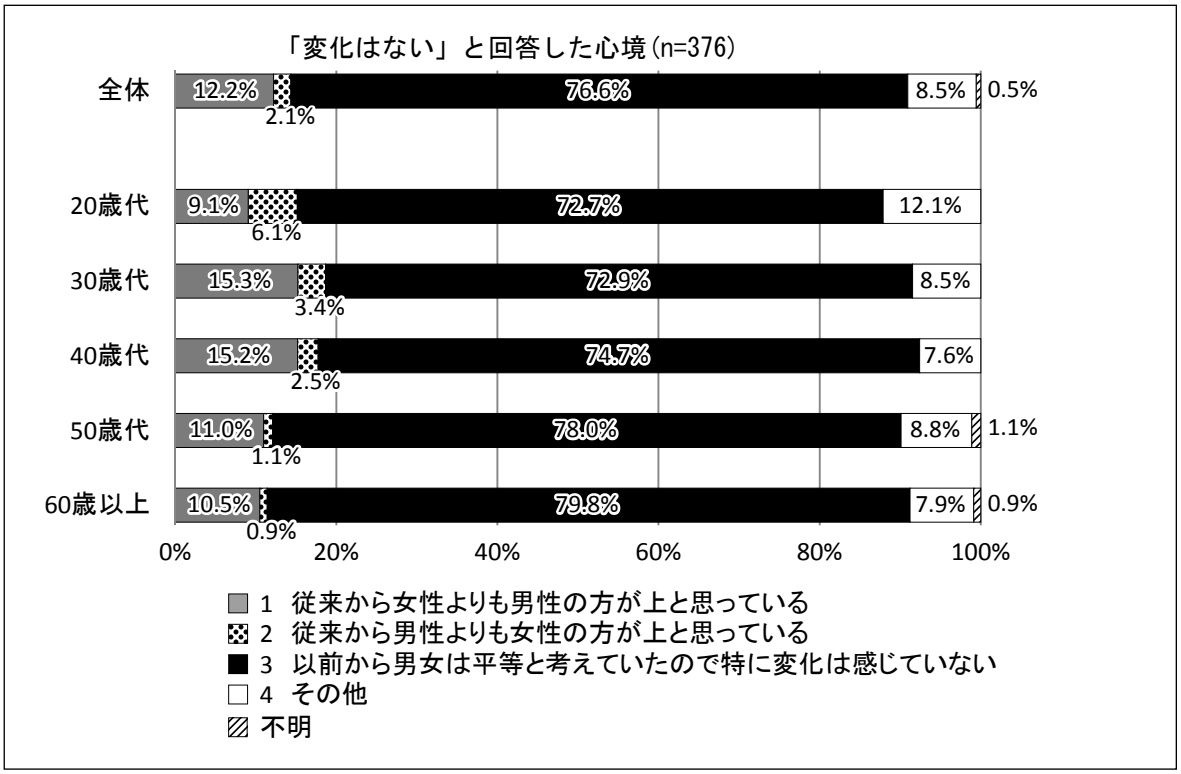


問31は、男女共同参画社会づくりに対する考え方を尋ねたものである。男女共同参画社会の実現に向けた活動がさかんになっている中で、自分の意識や考え方が変化しているかどうかを尋ねたものである。「変化はない」という回答が46.1％で最も多く、「よくわからない」30.1％、「変化があった」21.8％となっている。

若い年代においては、「わからない」という回答が多く、20歳代で46.6％、30歳代で45.1％である。これに対して、40歳代以上では「変化はない」が多く、それぞれ48.5％、51.4％、46.7％となっている。「変化があった」という回答は、20歳代および30歳代では10％台であるのに対して、40歳代以上は20％台となっており、40歳を境にして、意識の違いがあらわれている。

【問31で、「①変化はない」と回答した方にお伺いします】

問32　それはどのような心境ですか。(○は一つだけ)



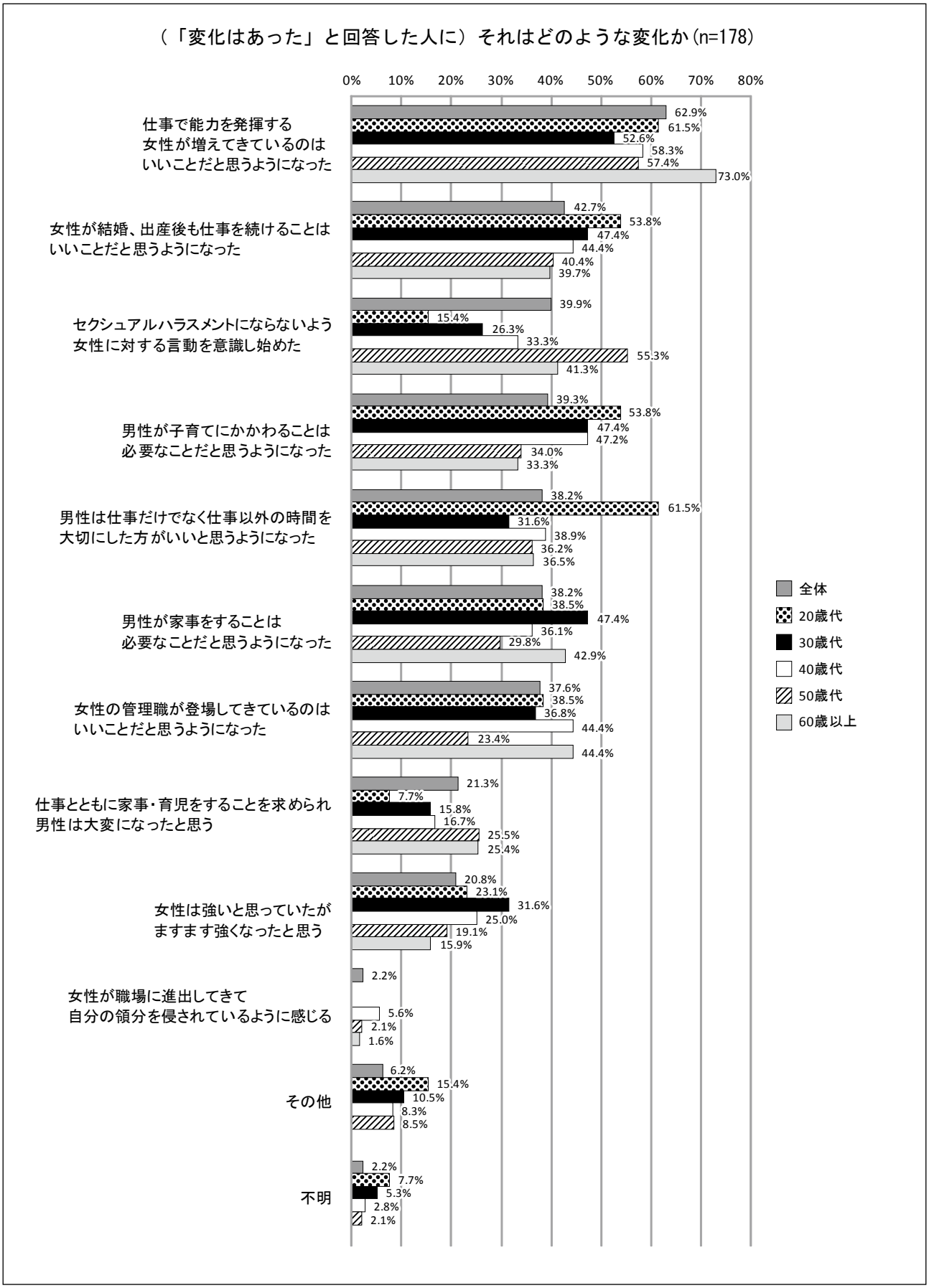
問32は、問31において「変化はない」と回答した方に対してその心境を尋ねたものである。「以前から男女は平等と考えていたので特に変化はない」という回答が圧倒的に多く、76.6%であり、すべての年代において70%を超えている。多くの回答者は、以前から男女平等の意識を持っていたと自覚していることになる。

「従来から女性よりも男性の方が上と思っている」という回答は12.2%であり、20歳代で9.1%であるほかは、30歳代以上では10%台である。30歳代と40歳代でそれぞれ15.3%、15.2%と他の年代より多く、50歳代と60歳代では11.0%、10.5%となっている。

「従来から男性よりも女性の方が上と思っている」という回答については、20歳代で6.1%、30歳代で3.4%、40歳代で2.5%となっており、数は少ないが、50歳代の1.1%、60歳代の0.9%と比べるとわずかながら多い。

【問31で、「②変化があった」と回答した方にお伺いします】

問33　それは、どのような変化ですか。（○はいくつでも）

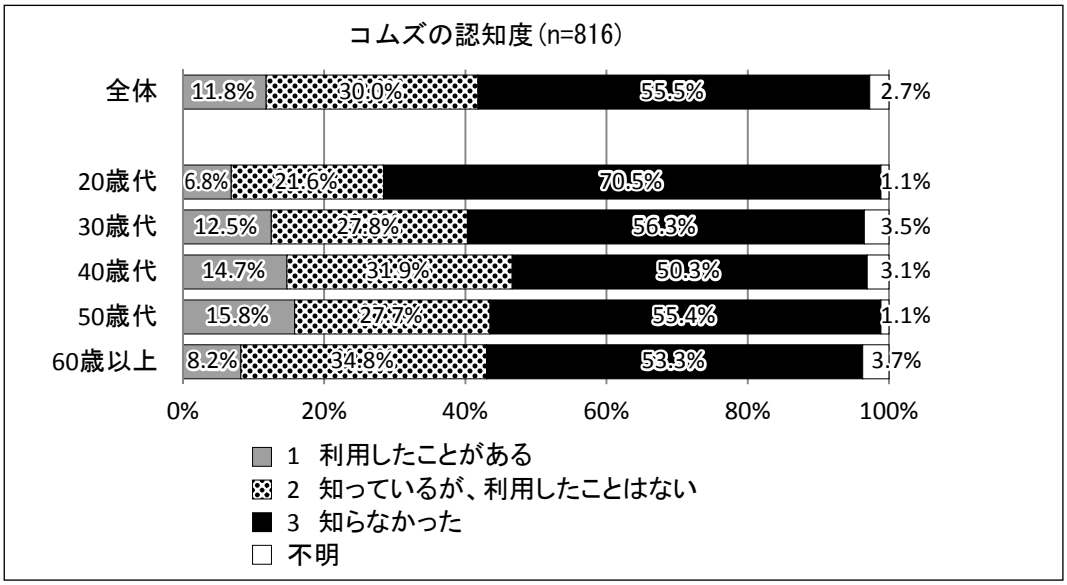


問33では問31で「変化があった」と回答した方にどのような変化があったかを聞いている。「仕事で能力を発揮する女性が増えてきているのはいいことだと思うようになった」という回答が62.9%と最も多く、次いで「女性が結婚、出産後も仕事を続けることはいいことだと思うようになった」42.7%、「セクシュアルハラスメントにならないよう女性に対する言動を意識し始めた」39.9%、「男性が子育てにかかわることは必要なことだと思うようになった」39.3%、「男性は仕事だけでなく仕事以外の時間を大切にした方がいいと思うようになった」38.2%、「男性が家事をすることは必要なことだと思うようになった」38.2%、「女性の管理職が登場してきているのはいいことだと思うようになった」37.6%という順になっている。女性の就労に関する考え方の変化とともに、男性自身の生き方に関わる考え方の変化も見られ、どちらかといえば肯定的な変化の方が多い。

「仕事とともに家事・育児をすることを求められ男性は大変になった」21.3%、「女性が強いと思っていたがますます強くなったと思う」20.8%、「女性が職場に進出してきて自分の領分を侵されているように感じる」2.2%で、どちらかといえば否定的な考え方の変化は肯定的な考え方の変化に比べると少ないといえる。

年代別の特徴をみてみると、以下のような点が指摘できる。60歳代では「仕事で能力を発揮する女性が増えてきているのはいいことだと思うようになった」という回答が73.0%と非常に多くなっている。50歳代では「セクシュアルハラスメントにならないよう女性に対する言動を意識し始めた」が55.3%で、「仕事で能力を発揮する女性が増えてきているのはいいことだと思うようになった」という回答の57.4%と並んで、多くなっており、年代的に管理職等となって、部下の女性に対する言動への配慮の必要性を強く意識している結果が出ている。40歳代では、「仕事で能力を発揮する女性が増えてきているのはいいことだと思うようになった」58.3%が多いほか、「男性が子育てにかかわることは必要なことだと思うようになった」47.2%、「女性の管理職が登場してきているのはいいことだと思うようになった」44.4%、「女性が結婚、出産後も仕事を続けることはいいことだと思うようになった」44.4%となっている。女性の就労に関して肯定的な受け止め方が多いことがうかがえる。30歳代では「仕事で能力を発揮する女性が増えてきているのはいいことだと思うようになった」が52.6%と最も多いが、他の年代に比べるとこの割合は最も少ない。その他、「女性が結婚、出産後も仕事を続けることはいいことだと思うようになった」、「男性が子育てにかかわることは必要なことだと思うようになった」、「男性が家事をすることは必要なことだと思うようになった」がそれぞれ47.4%で多い。20歳代では、「男性は仕事だけでなく仕事以外の時間を大切にした方がいいと思うようになった」と「仕事で能力を発揮する女性が増えてきているのはいいことだと思うようになった」が61.5%と最も多く、「女性が結婚、出産後も仕事を続けることはいいことだと思うようになった」と「男性が子育てにかかわることは必要なことだと思うようになった」が53.8%となっている。女性の就労に対する考え方の変化とともに、男性の意識や考え方の変化も同様に多くなっている。

問34　「松山市男女共同参画推進センター」はコムズの愛称で親しまれ、男女共同参画社会の実現をめざして、講座・セミナーの開催、市民活動支援、図書の貸し出し、相談、調査研究などさまざまな事業を実施するとともに、市民活動をしている方々を中心に広く市民のみなさんに貸館としてのご利用をいただいています。
あなたはコムズを知っていますか。また、利用したことがありますか。あてはまる番号を選んで○をつけてください。(○は一つだけ)



コムズを「利用したことがある」人はわずか11.8%で、“利用したことがない人”がおよそ９割を数える中、認知度を見ると４割強が“存在は知っている”という状況だった。ただ、「知らなかった」という人が55.5%おり、20歳代にいたっては実に70.5%に“知られていない”という現状が浮かび上がった。実際に利用している世代は50歳代がもっとも多く15.8%、40歳代が14.7%、30歳代が12.5%と続く。

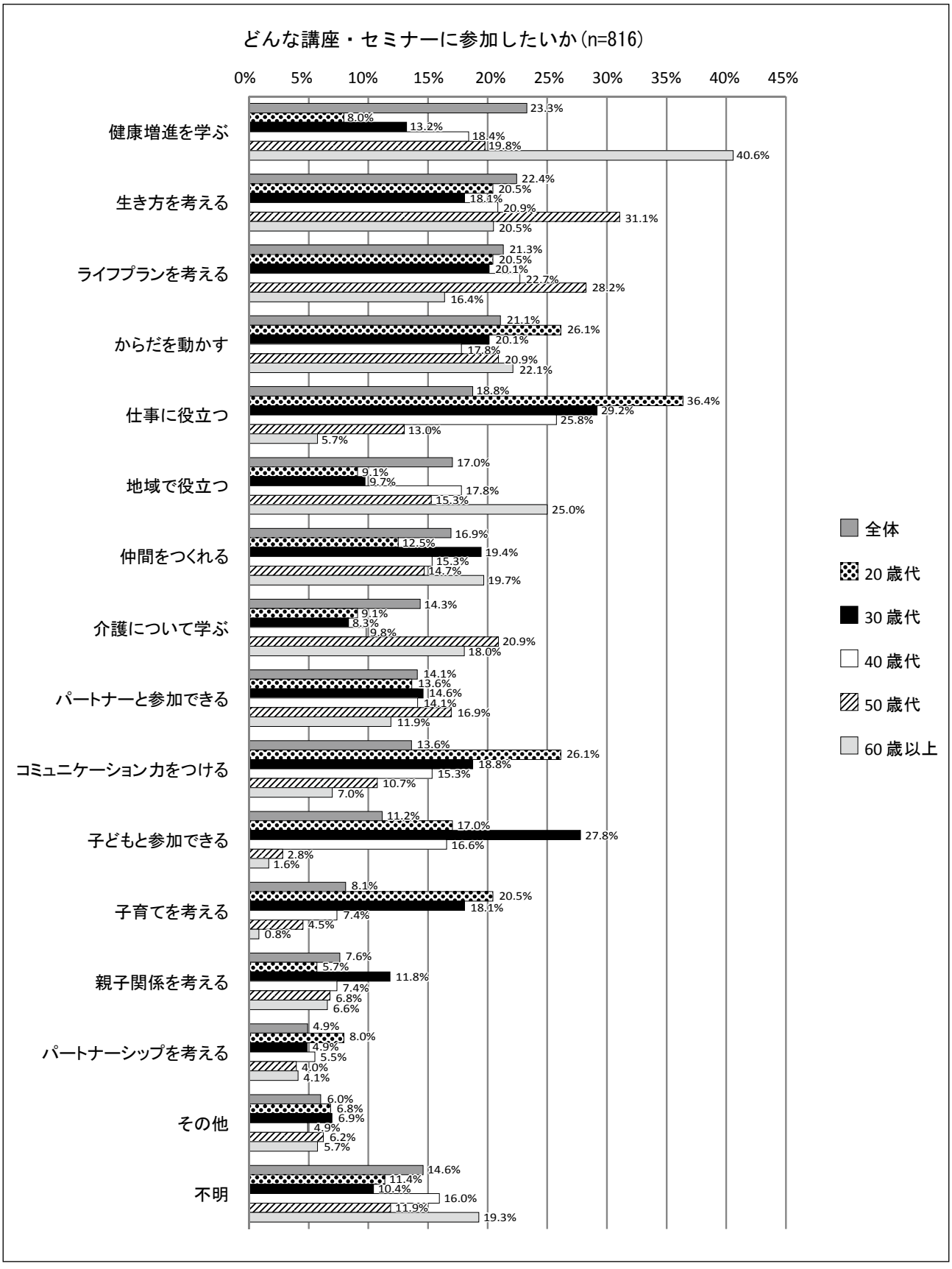
「利用したことがある」人の目的等を尋ねてみると、会議や研修等の貸館利用の人がもっとも多く、次に多いのがコムズ主催のセミナーや講座への参加で、その他自習スペース等の利用や図書コーナー・パソコンコーナーの利用、作業室での印刷機利用などが主な来館目的であった。

一方、「知っているが、利用したことはない」という人の理由をみてみると、「機会がない」「興味がない」「必要性がない」等の無関心層的な答えが大半だが、それ以外にも「内容をよく知らない」「利用目的・方法がわからない」「入りにくい」「名前が堅苦しく利用しづらい」など改善提案的意見が多かったほか、「妻が利用しているが自分には必要ない」「自分には必要ないが妻は子育てに利用している」「子どもは中学・高校と自習室を利用していた」などの一部容認的な意見も見られた。中には、「女性目線の考え方が強すぎる」「女性に対するイベント等が多いように思うため」「女性だけの場」「周りの環境が男女共同参画の状況に至っていない」など、利用しない理由を否定的に述べる意見も一部見受けられた。

これまで「利用したことがある」人に対しては、より頻度の高い利用を促していくとともに、今後は、「知っているが、利用したことはない」という人に対し、いかにアプローチしていくかが大きな課題であり、当然、５割強を占める「知らなかった」という人には、まずは知ってもらうための導入的な働きかけが必須であろう。

そのような中、財団の本来の取り組みである男女共同参画の推進のためには、さらに広い裾野を持った事業展開を検討していくことが不可欠であるとともに、“複合施設の持つ多様性や魅力”といった部分を、館を挙げ各方面へ向けアピールしていくことも、男女共同参画意識の芽生えの部分では有効な手段であり、今後、対象者のレベルに応じた細やかな事業展開を図っていくことが大切であると思われる。

問35　コムズでは今後、男性対象の講座を充実させていきたいと考えています。
あなたはどのような内容の講座やセミナーであれば参加したいと思いますか。
（○はいくつでも）



複数回答のため、回答者比235.2%の回答数を得た設問の集計結果は、平均では前述（p.65）のとおりだが、年代別では大きく関心がわかれた形となった。

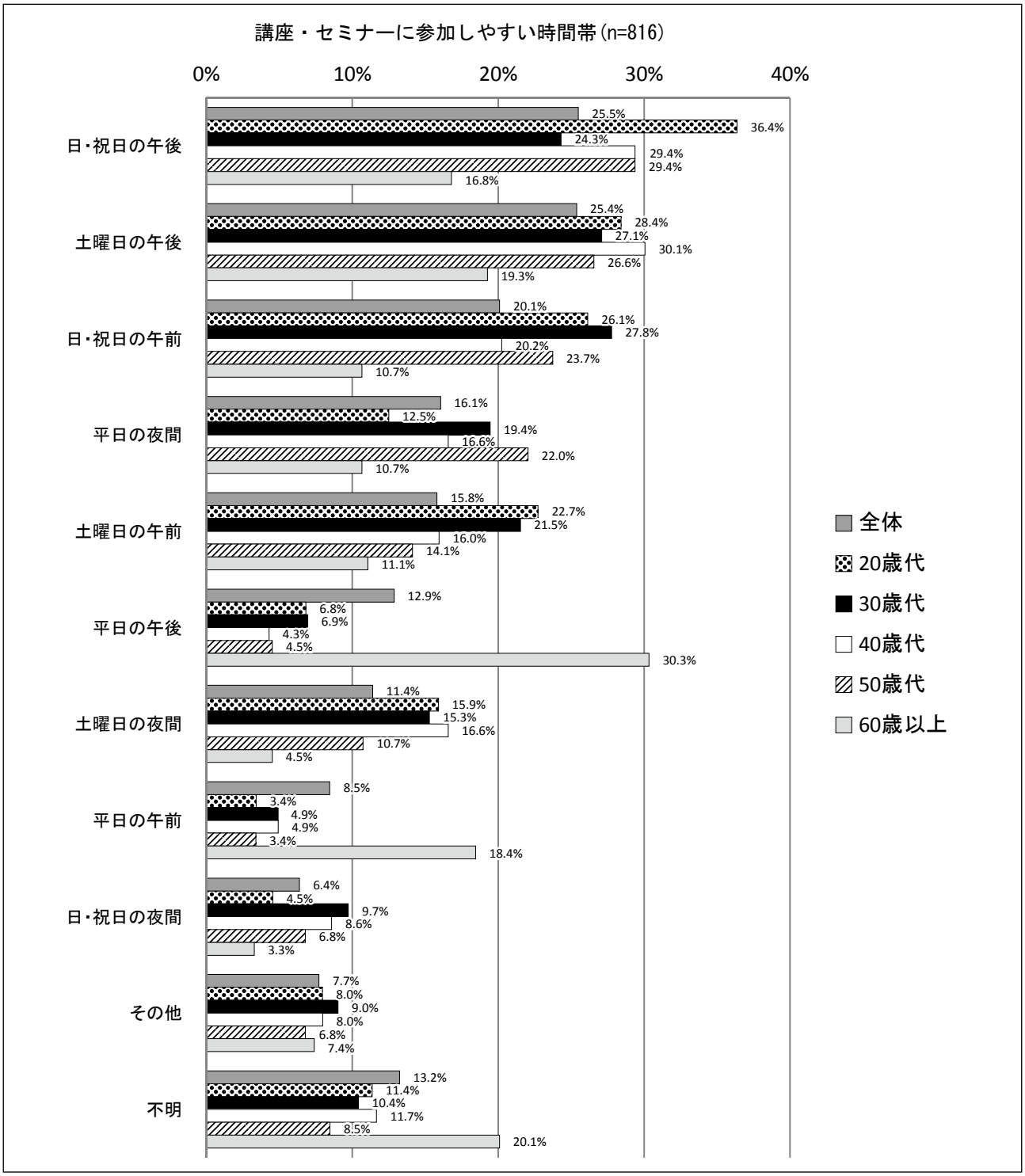
20歳代で関心が高かった内容は「仕事に役立つ」が1位で、「からだを動かす」と「コミュニケーション力をつける」が同率で2位だった。30歳代は「仕事に役立つ」が1位で、次いで「子どもと参加できる」が多く、この時期、“仕事と子育てのアンバランス”が見て取れる結果となった。40歳代も同様に1位は「仕事に役立つ」で、次いで「ライフプランを考える」であった。50歳代になると「生き方を考える」がトップとなり、「ライフプランを考える」と続き、60歳代では「健康増進を学ぶ」がもっとも多く、次いで「地域で役立つ」という結果になった。

男性対象の講座を考えるときのポイントとして気になったことは、働き盛りの世代は総じて「仕事に役立つ」が1位だったことである。このことは日本人のやや仕事一辺倒の生活が表れる結果となった感はあるが、“講座の内容が仕事に役立つものであれば関心を持つ”ということを物語る動向でもある。ただ、仕事のペースがつかめる40・50歳代になってくると「仕事に役立つ」よりも「ライフプランを考える」が関心事となる傾向があるが、リタイヤ後の60歳代においては、「ライフプランを考える」ことへの関心のピークは過ぎ、今度は「健康増進を学ぶ」や「地域で役に立つ」へと関心事が移り変わるのが見て取れた。

また関心事に年代別で突出した結果が見られたのは、50・60歳代の「介護について学ぶ」と30歳代の「親子関係を考える」で、年相応の課題が明確になっている。逆に、年代を問わず関心を得ているものに、「生き方を考える」と「からだを動かす」があり、“こころとからだのバランスを取りたい”という自然願望が表れたものと思われる。

これら調査結果を十分勘案し、それぞれのステージに応じたテーマを掲げた講座やセミナーを開催することが男性の関心を惹くポイントであり、今後、男性に対する男女共同参画意識の醸成のため、より魅力的なテーマの検討に努めることが重要である。

問36　講座やセミナーに参加しやすいのはいつですか。（○はいくつでも）



複数回答のため、回答者比162.9%の回答数を得た設問の集計結果は、概ね上記のとおりだが、60歳代ではライフスタイルを反映し、“平日の活動を好む”傾向が表れた。

総じて、「土曜日、日・祝日の午後あるいは午前」の人気が高いとの結果が見受けられたが、40・50歳代では「土曜日の午前」よりも「平日の夜間」を希望する声が若干上回る結果となった。

また、60歳代という年代は、個人差はあるものの、みなさん退職という人生の大きな節目を迎えるときであり、60歳代の男性の場合は「平日の午後」の開催希望がもっとも多く、次いで「土曜日の午後」が、以下「平日の午前」「日・祝日の午後」の順位となるなど、60歳未満の傾向とは一線を画す結果となっている。

今後、講座やセミナーの開催を検討するとき、これらの世代傾向を勘案した開催日時の設定に努めることが望ましい。

４．自由記述

男性の生活や考え方などについて、設問以外でお気づきのことなどございましたら、どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

本調査における自由意見を見ると、次の五つの属性に整理することができる。

一つ目は、今まで当然と思われていた男女の役割に基づいて、男は外で働き、女は家で子どもを育てる社会を理想とし、男性としての暮らしやすさもそうした社会の中でもたらされるという考え方である。（これを**従来型**と名付ける）

二つ目は、従来型が男性にとって暮らしやすいとは思うが、女性の社会進出が進み、逆に男性の立場が弱くなったり、経済的事由から共働きを余儀なくされたりする中で、仕方なく従来型ではない生き方を選択しているという考え方である。（これを**消極的今後型**と名付ける）

三つ目は、男女関係なく個々人の能力に応じた役割分担が必要であり、一人ひとりが支え合うことを重要視する考え方である。この考え方には、女性がことさら優遇される社会を否定し、逆の意味での性差のなき社会を望む意見も見られた。（これを**一般的今後型**と名付ける）

四つ目は、三つ目で整理した今後型の考え方を持ち、なおかつ、積極的にそういう社会を求める層であるが、同時に、現在の社会制度に対し危惧する考え方である。（これを**積極的今後型**と名付ける）

五つ目は、今後型の考え方に同調するも、生活的自立やコミュニケーション力など自身のスキル不足を憂い、何らかの支援を求め不安を覚えている層である。（これを**不安的今後型**と名付ける）

自由意見区分
- 従来型①
- 今後型－消極的今後型②
  - 一般的今後型③
  - 積極的今後型④
  - 不安的今後型⑤

これらの属性ごとに自由意見を列挙すると以下の通りである。

①従来型

- 女性が社会進出しすぎ。早く子どもを産んで少子化に歯止めを。そういう視点でアンケートが作られていない。男が外で働き、女は家で子を産む、これが理想。女性が仕事しすぎると、晩婚化がすすみますます少子化が進む。（40代，既婚，一人暮らし以外）

②消極的今後型

- 時代はかわり男性の方が弱くなってきた気がする。昔は男は外で仕事、女は家事・子育て・・・と決められていたが今はそうでもなくなった。昔の方がよかったといえばそうかもしれないが今は共働きしないと生きていけない。後３年で退職だがこれからどうなるのか不安だ。（60代，既婚，一人暮らし以外）
- 男性の生活として、仕事が大事か家庭が大事かということをよく考える。本来なら家庭を１番にすべきだが、収入がないと家族が生活していけない。なので我が家は、主に家庭の事ほとんどを嫁にまかせている。私の勤務している会社は総収入が少ないため資格取得により収入が上がる所

なので日々の資格勉強によりより多くの資格を取ることが家庭の幸せになる1歩と考える。(40代，既婚，一人暮らし以外)

③一般的今後型

- 能力を持った女性を生かせるように、企業など体制を変えていかねばならないと感じる。また、女性が家庭を支える主となっている実態がある。女性が社会へ出て働くことができるよう、これからもフォローしていく体制を強化していかないといけないと思う。(40代，既婚，一人暮らし以外)
- 社内での女性の地位向上はデメリットが多いとしか思えない。たいした能力や自覚が無いにも関わらずポストを与えられ、早期退職の足切りにも掛からない。晩婚、少子化、離婚率up。企業のポスト減少－就職率低下。(30代，既婚，一人暮らし以外)
- 最近“レディスデイ”とか女性ばかり特典が多く、差別だと感じる。女性は都合の良い時だけ「男だから」と男性をうまく利用しているように感じる。性差のない世の中になる事を希望する。(40代，既婚，一人暮らし以外)
- 男・女で分けて考える必要がないのではないかと思う。(30代，既婚，一人暮らし以外)
- 各々が他人のことを少しだけ想いやれたら住み易くなると思う。(不明，離別，一人暮らし)
- 核家族化が進んで、支える手が足りなくなったから、男性の家事参加、女性の就労が言われるようになった。今後、人口減少、少子化高齢化が進んでいくと、男性の役割を増やすとか、女性の役割を増やすとかではもはや対応できない。いずれ支える人が、日本にはいなくなる。こうした日本の状況とは逆に世界の人口は増加している。近い将来、食料と職を求め日本に来た外国人に我々は頼らざるをえなくなるかもしれない。もはや、家庭内のやりくりで済む話ではない。男女共同参画という言葉は、早晩陳腐化するだろう。家庭内の男の役割、女の役割を言うのではなく、人と人とは支え合うことを考えないといけない。人と人が支え合うこと、それが失われた家族の原点ではないでしょうか。(40代，既婚，一人暮らし以外)
- 男性だから、女性だからという視点よりも、お互いの性の違いを有効利用できる視点を持てる方がより物事を円滑に進めていけるように思います。教育は大切だと思います。かつ、教育者を育てることは、国及び地方自治体の責務ではないか？と思います。親は、親の責任として、子どもが自立していくまでの心理的支援ができればと思って、育児にあたっています。育児に関して、母性というものが子どもに与えるものの力を痛感し、母性では、どんなにがんばっても届かないものを感じます。がんばっている母への協力と、がんばり過ぎないようにという所での父親の役割は感じるのですが、私自身の行動の定着に課題が残ります。(30代，既婚，一人暮らし以外)

④積極的今後型

- 近年、人の意識には変化があった(「イクメン」や「弁当男子」の流行、セクハラについての意識など)と思うが、社会のシステムが、従来の形で、頑丈に固定されてしまっているように思え、人の意識が変わっても、それが、男女共同参画社会の実現に結びついていきにくいのではないかと感じている。(20代，未婚，一人暮らし)
- 男女共同参画ということであらたな男女差別があるように思う。共働き世帯とそうでない世帯との税金、保険料等の不平等さ。(50代，既婚，一人暮らし以外)
- 例：「終身雇用」という考え方があまりに根付いてしまっているため、一度就職してしまったら、男女ともに、ライフスタイルに合わせて別の働き方を求めての転職を気軽にすることが出来ないのではないか。(20代，未婚，一人暮らし)

- 正直奥さんが家で家庭を守るなんて時代ではないと思っています。共働きで妻は大手企業に勤めており、年収も私より多いです。私は全然気にならないですし妻も何も言いません。ただ、やはり、まだ男性の育児休暇を取れる会社なんてほとんどないと思います。子どもは私達の宝物だと思っています。家庭にはその家庭によって決め事悩み事があると思います。もう少し子育てについて柔軟な対応のできる会社が必要だと感じています。女性が赤ちゃんを産むから、女性には育児休暇を取る権利があるが男性にはないという現実だと思います。難しいと思いますが。（30代，既婚，一人暮らし以外）
- 社会全体に男性が仕事を休んで、育児や介護に参加する事は勇気がいる。できれば妻にもう１人産んでもらいたいがなかなか金銭的にも大変である事が、実際である。（30代，既婚，一人暮らし以外）
- 医療関係で母子家庭制度があるのに、父子家庭の制度がないのは、おかしい。現在日本の経済で男性の方が収入が多いのは極めて一部であって、低収入で子育てをしている父子家庭を支えて行くべきである。（40代，既婚，一人暮らし以外）
- 専門の職能以外に知識・技能を身につける機会や場所があれば、先行き不安の世の中なので男女を問わずニーズがあるのではないかと思われる。働きながらリクルートは難しい。母子家庭の保護と父子家庭の保護に差があるのに、男女共同参画がやろうとしている仕事は啓発や調査で終わってはいないのか。よりよき社会に変革できるよう、しかるべき人材や組織に情報を伝えるための調査なら意義もより大きくなると思われる。（50代，既婚，一人暮らし以外）

⑤不安的今後型

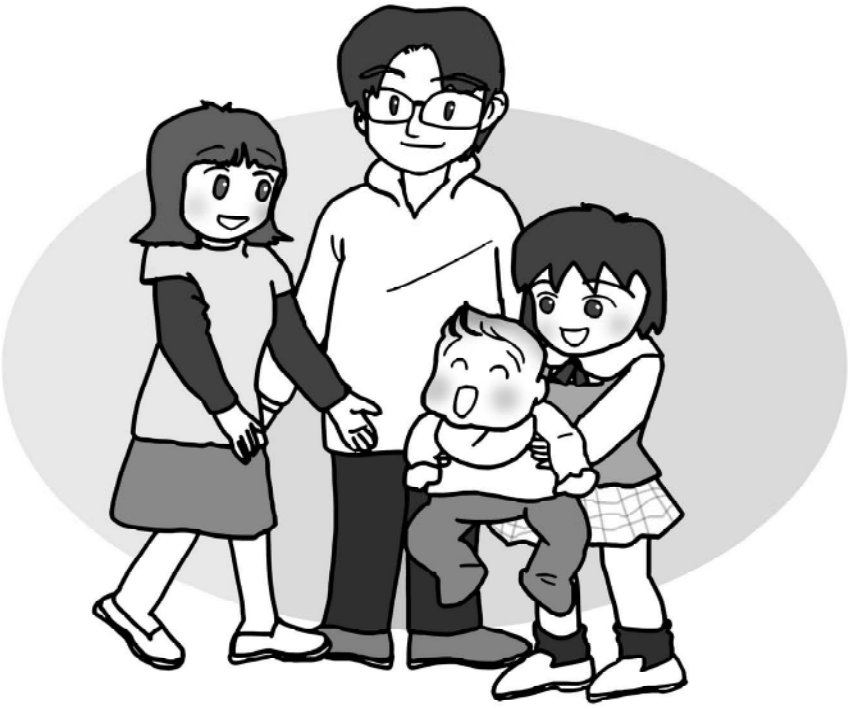
- 家事に慣れ、妻の手伝いや、子育てに協力したい、自分が一人でも生活していけるようになりたい、以上の手助けをして欲しい。（30代，既婚，一人暮らし以外）
- 男性は女性と比べ、コミュニケーション力不足に陥りやすいと考える。特に、弱音を吐けず、ストレスをためこむ傾向にあると思う。行政の方でその解消に向けたセミナーが開かれるのはとても賛同できる。ただ、協調性の有無を正否で分けるのも危険である。おひとりさまでも住みやすい環境作りも整えてもらえれば、同時に女性も生きやすいのでは…。男女共同参画の情報発信はまだ弱いと考える。もっとアピールしていってもらいたい。（40代，離別，一人暮らし）
- 仕事中心で地域社会参加がなかなか出来ません。特に子どもが大きくなり、行事等の参加もない状態が実際です。出来るだけスポーツイベント等に参加していますが、他人とのコミュニケーションを図れず、自己満足に終わっています。松山市として、男性の参加出来易いサークル等を積極的に組み立てできないでしょうか？（40代，既婚，一人暮らし以外）
- 男性は定年退職後、高齢になるほど孤独感が増し、いくら気丈な人でも精神的に不安症となっていると思われます。ゆえに絶対に仲間、友達が必要で、グループ的なものに参加するのが良いと思います。（60代，既婚，一人暮らし以外）

第３章　付属資料

１．「男性の市民意識調査」調査用紙

２．「男性の市民意識調査」数値表

男性にとっても 生きやすい
社会づくりをめざして



実施主体 ／ 松山市・財団法人 松山市男女共同参画推進財団

アンケートご協力のお願い

突然、アンケート票を送付いたしまして誠に申し訳ございません。

松山市と（財）松山市男女共同参画推進財団では、男女共同参画推進事業の充実のため、例年、各種調査を実施しております。

今年度は男性の生活や意識に関するアンケートを行い、男性が生きやすい社会づくりをめざした事業展開のための基礎資料としたいと考えています。

今回のアンケートは、平成２４年１月１日現在、松山市に住民登録している方の中から無作為に 4,000 名の方にお願いをいたしました。あなたはそのうちのお一人です。

アンケートは無記名です。個人名は特定されません。また、お答えいただいたことにつきましては、男女共同参画の推進のみに使用し、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。

ご多忙中のところ誠に恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

～ご記入にあたってのお願い～

１．回答は、必ず宛名のご本人様がご記入ください。

※ただし目や手がご不自由な方は、必要に応じてご家族の方が代筆いただいて結構です。

２．特に記載のない場合は、番号（①，②など）や英文字（ａ，ｂなど）に○をつけてください。

３．質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、各設問冒頭のことわり書きや矢印にご注意ください。

４．ご記入いただきました質問票は、平成２４年３月１２日（月）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご返送ください。

※返信用封筒の郵便番号の下に印刷されている数字は、郵便局用の整理番号です。したがって個人を特定するものではありません。

【この調査についてのお問い合わせ先】
財団法人 松山市男女共同参画推進財団　情報担当
〒790-0003　松山市三番町六丁目４番地 20
TEL：089（943）5777
FAX：089（943）0460
受付時間 火～土 ９：００～１７：００

１．あなたご自身のことについて伺います。

問 1 あなたの年齢は何歳ですか。　　（　　）歳

問 2 あなたは、結婚のご経験がありますか。（〇は一つだけ）

① 現在、結婚している（婚姻届を出し、入籍している）
② 事実婚の状態である
③ 離別：以前結婚（事実婚を含む）していたが、離別した
④ 死別：以前結婚（事実婚を含む）していたが、死別した
⑤ 未婚：結婚（事実婚を含む）したことがない

【結婚のご経験のない方にお伺いします】

問 3 あなたは現在、特定の交際相手がいらっしゃいますか。（〇は一つだけ）

① 現在、交際相手がいる
② 交際経験はあるが、現在、特定の交際相手がいない
③ 交際経験なし

【結婚のご経験のある方にお伺いします】

問 4 あなたは、お子様がいらっしゃいますか。（〇は一つだけ）

① 子どもがいる　　② 子どもはいない

【子どもがいる方にお伺いします】

問 5 あなたのお子様の人数をご記入ください。　　（　　）人

【子どもがいる方にお伺いします】

問 6 あなたのお子様は何歳ですか。複数のお子様がいらっしゃる場合は、一番年長のお子様の年齢を「長子」の欄に、一番年少のお子様の年齢を「末子」の欄にお書きください。
　また、お一人の場合は、「長子」の欄にご記入ください。

① 長子（または一人の場合）　（　　）歳　　② 末子（　　）歳

問 7 あなたは現在、どなたと一緒に暮らしていますか。あてはまるものすべてを選択してください。回答は、あなた自身からみた続柄でお答えください。（〇はいくつでも）

① 一人暮らし　② 単身赴任　③ 配偶者　④ 未婚の子ども(　)人
⑤ 既婚の子ども(　)人　⑥ 子どもの配偶者　⑦ 自分の親　⑧ 配偶者の親
⑨ 兄弟姉妹　⑩ 祖父母　⑪ 孫　⑫ その他(　　)

問 8 あなたが最後に卒業された学校（在学中を含む）について、あてはまるもの一つを選択してください。（〇は一つだけ）

① 中学校　② 高校　③ 専門学校　④ 高専
⑤ 短大　⑥ 大学　⑦ 大学院　⑧ その他（　　）

問 9 あなたと配偶者等（いる方のみ）の現在のお仕事（就業形態）について伺います。
あてはまるものを一つずつ該当する欄にご記入ください。（番号を一つずつ）

あなた	配偶者等

↓以下、就業中の方

① 勤め人（民間企業などの正規社員）
② 勤め人（公務員、公社などの正規職員）
③ 勤め人（契約・派遣・嘱託・パートタイマーなどの非正規社員及び非正規職員）
④ 自営業者（家族従業者を含む）・経営者
⑤ 農林漁業者（家族従事者を含む）
⑥ その他の仕事（　　）

↓以下、無職の方

⑦ 学生
⑧ 年金生活
⑨ 失業中・求職中
⑩ 専業主夫・専業主婦（年金生活者や一時的な失業・求職者は除く）
⑪ その他（　　）

【就業中の方にお伺いします】

問 10 あなたの現在のご職業や職種、お立場は、次のどれにあてはまりますか。あてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）

① 専門知識をいかした仕事
（教員、医師、看護師、弁護士、建築士、システムエンジニアなど）
② 管理的な仕事（企業・官公庁・団体の役員・課長以上の管理職、経営者など）
③ 事務的な仕事（一般事務、経理事務、企画事務、営業事務、①・②にあてはまらない者）
④ 営業・販売の仕事（商店主、小店員、セールス員、外交員など）
⑤ サービスの仕事
（飲食店主、飲食店員、料理人、理美容師、保育士、ホームヘルパーなど）
⑥ 保安の仕事（自衛官、警察官、消防士、入国管理官、警備員など）
⑦ 運輸・通信の仕事（運転手、郵便会社職員など）
⑧ 製造・技能・労務の仕事（職人、工場労働者、修理工、建設・土木作業者、清掃員など）
⑨ 農林漁業の仕事
⑩ その他（　　）

【就業中の方にお伺いします】

問 11 あなたが勤務している勤務先や家業の従業員数は、次のどれにあてはまりますか。あてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）

① 1～5 人　② 6～10 人　③ 11～30 人　④ 31～100 人
⑤ 101～300 人　⑥ 301～500 人　⑦ 501～1,000 人　⑧ 1,001 人以上

問 12 昨年のあなた自身と配偶者等（いる方のみ）の年収（税込み）について伺います。あてはまるものを一つずつ該当する欄にご記入ください。（番号を一つずつ）

あなた	配偶者等

① 収入がなかった　② 100 万円未満　③ 100 万円-200 万円未満
④ 200 万円-300 万円未満　⑤ 300 万円-400 万円未満　⑥ 400 万円-500 万円未満
⑦ 500 万円-600 万円未満　⑧ 600 万円-800 万円未満　⑨ 800 万円-1,000 万円未満
⑩ 1,000 万円以上　⑪ わからない

２．あなたのお考えや生活についてお伺いします。

問 13 あなたは、現在の生活に満足していますか。あてはまるもの一つを選択してください。（〇は一つだけ）

① 満足している　② やや満足している　③ あまり満足していない　④ 満足していない

問 14 次のそれぞれの文の内容について、あなたご自身の現在の考え方や感じ方として、最も近いと思われる番号を選択してください。（〇は一つだけ）

なお、「結婚生活に関する質問」や「子育てに関する質問」など、未婚の方やお子様のいない方、またお子様が既に成人されている方などの場合、現在の状況に該当しない項目もあると思いますが、その項目については例示のように、あなたがそのような立場になった場合を想定してご回答ください。

それ以外の項目については、現在のあなたの考え方や感じ方についてご回答ください。

例）（結婚したら）家族を養い守るのは、自分の責任である

→ 結婚していない方は、結婚した場合を想定してご回答ください。

	とてもそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
① （結婚したら）家族を養い守るのは自分の責任である	1	2	3	4	5
② 結婚生活の重要事項は妻ではなく自分が決めたい	1	2	3	4	5
③ （結婚したら）妻にもできるだけ家計を担ってもらいたい	1	2	3	4	5
④ 家庭のこまごました管理は妻にしてほしい	1	2	3	4	5
⑤ 子どもに手がかかるうちは妻に働いてほしくない	1	2	3	4	5
⑥ 自分の親に介護が必要になったら介護は妻にしてほしい	1	2	3	4	5
⑦ 父親が仕事中心に生活することは家庭の幸せにつながる	1	2	3	4	5
⑧ 管理職は男性の方が向いていると思う	1	2	3	4	5
⑨ 自分の気持ちを素直に他人に伝えたい	1	2	3	4	5
⑩ 弱音を吐きたくない	1	2	3	4	5

【就業中の方にお伺いします】

問 15 あなたの１週間の労働時間についてお伺いします。

ア）実際の労働時間（ばらつきがある場合は、平均的な労働時間をご記入ください。）

例）１日８時間労働で５日勤務の場合

８（時間）×５（日）＝４０時間　⇒１週間あたりおよそ（４０）時間

実際の労働時間＝１週間あたりおよそ（　　）時間働いている

イ）あなたが「理想とする労働時間」は、１週間あたりどのくらいですか。その時間をご記入ください。

例）１日７時間労働で５日勤務の場合

７（時間）×５（日）＝３５ 時間　⇒１週間あたり（３５）時間くらいを希望

理想とする労働時間　＝１週間あたり（　　）時間くらいを希望する

【就業中の方にお伺いします】

問 16 あなたは、現在のお仕事にどのような意義を感じていますか。（〇はいくつでも）

① 生活のため　② 社会人としての義務　③ 社会参加のため

④ 社会貢献のため　⑤ 働くことが生きがい　⑥ 自尊心を満たすため

⑦ 自分の成長を実感するため　⑧意義を特に感じていない　⑨ その他（　　）

問 17 あなたは普段、料理や掃除、洗濯などの家事をしていますか。①～④の中からあてはまるものー つを選択してください。またその理由をａ～ｊの中からあてはまるものー つを選択してください。

家事（〇はー つだけ）	その理由（〇はー つだけ）
① よくしている	a. 自発的にしている
	b. 話し合いの上でしている
② ときどきする	c. 仕方なくしている
③ ほとんどしない	d. 仕事が忙しいからできない
	e. 家事は妻の役割だと思うからしない
	f. 格好悪いからしない
④ まったくしない	g. 面倒くさいからしない
	h. 能力的に無理だからしない
	i. 話し合いの上でしない
	j. その他（　　）

【結婚または事実婚の状態の方にお伺いします】

問 18 家計のお金のやりくり（何にいくら使うかを決めること）は、誰が行っていますか。あてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）

① 主に自分　　② 主に配偶者　　③ ２人で行っている　　④ その他（　　）

【未就学児のいる方にお伺いします】

問 19 あなたは、子どもの世話をしていますか。①～④の中からあてはまるもの一つを選択してください。またその理由をａ～ｊの中からあてはまるもの一つを選択してください。

子どもの世話（○は一つだけ）	その理由（○は一つだけ）
① よくしている	a. 自発的にしている
	b. 話し合いの上でしている
② ときどきする	c. 仕方なくしている
③ ほとんどしない	d. 仕事が忙しいからできない
	e. 子どもの世話は妻の役割だと思うからしない
	f. 格好悪いからしない
④ まったくしない	g. 面倒くさいからしない
	h. 能力的に無理だからしない
	i. 話し合いの上でしていない
	j. その他（　　）

問 20 あなたは、これから子どもが生まれるとしたら育児休業を取得したいと思いますか。①か②のうち、あてはまるもの一つを選択してください。またその理由をａ～ｉの中からあてはまるもの一つを選択してください。

育児休業（○は一つだけ）	その理由（○は一つだけ）
① 取得したい	a. 子育てにかかわりたいから
	b. 妻を助けたいから
	c. その他（　　）
② 取得しない	d. 自分が休業するほどではないと思うから
	e 有給休暇で対応できるから
	f. 育児休業は妻が取得するものだから
	g. 仕事の状況から取得は困難だから
	h. 収入が減るから
	i. その他（　　）

【実際に介護にかかわっている、もしくはかかわったことのある方にお伺いします】

問 21 介護を必要とした方は、あなたから見てどういう立場ですか。（○はいくつでも）

① 自分の父親　② 自分の母親　③ 配偶者の父親　④ 配偶者の母親

⑤ その他（　　）

【実際に介護にかかわっている、もしくはかかわったことのある方にお伺いします】

問 22 介護のストレスをどの程度感じましたか。（○は一つだけ）

① とても感じた
② 少し感じた
③ あまり感じなかった
④ 全く感じなかった

→ それはどのようなストレスです（でした）か？

【実際に介護にかかわっている、もしくはかかわったことのある方にお伺いします】

問 23 介護サービスを利用しましたか。（○は一つだけ）

① 利用した

その理由を教えてください

② 利用していない

その理由を教えてください

【結婚または事実婚の状態の方にお伺いします】

問 24 配偶者等との会話についてお伺いします。

ア）あなたは、配偶者等とよく会話をしていますか。（○は一つだけ）

① はい　　② いいえ

イ）その理由で、あてはまる番号すべてをご記入ください。

「①はい」と回答した方	「②いいえ」と回答した方

① パートナーとしてずっと仲良くしたいから
② 夫婦円満が家族の幸せにつながるから
③ 言わないとわからないこともあるから
④ 一人の時間を大切にしたいから
⑤ 時間帯が合わないから
⑥ そもそも話す気が起こらないから
⑦ 特に話したいことがないから
⑧ 話しても聞いてもらえないから
⑨ その他（　　）

問 25　あなたは、平日や休日の仕事以外の時間をどのように過ごしていますか。
また、希望としては、どのように過ごしたいとお考えですか。
（それぞれ該当する欄に○をご記入ください，○はいくつでも）

① 家族で団らんをする
② 掃除、洗濯、食事作りなど家事をする
③ 子どもの世話をする
④ 地域活動等にかかわる
⑤ 自己研さんのために勉強する
⑥ 自分の趣味にあてる
⑦ ランニングやウォーキングなどからだを動かす
⑧ 友人と過ごす
⑨ テレビを観るなど、のんびりする
⑩ その他（　　）

	平日		休日	
	実際	希望	実際	希望
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				

問 26 あなたは、この１年間に、次のような悩みや困りごとがありましたか。あてはまるものすべてを選択してください。（〇はいくつでも）
その中で、もっとも大きな悩みや困りごとに一つだけ◎をつけてください。（◎は一つだけ）

① 仕事、雇用、転職、再就職、起業
② 健康、病気、障害
③ 収入の少なさ、家計のやりくり、借金
④ 友人、知人との関係
⑤ 職場の人間関係
⑥ 恋愛、結婚、離婚、夫婦の関係
⑦ 育児、子育て、教育
⑧ 親子関係
⑨ 介護に関すること
⑩ 性格、容姿
⑪ 異性・配偶者との性に関する悩み
⑫ その他（具体的に　　）
⑬ 特に悩みや困りごとはない

【問 26 で、◎をつけた方にお伺いします】

問 27 あなたは、その悩みや困りごとについて、誰かに相談したいと思ったことがありますか。（〇は一つだけ）

① あった　　② なかった

【問 26 で、◎をつけた方にお伺いします】

問 28 あなたは、誰に相談しましたか。（〇はいくつでも）

① 配偶者　② 交際相手　③ 父親　④ 母親　⑤ 子ども
⑥ 兄弟姉妹　⑦ 友人　⑧ 先輩・後輩　⑨ 職場の上司　⑩ 職場の相談窓口
⑪ 職場外の相談窓口　⑫ その他（　　）⑬ 誰にも相談しなかった

【問 26 で、◎をつけた方にお伺いします】

問 29 お差し支えなければ、もっとも大きな悩みや困りごとをご記入ください。

（　　）

問 30 あなたは、男であることがつらいと感じたことがありますか。あてはまるものすべてを選択してください。（○はいくつでも）

① 何かにつけ「男のくせに」と言われることがつらい
② 妻子を養うのは男の責任だと言われることがつらい
③ リーダーシップ（決断力）を求められることがつらい
④ 常に「強さ」を求められることがつらい
⑤ 親の面倒を看なければならないことがつらい
⑥ 家を継がなければならないことがつらい
⑦ その他（　　）
⑧ 特につらいと感じたことはない

３．男女共同参画について

問 31 近年、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会」の実現が求められています。
以前に比べ、男女共同参画に関するあなたの意識や考え方に変化はありましたか。
（○は一つだけ）

① 変化はない　② 変化があった　③ よくわからない

【問 31 で、「①変化はない」と回答した方にお伺いします】

問 32 それはどのような心境ですか。（○は一つだけ）

① 従来から女性よりも男性の方が上と思っている
② 従来から男性よりも女性の方が上と思っている
③ 以前から男女は平等と考えていたので特に変化は感じていない
④ その他（　　）

【問 31 で、「②変化があった」と回答した方にお伺いします】

問 33 それは、どのような変化ですか。（○はいくつでも）

① 仕事とともに家事・育児をすることを求められ男性は大変になったと思う
② 女性は強いと思っていたがますます強くなったと思う
③ 女性が職場に進出してきて自分の領分を侵されているように感じる
④ セクシュアルハラスメントにならないよう女性に対する言動を意識し始めた
⑤ 男性は仕事だけでなく仕事以外の時間を大切にした方がいいと思うようになった
⑥ 男性が家事をすることは必要なことだと思うようになった
⑦ 男性が子育てにかかわることは必要なことだと思うようになった
⑧ 女性が結婚、出産後も仕事を続けることはいいことだと思うようになった
⑨ 仕事で能力を発揮する女性が増えてきているのはいいことだと思うようになった
⑩ 女性の管理職が登場してきているのはいいことだと思うようになった
⑪ その他（　　）

問 34「松山市男女共同参画推進センター」はコムズの愛称で親しまれ、男女共同参画社会の実現をめざして、講座・セミナーの開催、市民活動支援、図書の貸し出し、相談、調査研究などさまざまな事業を実施するとともに、市民活動をしている方々を中心に広く市民のみなさんに貸館としてのご利用をいただいています。

あなたはコムズを知っていますか。また、利用したことがありますか。あてはまる番号を選んで○をつけてください。（○は一つだけ）

① 利用したことがある ⟶ （それはなぜですか）

② 知っているが、利用したことはない ⟶ （それはなぜですか）

③ 知らなかった

問 35 コムズでは今後、男性対象の講座を充実させていきたいと考えています。

あなたはどのような内容の講座やセミナーであれば参加したいと思いますか。（○はいくつでも）

① 生き方を考える	② ライフプランを考える	③ 仕事に役立つ
④ 地域で役立つ	⑤ コミュニケーション力をつける	⑥ 子育てを考える
⑦ 親子関係を考える	⑧ パートナーシップを考える	⑨ 介護について学ぶ
⑩ 健康増進を学ぶ	⑪ からだを動かす	⑫ 仲間をつくれる
⑬ 子どもと参加できる	⑭ パートナーと参加できる	⑮ その他（　　）

問 36 講座やセミナーに参加しやすいのはいつですか。（○はいくつでも）

① 平日の午前	② 平日の午後	③ 平日の夜間
④ 土曜日の午前	⑤ 土曜日の午後	⑥ 土曜日の夜間
⑦ 日・祝日の午前	⑧ 日・祝日の午後	⑨ 日・祝日の夜間
⑩ その他（　　）		

４．自由記述

男性の生活や考え方などについて、設問以外でお気づきのことなどございましたら、どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

問1 あなたの年齢は何歳ですか。

	回答者数
20歳代	88
30歳代	144
40歳代	163
50歳代	177
60歳以上	244
合計	816

問2 あなたは、結婚のご経験がありますか。（○は一つだけ）

年齢	回答者数	1 現在、結婚している(婚姻届を出し、入籍している)	2 事実婚の状態である	3 離別：以前結婚(事実婚を含む)していたが、離別した	4 死別：以前結婚(事実婚を含む)していたが、死別した	5 未婚：結婚(事実婚を含む)したことがない	不明
20歳代	88	28	1	1	0	57	1
30歳代	144	100	0	7	0	37	0
40歳代	163	130	0	14	1	18	0
50歳代	177	152	2	12	2	9	0
60歳以上	244	214	1	16	7	6	0
合計	816	624	4	50	10	127	1

【結婚のご経験のない方にお伺いします】

問3 あなたは現在、特定の交際相手がいらっしゃいますか。（○は一つだけ）

年齢	回答者数	1 現在、交際相手がいる	2 交際経験はあるが、現在、特定の交際相手がいない	3 交際経験なし	不明
20歳代	57	24	17	13	3
30歳代	37	19	8	9	1
40歳代	18	1	12	5	0
50歳代	9	1	6	2	0
60歳以上	6	0	5	1	0
合計	127	45	48	30	4

【結婚のご経験のある方にお伺いします】

問4 あなたは、お子様がいらっしゃいますか。（○は一つだけ）

年齢	回答者数	1 子どもがいる	2 子どもはいない	不明
20歳代	30	19	10	1
30歳代	107	85	19	3
40歳代	145	123	19	3
50歳代	168	154	12	2
60歳以上	238	227	9	2
合計	688	608	69	11

【子どもがいる方にお伺いします】

問5 あなたのお子様の人数をご記入ください。

年齢	回答者数	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	不明
20歳代	19	12	5	2	0	0	0	0
30歳代	85	28	46	9	1	0	0	1
40歳代	123	35	64	21	2	1	0	0
50歳代	154	17	95	36	6	0	0	0
60歳以上	227	23	135	61	6	1	0	1
合計	608	115	345	129	15	2	0	2

【子どもがいる方にお伺いします】

問6 あなたのお子様は何歳ですか。複数のお子様がいらっしゃる場合は、一番年長のお子様の年齢を「長子」の欄に、一番年少のお子様の年齢を「末子」の欄にお書きください。また、お一人の場合は、「長子」の欄にご記入ください。

＜長子または一人の場合＞

年齢	回答者数	0～2歳未満	2歳以上6歳未満	6歳以上9歳未満	9歳以上12歳未満	12歳以上15歳未満	15歳以上18歳未満	18歳以上	不明
20歳代	19	12	3	2	1	0	0	0	1
30歳代	85	16	35	13	11	5	4	1	0
40歳代	123	3	8	12	18	20	31	30	1
50歳代	154	0	0	2	2	4	10	135	1
60歳以上	227	0	0	0	0	0	1	225	1
合計	608	31	46	29	32	29	46	391	4

＜末子＞

年齢	回答者数	0～2歳未満	2歳以上6歳未満	6歳以上9歳未満	9歳以上12歳未満	12歳以上15歳未満	15歳以上18歳未満	18歳以上	不明
20歳代	19	4	3	0	0	0	0	0	12
30歳代	85	24	15	7	7	1	3	0	28
40歳代	123	4	16	12	15	17	16	8	35
50歳代	154	0	1	3	4	12	11	104	19
60歳以上	227	0	0	0	1	1	0	195	30
合計	608	32	35	22	27	31	30	307	124

問7 あなたは現在、どなたと一緒に暮らしていますか。あてはまるものすべてを選択してください。回答は、あなた自身からみた続柄でお答えください。（〇はいくつでも）

年齢	回答者数	①配偶者と子ども	②配偶者	③1人暮らし	④自分の親	⑤配偶者と子どもと自分の親	⑥単身赴任	⑦自分の親と兄弟姉妹	⑧配偶者と自分の親	⑨配偶者と子どもと配偶者の親	⑩その他	不明
20歳代	88	16	12	23	19	1	0	12	0	0	0	5
30歳代	144	68	23	14	18	3	2	4	1	0	4	7
40歳代	163	83	25	17	9	7	5	2	1	3	1	10
50歳代	177	68	42	15	6	8	11	1	6	5	2	13
60歳以上	244	53	113	21	6	5	3	1	10	4	2	26
合計	816	288	215	90	58	24	21	20	18	12	9	61

問8 あなたが最後に卒業された学校（在学中を含む）について、あてはまるもの一つを選択してください。（〇は一つだけ）

年齢	回答者数	1 中学校	2 高校	3 専門学校	4 高専	5 短大	6 大学	7 大学院	8 その他	9 不明
20歳代	88	6	25	9	0	1	36	10	0	1
30歳代	144	14	41	14	1	2	56	14	2	0
40歳代	163	7	48	19	1	1	78	9	0	0
50歳代	177	8	65	7	2	3	87	4	1	0
60歳以上	244	34	107	8	2	11	74	5	2	1
合計	816	69	286	57	6	18	331	42	5	2

問9 あなたと配偶者等（いる方のみ）の現在のお仕事（就業形態）について伺います。あてはまるものを一つずつ該当する欄にご記入ください。（番号を一つずつ）

＜回答者本人＞

年齢	回答者数	1 民間企業などの正規社員	2 公務員、公社などの正規職員	3 パートタイマーなどの非正規雇用	4 自営業者(家族従事者を含む)・経営者	5 農林漁業者(家族従事者を含む)	6 その他の仕事	7 学生	8 年金生活	9 失業中・求職中	10 専業主夫・専業主婦	11 その他	不明
20歳代	88	36	8	6	2	0	0	16	0	6	0	2	12
30歳代	144	94	15	9	10	2	1	1	1	4	0	1	6
40歳代	163	91	31	6	18	2	0	0	3	1	0	3	8
50歳代	177	89	36	10	19	2	3	0	1	7	0	2	8
60歳以上	244	36	11	38	22	19	7	0	76	5	0	1	29
合計	816	346	101	69	71	25	11	17	81	23	0	9	63

＜配偶者等＞

年齢	回答者数	1 民間企業などの正規社員	2 公務員、公社などの正規職員	3 パートタイマーなどの非正規雇用	4 自営業者(家族従事者を含む)・経営者	5 農林漁業者(家族従事者を含む)	6 その他の仕事	7 学生	8 年金生活	9 失業中・求職中	10 専業主夫・専業主婦	11 その他	不明
20歳代	29	4	1	3	1	0	0	0	0	2	18	0	0
30歳代	100	14	4	24	3	0	1	0	0	2	48	1	3
40歳代	130	17	4	45	6	1	0	0	0	1	52	1	3
50歳代	154	16	7	54	6	0	1	0	0	3	52	1	14
60歳以上	215	8	3	39	8	11	3	0	31	2	69	1	40
合計	628	59	19	165	24	12	5	0	31	10	239	4	60

＜子どもがいる回答者の配偶者の就業状況とのクロス集計＞

年齢	回答者数	1 民間企業などの正規社員	2 公務員、公社などの正規職員	3 パートタイマーなどの非正規雇用	4 自営業者(家族従事者を含む)・経営者	5 農林漁業者(家族従事者を含む)	6 その他の仕事	7 学生	8 年金生活	9 失業中・求職中	10 専業主夫・専業主婦	11 その他	不明
20歳代	19	3	0	1	1	0	0	0	0	0	13	0	1
30歳代	85	9	3	18	3	0	1	1	0	1	43	1	5
40歳代	123	11	2	39	6	1	0	0	0	0	49	1	14
50歳代	154	15	6	52	6	0	1	0	0	3	48	1	22
60歳以上	227	9	3	39	8	11	3	0	30	2	68	1	53
合計	608	47	14	149	24	12	5	1	30	6	221	4	95

【就業中の方にお伺いします】

問10 あなたの現在のご職業や職種、お立場は、次のどれにあてはまりますか。あてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）

年齢	回答者数	1 専門知識をいかした仕事	2 管理的な仕事	3 事務的な仕事	4 営業・販売の仕事	5 サービスの仕事	6 保安の仕事	7 運輸・通信の仕事	8 製造・技能・労務の仕事	9 農林漁業の仕事	10 その他	不明
20歳代	52	10	3	11	5	4	2	1	13	2	0	1
30歳代	131	20	14	17	23	10	4	6	31	2	2	2
40歳代	148	25	33	26	22	6	5	9	16	2	2	2
50歳代	159	25	55	19	13	3	3	8	25	3	2	3
60歳以上	133	20	23	13	12	4	6	5	19	16	7	8
合計	623	100	128	86	75	27	20	29	104	25	13	16

【就業中の方にお伺いします】

問11 あなたが勤務している勤務先や家業の従業員数は、次のどれにあてはまりますか。あてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）

年齢	回答者数	1 1～5人	2 6～10人	3 11～30人	4 31～100人	5 101～300人	6 301～500人	7 501～1,000人	8 1,001人以上	不明
20歳代	52	7	2	7	12	3	4	3	13	1
30歳代	131	14	15	21	18	19	10	5	26	3
40歳代	148	19	13	15	19	16	10	5	48	3
50歳代	159	23	7	16	25	20	11	9	44	4
60歳以上	133	33	9	19	18	14	5	7	12	16
合計	623	96	46	78	92	72	40	29	143	27

問12 昨年のあなた自身と配偶者等（いる方のみ）の年収（税込み）について伺います。あてはまるものを一つずつ該当する欄にご記入ください。（番号を一つずつ）

＜回答者本人＞

年齢	回答者数	1 収入がなかった	2 100万円未満	3 100万円以上200万円未満	4 200万円以上300万円未満	5 300万円以上400万円未満	6 400万円以上500万円未満	7 500万円以上600万円未満	8 600万円以上800万円未満	9 800万円以上1,000万円未満	10 1,000万円以上	11 わからない	不明
20歳代	88	11	6	8	18	16	8	2	1	0	0	3	15
30歳代	144	2	3	7	21	38	31	19	11	2	0	2	8
40歳代	163	2	4	8	18	19	19	25	29	15	14	1	9
50歳代	177	5	7	7	7	18	23	25	39	30	8	0	8
60歳以上	244	5	12	41	58	31	25	13	11	5	10	0	33
合計	816	25	32	71	122	122	106	84	91	52	32	6	73

＜配偶者等＞

年齢	回答者数	1 収入がなかった	2 100万円未満	3 100万円以上200万円未満	4 200万円以上300万円未満	5 300万円以上400万円未満	6 400万円以上500万円未満	7 500万円以上600万円未満	8 600万円以上800万円未満	9 800万円以上1,000万円未満	10 1,000万円以上	11 わからない	不明
20歳代	29	16	5	4	1	0	1	0	0	0	0	2	0
30歳代	100	49	22	5	8	8	2	0	0	0	0	1	5
40歳代	130	45	35	17	11	6	3	1	2	0	0	2	8
50歳代	154	49	43	20	9	8	4	1	4	1	1	1	13
60歳以上	215	54	73	22	13	3	0	3	1	1	0	1	44
合計	628	213	178	68	42	25	10	5	7	2	1	7	70

問13 あなたは、現在の生活に満足していますか。あてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）

年齢	回答者数	1 満足している	2 やや満足している	3 あまり満足していない	4 満足していない	不明
20歳代	88	21	35	20	12	0
30歳代	144	30	69	28	16	1
40歳代	163	36	74	30	23	0
50歳代	177	45	74	33	22	3
60歳以上	244	65	101	48	24	6
合計	816	197	353	159	97	10

＜回答者本人の就労形態とのクロス集計＞

	回答者数	1 民間企業などの正規社員	2 公務員、公社などの正規職員	3 パートタイマーなどの非正規雇用	4 自営業者(家族従事者を含む)・経営者	5 農林漁業者(家族従事者を含む)	6 その他の仕事	7 学生	8 年金生活	9 失業中・求職中	10 専業主夫・専業主婦	11 その他	不明
1 満足している	197	93	27	11	12	7	4	7	21	0	0	1	14
2 やや満足している	353	157	59	26	29	9	4	7	38	3	0	2	19
3 あまり満足していない	159	64	11	19	15	5	1	2	16	6	0	1	19
4 満足していない	97	28	3	13	14	1	2	1	6	14	0	5	10
不明	10	4	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	1
合計	816	346	101	69	71	25	11	17	81	23	0	9	63

＜配偶者の就労形態とのクロス集計＞

	回答者数	1 民間企業などの正規社員	2 公務員、公社などの正規職員	3 パートタイマーなどの非正規雇用	4 自営業者(家族従事者を含む)・経営者	5 農林漁業者(家族従事者を含む)	6 その他の仕事	7 学生	8 年金生活	9 失業中・求職中	10 専業主夫・専業主婦	11 その他	不明
1 満足している	171	14	4	43	5	4	1	0	10	1	74	0	15
2 やや満足している	288	29	10	81	11	5	3	0	14	2	112	2	19
3 あまり満足していない	103	11	2	24	6	1	1	0	5	2	37	0	14
4 満足していない	59	5	3	16	2	1	0	0	2	4	14	2	10
不明	7	0	0	1	0	1	0	0	0	1	2	0	2
合計	628	59	19	165	24	12	5	0	31	10	239	4	60

＜回答者本人の年収とのクロス集計＞

	回答者数	1 収入がなかった	2 100万円未満	3 100万円以上200万円未満	4 200万円以上300万円未満	5 300万円以上400万円未満	6 400万円以上500万円未満	7 500万円以上600万円未満	8 600万円以上800万円未満	9 800万円以上1,000万円未満	10 1,000万円以上	11 わからない	不明
1 満足している	197	4	6	11	21	21	27	26	30	16	16	2	17
2 やや満足している	353	7	10	27	48	65	50	37	43	31	12	1	22
3 あまり満足していない	159	5	7	16	32	24	15	16	13	4	3	2	22
4 満足していない	97	9	9	17	18	12	11	5	3	1	1	1	10
不明	10	0	0	0	3	0	3	0	2	0	0	0	2
合計	816	25	32	71	122	122	106	84	91	52	32	6	73

＜配偶者の年収とのクロス集計＞

	回答者数	1 収入がなかった	2 100万円未満	3 100万円以上200万円未満	4 200万円以上300万円未満	5 300万円以上400万円未満	6 400万円以上500万円未満	7 500万円以上600万円未満	8 600万円以上800万円未満	9 800万円以上1,000万円未満	10 1,000万円以上	11 わからない	不明
1 満足している	171	65	42	20	17	1	2	0	4	1	1	1	17
2 やや満足している	288	97	87	27	13	19	3	4	3	1	0	3	31
3 あまり満足していない	103	35	29	11	5	3	4	0	0	0	0	2	14
4 満足していない	59	14	18	10	7	2	1	1	0	0	0	1	5
不明	7	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	628	213	178	68	42	25	10	5	7	2	1	7	70

問14 次のそれぞれの文の内容について、あなたご自身の現在の考え方や感じ方として、最も近いと思われる番号を選択してください。（〇は一つだけ）

①（結婚したら）家族を養い守るのは自分の責任である

年齢	回答者数	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	不明
20歳代	88	52	29	6	1	0	0
30歳代	144	95	42	6	0	1	0
40歳代	163	124	31	5	1	1	1
50歳代	177	140	29	6	1	1	0
60歳以上	244	189	43	2	3	2	5
合計	816	600	174	25	6	5	6

② 結婚生活の重要事項は妻ではなく自分が決めたい

年齢	回答者数	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	不明
20歳代	88	3	16	39	22	8	0
30歳代	144	11	32	57	26	18	0
40歳代	163	15	44	63	24	15	2
50歳代	177	16	46	79	16	20	0
60歳以上	244	35	82	72	24	24	7
合計	816	80	220	310	112	85	9

③（結婚したら）妻にもできるだけ家計を担ってもらいたい

年齢	回答者数	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	不明
20歳代	88	10	32	28	11	7	0
30歳代	144	17	51	53	17	5	1
40歳代	163	16	56	49	30	11	1
50歳代	177	20	54	60	33	9	1
60歳以上	244	31	70	61	48	29	5
合計	816	94	263	251	139	61	8

④ 家庭のこまごました管理は妻にしてほしい

年齢	回答者数	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	不明
20歳代	88	23	23	21	16	5	0
30歳代	144	30	53	35	15	10	1
40歳代	163	41	57	40	19	5	1
50歳代	177	37	72	47	14	6	1
60歳以上	244	60	107	42	22	8	5
合計	816	191	312	185	86	34	8

⑤ 子どもに手がかかるうちは妻に働いてほしくない

年齢	回答者数	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	不明
20歳代	88	12	24	35	13	4	0
30歳代	144	32	33	38	23	16	2
40歳代	163	33	46	49	24	10	1
50歳代	177	47	51	55	14	10	0
60歳以上	244	85	65	51	21	16	6
合計	816	209	219	228	95	56	9

⑥ 自分の親に介護が必要になったら介護は妻にしてほしい

年齢	回答者数	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	不明
20歳代	88	0	5	39	28	16	0
30歳代	144	6	16	60	33	28	1
40歳代	163	9	30	74	24	25	1
50歳代	177	8	40	78	32	19	0
60歳以上	244	17	67	90	44	21	5
合計	816	40	158	341	161	109	7

⑦ 父親が仕事中心に生活することは家庭の幸せにつながる

年齢	回答者数	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	不明
20歳代	88	2	7	29	28	22	0
30歳代	144	5	20	51	39	29	0
40歳代	163	10	26	61	44	21	1
50歳代	177	12	46	51	41	27	0
60歳以上	244	41	77	60	41	20	5
合計	816	70	176	252	193	119	6

⑧ 管理職は男性の方が向いていると思う

年齢	回答者数	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	不明
20歳代	88	7	16	38	10	15	2
30歳代	144	16	29	60	16	23	0
40歳代	163	12	43	64	20	21	3
50歳代	177	17	40	78	23	19	0
60歳以上	244	23	70	100	25	21	5
合計	816	75	198	340	94	99	10

⑨ 自分の気持ちを素直に他人に伝えたい

年齢	回答者数	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	不明
20歳代	88	33	28	22	2	3	0
30歳代	144	36	54	40	12	2	0
40歳代	163	33	59	48	16	5	2
50歳代	177	32	78	50	12	4	1
60歳以上	244	68	99	51	16	5	5
合計	816	202	318	211	58	19	8

⑩ 弱音を吐きたくない

年齢	回答者数	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	不明
20歳代	88	25	35	14	10	4	0
30歳代	144	31	50	41	14	8	0
40歳代	163	24	80	39	14	4	2
50歳代	177	41	75	39	16	5	1
60歳以上	244	76	98	46	17	3	4
合計	816	197	338	179	71	24	7

【就業中の方にお伺いします】

問15 あなたの１週間の労働時間についてお伺いします。

ア）実際の労働時間（ばらつきがある場合は、平均的な労働時間をご記入ください。）

年齢	回答者数	30時間未満	30時間以上40時間未満	40時間以上45時間未満	45時間以上50時間未満	50時間以上55時間未満	55時間以上	未回答
20歳代	52	1	0	19	9	10	12	1
30歳代	131	2	9	31	15	24	48	2
40歳代	148	3	9	39	23	29	41	4
50歳代	159	5	9	61	20	28	35	1
60歳以上	133	21	24	43	14	13	6	12
合計	623	32	51	193	81	104	142	20

イ）あなたが「理想とする労働時間」は、１週間あたりどのくらいですか。その時間をご記入ください。

年齢	回答者数	30時間未満	30時間以上40時間未満	40時間以上45時間未満	45時間以上50時間未満	50時間以上55時間未満	55時間以上	未回答
20歳代	52	2	11	26	3	3	5	2
30歳代	131	3	21	65	13	19	5	5
40歳代	148	2	31	84	11	11	5	4
50歳代	159	3	44	80	12	16	2	2
60歳以上	133	20	55	40	3	1	1	13
合計	623	30	162	295	42	50	18	26

＜実際の労働時間と理想の労働時間とのクロス集計＞

実際＼理想	回答者数	30時間未満	30時間以上40時間未満	40時間以上45時間未満	45時間以上50時間未満	50時間以上55時間未満	55時間以上	未回答
30時間未満	32	18	8	4	0	0	0	2
30時間以上40時間未満	51	3	43	4	1	0	0	0
40時間以上45時間未満	193	5	74	100	4	4	3	3
45時間以上50時間未満	81	0	11	56	10	2	1	1
50時間以上55時間未満	104	4	13	60	13	12	0	2
55時間以上	142	0	13	67	13	32	14	3
未回答	20	0	0	4	1	0	0	15
合計	623	30	162	295	42	50	18	26

【就業中の方にお伺いします】

問16 あなたは、現在のお仕事にどのような意義を感じていますか。（○はいくつでも）

年齢	回答者数	1 生活のため	2 社会人としての義務	3 社会参加のため	4 社会貢献のため	5 働くことが生きがい	6 自尊心を満たすため	7 自分の成長を実感するため	8 意義を特に感じていない	9 その他	不明
20歳代	52	46	19	12	14	9	3	10	0	2	0
30歳代	131	109	47	17	35	21	6	29	9	2	1
40歳代	148	133	61	23	42	25	12	23	6	7	3
50歳代	159	133	64	37	42	34	11	30	8	5	6
60歳以上	133	127	60	15	38	14	8	20	3	1	3
合計	623	548	251	104	171	103	40	112	26	17	13

問17 あなたは普段、料理や掃除、洗濯などの家事をしていますか。①～④の中からあてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）
またその理由をａ～ｊの中からあてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）

年齢	回答者数	1 よくしている	2 ときどきする	3 ほとんどしない	4 まったくしない	不明
20歳代	88	24	34	17	11	2
30歳代	144	25	64	37	12	6
40歳代	163	32	66	43	10	12
50歳代	177	33	62	49	9	24
60歳以上	244	50	78	53	27	36
合計	816	164	304	199	69	80

＜結婚の有無とのクロス集計＞

	回答者数	1　現在、結婚している(婚姻届を出し、入籍している)	2　事実婚の状態である	3　離別：以前結婚(事実婚を含む)していたが、離別した	4　死別：以前結婚(事実婚を含む)していたが、死別した	5　未婚：結婚(事実婚を含む)したことがない	不明
1　よくしている	164	93	2	24	7	38	0
2　ときどきする	304	248	0	16	1	38	1
3　ほとんどしない	199	168	0	2	1	28	0
4　まったくしない	69	50	1	1	1	16	0
不明	80	65	1	7	0	7	0
合計	816	624	4	50	10	127	1

＜子どもの有無とのクロス集計＞

	回答者数	1　子どもがいる	2　子どもはいない
1　よくしている	130	109	21
2　ときどきする	266	229	37
3　ほとんどしない	168	155	13
4　まったくしない	57	50	7
不明	73	65	8
合計	694	608	86

＜実際の労働時間とのクロス集計＞

	回答者数	30時間未満	30時間以上40時間未満	40時間以上45時間未満	45時間以上50時間未満	50時間以上55時間未満	55時間以上
1　よくしている	108	7	12	45	14	10	20
2　ときどきする	232	12	15	69	29	43	64
3　ほとんどしない	159	7	14	44	19	33	42
4　まったくしない	47	3	6	17	7	7	7
不明	57	3	4	18	12	11	9
合計	603	32	51	193	81	104	142

＜家事を「よくしている」「ときどきする」理由＞

年齢	回答者数	a. 自発的にしている	b. 話し合いの上でしている	c. 仕方なくしている
20歳代	59	36	8	15
30歳代	94	65	14	15
40歳代	106	71	11	24
50歳代	109	69	17	23
60歳以上	143	104	20	19
合計	511	345	70	96

＜家事を「ほとんどしない」「まったくしない」理由＞

年齢	回答者数	d. 仕事が忙しいからできない	e. 家事は妻の役割だと思うからしない	f. 格好悪いからしない	g. 面倒くさいからしない	h. 能力的に無理だからしない	i. 話し合いの上でしない
20歳代	25	3	2	0	16	1	3
30歳代	37	21	5	0	8	3	0
40歳代	46	18	12	0	8	7	1
50歳代	55	14	23	0	8	7	3
60歳以上	75	4	47	1	10	9	4
合計	238	60	89	1	50	27	11

【結婚または事実婚の状態の方にお伺いします】

問18 家計のお金のやりくり（何にいくら使うかを決めること）は、誰が行っていますか。あてはまるもの一つを選択してください。（○は一つだけ）

年齢	回答者数	1 主に自分	2 主に配偶者	3 2人で行っている	4 その他	不明
20歳代	29	3	15	11	0	0
30歳代	100	13	62	22	0	3
40歳代	130	18	78	33	0	1
50歳代	154	24	88	36	3	3
60歳以上	215	26	131	47	1	10
合計	628	84	374	149	4	17

【未就学児のいる方にお伺いします】

問19 あなたは、子どもの世話をしていますか。①～④の中からあてはまるもの一つを選択してください。（〇は一つだけ）
またその理由をａ～ｊの中からあてはまるもの一つを選択してください。（〇は一つだけ）

＜子どもの世話をしている＞

年齢	回答者数	1 よくしている	2 ときどきする	3 ほとんどしない	不明
20歳代	19	7	10	1	1
30歳代	66	25	24	12	5
40歳代	28	3	20	3	2
50歳代	0	0	0	0	0
60歳以上	0	0	0	0	0
合計	113	35	54	16	8

＜配偶者の就労形態とのクロス集計＞

	回答者数	1 民間企業などの正規社員	2 公務員、公社などの正規職員	3 パートタイマーなどの非正規雇用	4 自営業者(家族従事者を含む)・経営者	5 農林漁業者(家族従事者を含む)	6 その他の仕事	7 学生	8 年金生活	9 失業中・求職中	10 専業主夫・専業主婦	11 その他	不明
1 よくしている	**35**	**8**	**1**	**6**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**18**	**0**	**1**
20歳代	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0
30歳代	25	7	1	5	1	0	0	0	0	0	10	0	1
40歳代	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
50歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 ときどきする	**55**	**6**	**3**	**11**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**34**	**0**	**0**
20歳代	10	2	0	1	0	0	0	0	0	0	7	0	0
30歳代	24	2	2	5	1	0	0	0	0	0	14	0	0
40歳代	20	2	1	4	0	0	0	0	0	0	13	0	0
50歳代	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 ほとんどしない	**16**	**0**	**0**	**2**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1**	**11**	**0**	**1**
20歳代	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
30歳代	12	0	0	1	0	0	0	0	0	1	9	0	1
40歳代	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
50歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 まったくしない	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
20歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	**8**	**0**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**5**	**1**	**1**
20歳代	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
30歳代	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0
40歳代	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
50歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	114	14	4	20	3	0	0	0	0	1	68	1	3

＜子どもの世話を「する」「しない」理由＞

年齢	回答者数	a. 自発的にしている	b. 話し合いの上でしている	c. 仕方なくしている	d. 仕事が忙しいからできない	e. 子どもの世話は妻の役割だと思うからしない	f. 格好悪いからしない	g. 面倒くさいからしない	h. 能力的に無理だからしない	i. 話し合いの上でしていない	j. その他	不明
20歳代	19	12	3	2	0	0	0	0	0	0	1	1
30歳代	66	42	8	3	9	0	0	0	0	0	2	2
40歳代	28	16	7	2	2	0	0	0	0	0	1	0
50歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	113	70	18	7	11	0	0	0	0	0	4	3

問20 あなたは、これから子どもが生まれるとしたら育児休業を取得したいと思いますか。①か②のうち、あてはまるもの一つを選択してください。（〇は一つだけ）
またその理由をａ～ｉの中からあてはまるもの一つを選択してください。（〇は一つだけ）
＜育児休業を取得したいと思うか＞

年齢	回答者数	1　取得したい	2　取得しない	不明
20歳代	88	39	43	6
30歳代	144	52	85	7
40歳代	163	45	102	16
50歳代	177	68	69	40
60歳以上	244	75	59	110
合計	816	279	358	179

＜育児休業を取得する理由＞

年齢	回答者数	a. 子育てにかかわりたいから	b. 妻を助けたいから	c. その他
20歳代	40	25	13	2
30歳代	53	31	19	3
40歳代	48	27	21	0
50歳代	74	33	38	3
60歳以上	82	31	48	3
合計	297	147	139	11

＜育児休業を取得しない理由＞

年齢	回答者数	d. 自分が休業するほどではないと思うから	e. 有給休暇で対応できるから	f. 育児休業は妻が取得するものだから	g. 仕事の状況から取得は困難だから	h. 収入が減るから	i. その他
20歳代	42	7	7	2	12	10	4
30歳代	86	20	8	4	43	8	3
40歳代	104	17	11	3	57	7	9
50歳代	73	13	10	2	40	5	3
60歳以上	62	18	17	6	11	6	4
合計	367	75	53	17	163	36	23

【実際に介護にかかわっている、もしくはかかわったことのある方にお伺いします】

問21 介護を必要とした方は、あなたから見てどういう立場ですか。（○はいくつでも）

年齢	回答者数	1 自分の父親	2 自分の母親	3 配偶者の父親	4 配偶者の母親	5 その他	不明
20歳代	8	1	1	0	0	6	80
30歳代	17	5	3	3	0	6	127
40歳代	24	8	12	2	2	6	139
50歳代	63	29	35	11	12	3	114
60歳以上	129	47	85	18	32	10	115
合計	241	90	136	34	46	31	575

【実際に介護にかかわっている、もしくはかかわったことのある方にお伺いします】

問22 介護のストレスをどの程度感じましたか。（○は一つだけ）

年齢	回答者数	1 とても感じた	2 少し感じた	3 あまり感じなかった	4 全く感じなかった	不明
20歳代	8	4	2	2	0	0
30歳代	17	6	4	4	2	1
40歳代	24	10	4	7	0	3
50歳代	63	17	18	21	3	4
60歳以上	129	35	43	44	4	3
合計	241	72	71	78	9	11

【実際に介護にかかわっている、もしくはかかわったことのある方にお伺いします】

問23 介護サービスを利用しましたか。（〇は一つだけ）

年齢	回答者数	1 利用した	2 利用していない	不明
20歳代	8	4	4	0
30歳代	17	11	4	2
40歳代	24	13	8	3
50歳代	63	38	20	5
60歳以上	129	90	32	7
合計	241	156	68	17

【結婚または事実婚の状態の方にお伺いします】

問24 配偶者等との会話についてお伺いします。

ア）あなたは、配偶者等とよく会話をしていますか。（〇は一つだけ）

年齢	回答者数	1 はい	2 いいえ	不明
20歳代	29	28	1	0
30歳代	100	91	9	0
40歳代	130	107	22	1
50歳代	154	115	34	5
60歳以上	215	163	46	6
合計	628	504	112	12

イ）その理由で、あてはまる番号すべてをご記入ください。

「①はい」と回答した方（〇はいくつでも）

年齢	回答者数	1 パートナーとしてずっと仲良くしたいから	2 夫婦円満が家族の幸せにつながるから	3 言わないとわからないこともあるから	4 一人の時間を大切にしたいから	5 時間帯が合わないから	6 そもそも話す気が起こらないから	7 特に話したいことがないから	8 話しても聞いてもらえないから	9その他	不明
20歳代	28	24	20	17	1	0	0	0	0	2	0
30歳代	91	68	65	55	2	2	0	0	0	4	0
40歳代	107	69	77	65	0	0	0	0	0	2	1
50歳代	115	88	89	72	1	1	0	1	1	3	0
60歳以上	163	107	118	104	3	1	0	0	0	6	0
合計	504	356	369	313	7	4	0	1	1	17	1

「②いいえ」と回答した方（○はいくつでも）

年齢	回答者数	1 パートナーとしてずっと仲良くしたいから	2 夫婦円満が家族の幸せにつながるから	3 言わないとわからないこともあるから	4 一人の時間を大切にしたいから	5 時間帯が合わないから	6 そもそも話す気が起こらないから	7 特に話したいことがないから	8 話しても聞いてもらえないから	9 その他	不明
20歳代	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
30歳代	9	0	0	0	1	5	0	2	2	2	0
40歳代	22	0	1	0	2	14	4	8	3	3	0
50歳代	34	0	0	1	4	5	7	18	4	4	1
60歳以上	46	0	2	6	2	5	8	27	8	6	1
合計	112	0	3	7	9	30	19	55	17	16	2

問25 あなたは、平日や休日の仕事以外の時間をどのように過ごしていますか。
また、希望としては、どのように過ごしたいとお考えですか。（それぞれ該当する欄に○をご記入ください，○はいくつでも）
＜平日の仕事以外の時間の過ごし方（実際）＞

年齢	回答者数	1 家族で団らんをする	2 掃除、洗濯、食事作りなど家事をする	3 子どもの世話をする	4 地域活動等にかかわる	5 自己研さんのために勉強する	6 自分の趣味にあてる	7 ランニングやウォーキングなどからだを動かす	8 友人と過ごす	9 テレビを観るなど、のんびりする	10 その他	不明
20歳代	88	26	24	12	3	16	40	14	23	50	3	14
30歳代	144	47	29	31	6	21	35	23	12	68	1	30
40歳代	163	55	26	23	4	17	30	27	6	93	7	24
50歳代	177	62	33	12	7	9	34	25	9	108	3	31
60歳以上	244	71	43	8	37	34	89	72	25	127	3	63
合計	816	261	155	86	57	97	228	161	75	446	17	162

＜平日の仕事以外の時間の過ごし方（希望）＞

年齢	回答者数	1 家族で団らんをする	2 掃除、洗濯、食事作りなど家事をする	3 子どもの世話をする	4 地域活動等にかかわる	5 自己研さんのために勉強する	6 自分の趣味にあてる	7 ランニングやウォーキングなどからだを動かす	8 友人と過ごす	9 テレビを観るなど、のんびりする	10 その他	不明
20歳代	88	26	14	19	7	28	38	34	30	33	1	20
30歳代	144	63	24	39	20	45	69	50	26	51	2	30
40歳代	163	71	21	32	21	46	59	53	14	70	0	25
50歳代	177	61	18	19	22	44	49	52	20	54	3	45
60歳以上	244	49	17	15	27	41	56	50	35	43	3	130
合計	816	270	94	124	97	204	271	239	125	251	9	250

＜休日の仕事以外の時間の過ごし方（実際）＞

年齢	回答者数	1 家族で団らんをする	2 掃除、洗濯、食事作りなど家事をする	3 子どもの世話をする	4 地域活動等にかかわる	5 自己研さんのために勉強する	6 自分の趣味にあてる	7 ランニングやウォーキングなどからだを動かす	8 友人と過ごす	9 テレビを観るなど、のんびりする	10 その他	不明
20歳代	88	36	26	16	5	15	46	18	31	59	1	11
30歳代	144	83	53	55	13	17	62	30	17	86	1	10
40歳代	163	79	41	50	9	23	63	37	12	107	7	11
50歳代	177	71	53	12	24	18	89	44	26	102	9	15
60歳以上	244	82	49	13	46	37	112	80	26	137	7	54
合計	816	351	222	146	97	110	372	209	112	491	25	101

＜休日の仕事以外の時間の過ごし方（希望）＞

年齢	回答者数	1 家族で団らんをする	2 掃除、洗濯、食事作りなど家事をする	3 子どもの世話をする	4 地域活動等にかかわる	5 自己研さんのために勉強する	6 自分の趣味にあてる	7 ランニングやウォーキングなどからだを動かす	8 友人と過ごす	9 テレビを観るなど、のんびりする	10 その他	不明
20歳代	88	32	21	19	11	24	46	40	35	32	0	20
30歳代	144	57	31	42	29	46	72	52	39	60	2	27
40歳代	163	65	32	25	35	54	88	64	29	68	0	22
50歳代	177	64	33	23	41	51	68	61	36	51	5	42
60歳以上	244	43	18	17	40	33	63	47	37	49	5	120
合計	816	261	135	126	156	208	337	264	176	260	12	231

問26 あなたは、この１年間に、次のような悩みや困りごとがありましたか。あてはまるものすべてを選択してください。（○はいくつでも）

その中で、もっとも大きな悩みや困りごとに一つだけ◎をつけてください。（◎は一つだけ）

＜悩みや困りごと（○はいくつでも）＞

年齢	回答者数	1 仕事、雇用、転職、再就職、起業	2 健康、病気、障害	3 収入の少なさ、家計のやりくり、借金	4 友人、知人との関係	5 職場の人間関係	6 恋愛、結婚、離婚、夫婦の関係	7 育児、子育て、教育	8 親子関係	9 介護に関すること	10 性格、容姿	11異性・配偶者との性に関する悩み	12 その他	13 特に悩みや困りごとはない	不明
20歳代	88	23	22	21	11	15	12	2	7	1	9	4	0	17	19
30歳代	144	52	24	40	9	25	19	26	5	1	10	7	3	15	16
40歳代	163	62	44	32	8	31	16	22	14	2	12	12	4	24	23
50歳代	177	58	64	39	13	31	13	20	19	18	6	6	1	19	21
60歳以上	244	48	61	45	18	17	13	8	26	34	7	11	9	70	28
合計	816	243	215	177	59	119	73	78	71	56	44	40	17	145	107

＜もっとも大きな悩みや困りごと（◎は一つだけ）＞

年齢	回答者数	1 仕事、雇用、転職、再就職、起業	2 健康、病気、障害	3 収入の少なさ、家計のやりくり、借金	4 友人、知人との関係	5 職場の人間関係	6 恋愛、結婚、離婚、夫婦の関係	7 育児、子育て、教育	8 親子関係	9 介護に関すること	10 性格、容姿	11 異性・配偶者との性に関する悩み	12 その他	13 特に悩みや困りごとはない
20歳代	52	22	2	11	1	2	2	3	1	0	2	0	4	2
30歳代	96	29	9	28	0	13	3	2	3	3	0	3	0	3
40歳代	113	36	19	24	1	5	5	12	3	3	1	1	2	1
50歳代	119	28	24	23	0	16	2	4	3	10	1	0	7	1
60歳以上	122	16	52	20	0	2	3	3	6	8	0	0	6	6
合計	502	131	106	106	2	38	15	24	16	24	4	4	19	13

【問26で、◎をつけた方にお伺いします】

問27 あなたは、その悩みや困りごとについて、誰かに相談したいと思ったことがありますか。（○は一つだけ）

年齢	回答者数	1 あった	2 なかった	不明
20歳代	52	33	17	2
30歳代	96	62	31	3
40歳代	113	65	45	3
50歳代	119	81	37	1
60歳以上	122	71	47	4
合計	502	312	177	13

【問26で、◎をつけた方にお伺いします】

問28 あなたは、誰に相談しましたか。（〇はいくつでも）

年齢	回答者数	1 配偶者	2 交際相手	3 父親	4 母親	5 子ども	6 兄弟姉妹	7 友人	8 先輩・後輩	9 職場の上司	10 職場の相談窓口	11 職場外の相談窓口	12その他	13 誰にも相談しなかった	不明
20歳代	52	8	8	8	15	0	4	20	7	1	0	3	0	15	3
30歳代	96	40	4	10	20	0	7	13	10	12	0	0	7	17	10
40歳代	113	40	2	10	8	2	3	17	12	9	1	2	3	31	14
50歳代	119	57	0	3	8	2	16	25	14	10	4	7	6	27	10
60歳以上	122	53	1	1	1	14	14	13	2	0	0	5	17	21	19
合計	502	198	15	32	52	18	44	88	45	32	5	17	33	111	56

【問26で、◎をつけた方にお伺いします】

問29 お差し支えなければ、もっとも大きな悩みや困りごとをご記入ください。

〈自由記述〉

問30 あなたは、男であることがつらいと感じたことがありますか。あてはまるものすべてを選択してください。（〇はいくつでも）

年齢	回答者数	1 何かにつけ「男のくせに」と言われることがつらい	2 妻子を養うのは男の責任だと言われることがつらい	3 リーダーシップ(決断力)を求められることがつらい	4 常に「強さ」を求められることがつらい	5 親の面倒を看なければならないことがつらい	6 家を継がなければならないことがつらい	7 その他	8 特につらいと感じたことはない	不明
20歳代	88	13	3	6	8	2	3	1	59	3
30歳代	144	9	12	19	15	8	6	8	90	6
40歳代	163	10	15	25	18	8	11	0	105	6
50歳代	177	7	8	24	22	10	5	6	117	8
60歳以上	244	10	8	11	13	13	9	4	185	17
合計	816	49	46	85	76	41	34	19	556	40

問31 以前に比べ、男女共同参画に関するあなたの意識や考え方に変化はありましたか。（〇は一つだけ）

年齢	回答者数	1 変化はない	2 変化があった	3 よくわからない	不明
20歳代	88	33	13	41	1
30歳代	144	59	19	65	1
40歳代	163	79	36	44	4
50歳代	177	91	47	36	3
60歳以上	244	114	63	60	7
合計	816	376	178	246	16

【問31で、「①変化はない」と回答した方にお伺いします】

問32 それはどのような心境ですか。（〇は一つだけ）

年齢	回答者数	1 従来から女性よりも男性の方が上と思っている	2 従来から男性よりも女性の方が上と思っている	3 以前から男女は平等と考えていたので特に変化は感じていない	4 その他	不明
20歳代	33	3	2	24	4	0
30歳代	59	9	2	43	5	0
40歳代	79	12	2	59	6	0
50歳代	91	10	1	71	8	1
60歳以上	114	12	1	91	9	1
合計	376	46	8	288	32	2

【問31で、「②変化があった」と回答した方にお伺いします】

問33 それは、どのような変化ですか。（〇はいくつでも）

年齢	回答者数	1 仕事とともに家事・育児をすることを求められ男性は大変になったと思う	2 女性は強いと思っていたがますます強くなったと思う	3 女性が職場に進出してきて自分の領分を侵されているように感じる	4 セクシュアルハラスメントにならないよう女性に対する言動を意識し始めた	5 男性は仕事だけでなく仕事以外の時間を大切にした方がいいと思うようになった	6 男性が家事をすることは必要なことだと思うようになった	7 男性が子育てにかかわることは必要なことだと思うようになった	8 女性が結婚、出産後も仕事を続けることはいいことだと思うようになった	9 仕事で能力を発揮する女性が増えてきているのはいいことだと思うようになった	10 女性の管理職が登場してきているのはいいことだと思うようになった	11 その他	不明
20歳代	13	1	3	0	2	8	5	7	7	8	5	2	1
30歳代	19	3	6	0	5	6	9	9	9	10	7	2	1
40歳代	36	6	9	2	12	14	13	17	16	21	16	3	1
50歳代	47	12	9	1	26	17	14	16	19	27	11	4	1
60歳以上	63	16	10	1	26	23	27	21	25	46	28	0	0
合計	178	38	37	4	71	68	68	70	76	112	67	11	4

問34 あなたはコムズを知っていますか。また、利用したことがありますか。あてはまる番号を選んで〇をつけてください。（〇は一つだけ）

年齢	回答者数	1 利用したことがある	2 知っているが、利用したことはない	3 知らなかった	不明
20歳代	88	6	19	62	1
30歳代	144	18	40	81	5
40歳代	163	24	52	82	5
50歳代	177	28	49	98	2
60歳以上	244	20	85	130	9
合計	816	96	245	453	22

問35 あなたはどのような内容の講座やセミナーであれば参加したいと思いますか 。（〇はいくつでも）

年齢	回答者数	1 生き方を考える	2 ライフプランを考える	3 仕事に役立つ	4 地域で役立つ	5 コミュニケーション力をつける	6 子育てを考える	7 親子関係を考える	8 パートナーシップを考える	9 介護について学ぶ	10 健康増進を学ぶ	11 からだを動かす	12 仲間をつくれる	13 子どもと参加できる	14 パートナーと参加できる	15 その他	不明
20歳代	88	18	18	32	8	23	18	5	7	8	7	23	11	15	12	6	10
30歳代	144	26	29	42	14	27	26	17	7	12	19	29	28	40	21	10	15
40歳代	163	34	37	42	29	25	12	12	9	16	30	29	25	27	23	8	26
50歳代	177	55	50	23	27	19	8	12	7	37	35	37	26	5	30	11	21
60歳以上	244	50	40	14	61	17	2	16	10	44	99	54	48	4	29	14	47
合計	816	183	174	153	139	111	66	62	40	117	190	172	138	91	115	49	119

問36 講座やセミナーに参加しやすいのはいつですか 。（〇はいくつでも）

年齢	回答者数	1 平日の午前	2 平日の午後	3 平日の夜間	4 土曜日の午前	5 土曜日の午後	6 土曜日の夜間	7 日・祝日の午前	8 日・祝日の午後	9 日・祝日の夜間	10 その他	不明
20歳代	88	3	6	11	20	25	14	23	32	4	7	10
30歳代	144	7	10	28	31	39	22	40	35	14	13	15
40歳代	163	8	7	27	26	49	27	33	48	14	13	19
50歳代	177	6	8	39	25	47	19	42	52	12	12	15
60歳以上	244	45	74	26	27	47	11	26	41	8	18	49
合計	816	69	105	131	129	207	93	164	208	52	63	108

編集・発行
㈶松山市男女共同参画推進財団
〒790-0003　愛媛県松山市三番町六丁目４－２０
ＴＥＬ　０８９（９４３）５７７７
ＦＡＸ　０８９（９４３）０４６０
e-mail　coms@coms.or.jp
平成 25 年３月発行